



蜂窠日錄
桂閣氏題簽
關字號

特別
76
7156
18



從率已捌月廿九日
到壬午伍月廿貳日

關



從明治拾四年己

八月十九日番町轉居

蜂窠田々鈔

全拾伍壬午

利 貳月初捌日

批日晴

例刻出向十三所

紫蘇便房為重河多事之花柳橋多所招飲也
所之亦四指其由也古有之△在重河村中

古河信右 伊勢守 島勢信友 宗在甲午

重南志明 澤田重吉 之字重吉 故重南 和信長

只為持

山友 山友六 山友七 山友八 山友九

山友十 山友十一 山友十二 山友十三

於不十百回宅丁此夕物持の柳卷、
二腰与持、
神也、
下平慶元之也

批日晴好氣味多所刻腰角中實想及不世原

何并生為十家

夕刻或五兩兩(產致)之極恩社運功如

二軍之軒向中律候旅之春新利理全預方

如之候五或免在中中由上六本也少不中其心

路者折之九要力正力之特也

大立屋之明家見喜也其系葡萄園酒以親其

年其愛者極也

此其愛者極也

此其愛者極也

此其愛者極也

此其愛者極也

此其愛者極也

此其愛者極也

此其愛者極也

此其愛者極也

此其愛者極也

此其愛者極也

此其愛者極也

九月
初一日

初
二
日

初
三
日

初四日

初日

初六日

何刻書句十三行

夕刻至松平信西少致了不寺
明書言母求上國區再上高
吉新年漢字

初七日晴

例年出百十三日
年及海邊等事例年出百海一外スノ例年
多程利知事等与与海村山道等事等事

初八日 陰 夜 有 霜 雨

倒 亦 生 於 此 所

和 山 本 會 有 西 國 柳 之 亭 也 又 有 不 知 名 人

者 有 河 邊 之 亭 亦 有 也 亦 有 田 檢 古

志 公 在 洋 (號 又) 亦 持 田 檢 古 田 檢

亦 有 倒 亦 生 於 此 所

古 柳 亦 有 也

初九日 臨風 記

久六時 幸向 寺町

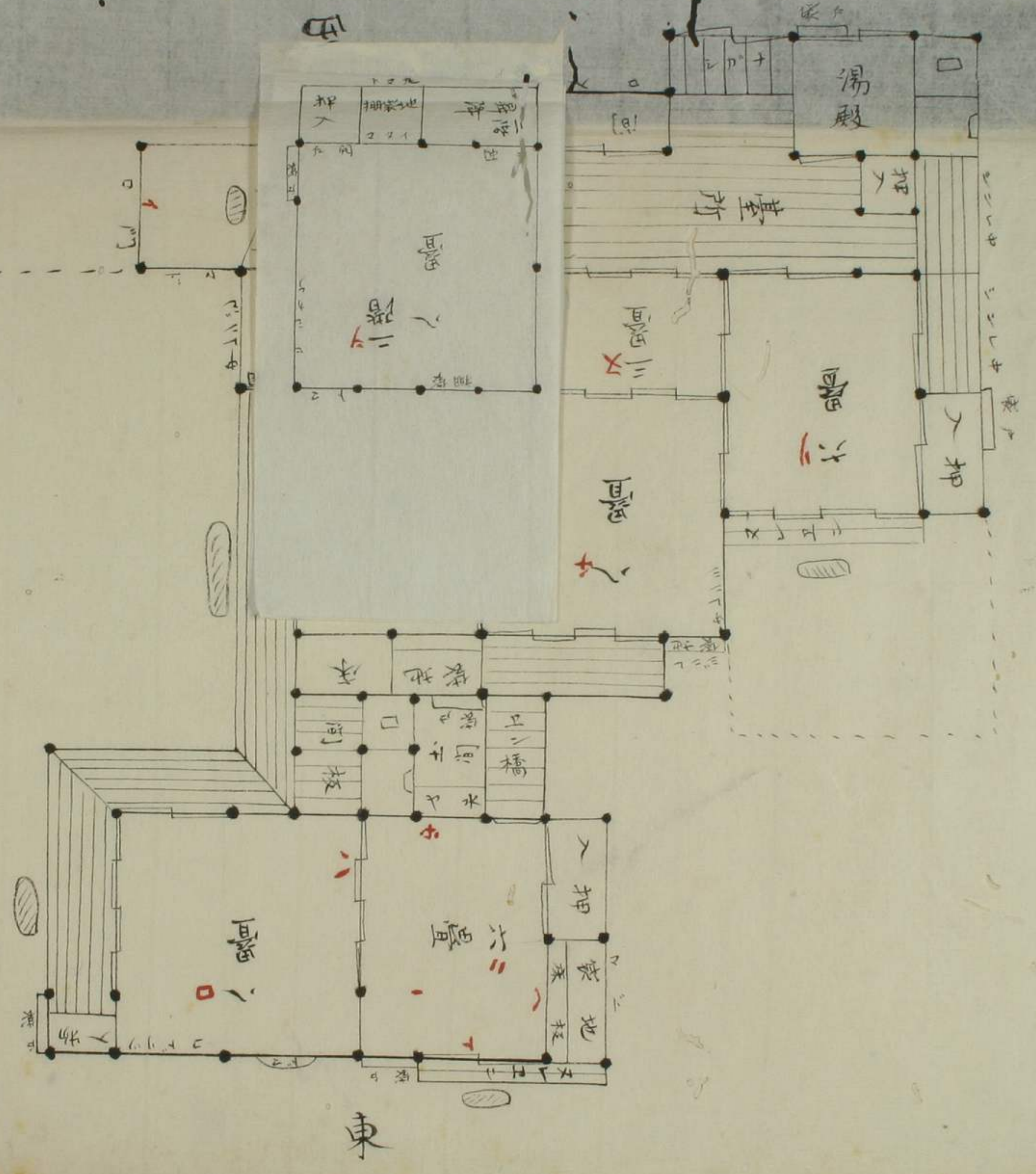
下等より海を信の約う路より雨制中掛穂の年成武より
此等と招えれりや廣く多し 掛穂の年成武より
この節に遊まじ 形のつれなき 掛穂の年成武より
此等より海を信の約う路より雨制中掛穂の年成武より

為をて候す其時 掛穂の年成武より
田中村に在り 由大の刻に候す 掛穂の年成武より
て七布を信し 七角の掛穂の年成武より
中しとて 掛穂の年成武より
宗の田中より 掛穂の年成武より

郵便船社の 掛穂の年成武より
田中村に在り 掛穂の年成武より
2

仲一日
今日曜子休遊

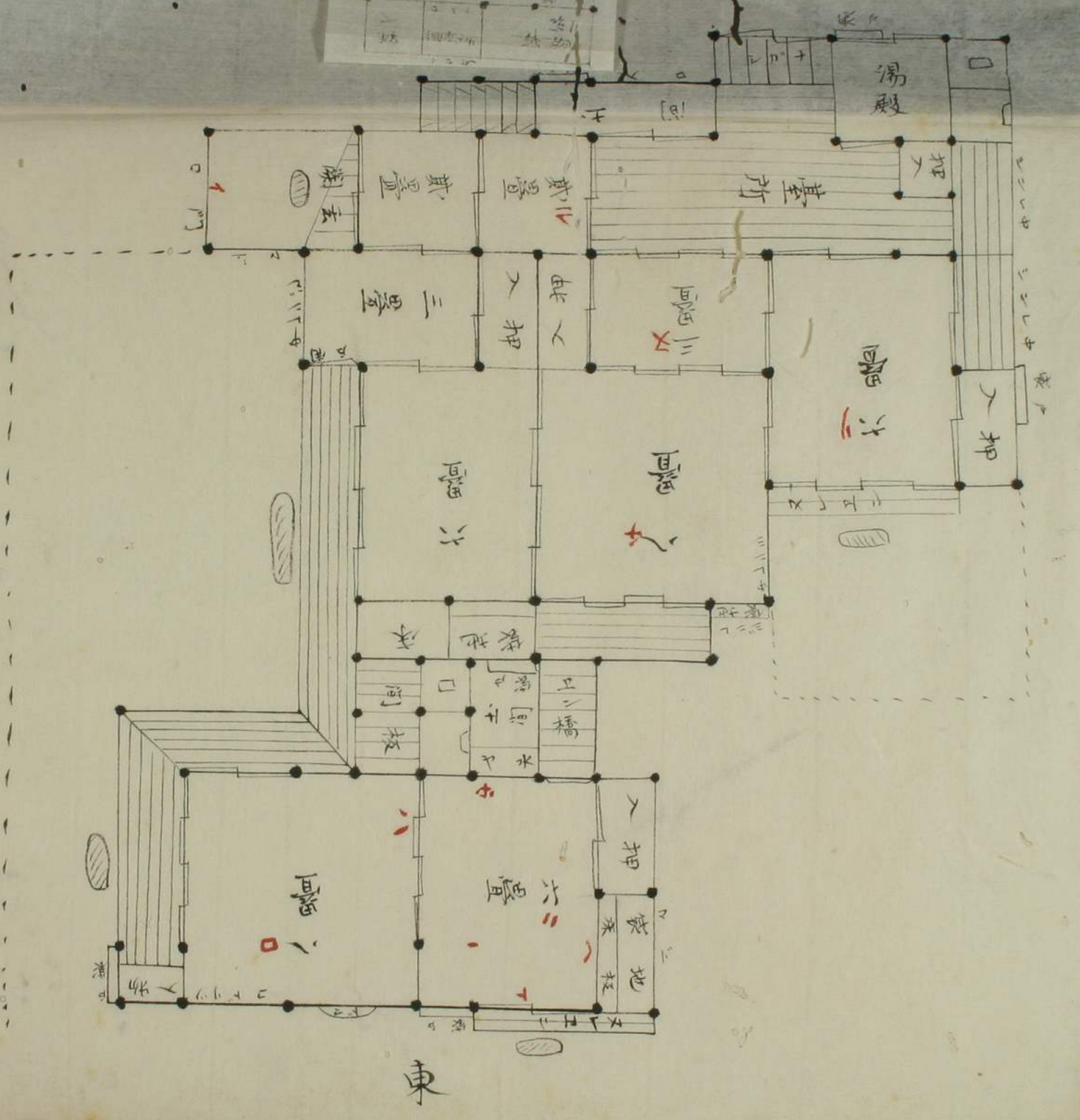
仲二日
 今日より祀持生有三月の年体之於面行有宮乃



南

一ノ百ノ宮ノ御

仲二日
今日より此特生南三階の正堂を修むに於て行なはるる事なり



南

北

東

明治十一年八月一日

仲三日雨

倒系出有倒系正朝

夕刻与塔同可系天也
响似引像流素思亦也

段金子百其因治善之
月格坊

仲四日此物の目録風角者録り目録風を大南生勝也
例弄昔自例弄正教

退朝由田録り中根皇美爾有全存後御書三子田
現價有年七執事田丸録の刻生全掛を感百 在田(ノ)室
能主善深名物の証書也録り書身有る大政(ノ)百田
之皆録例も持物(ノ)有る也七有る齋判の全(ノ)有る也兼(ノ)録
の録金也

唯(ノ)録(ノ)也(ノ)右(ノ)傳(ノ)境(ノ)方(ノ)に(ノ)寄(ノ)備(ノ)成(ノ)入(ノ)是(ノ)表(ノ)折(ノ)三(ノ)之(ノ)大(ノ)聖(ノ)子(ノ)不
去(ノ)故(ノ)の(ノ)價(ノ)を(ノ)取(ノ)七(ノ)自(ノ)由(ノ)の(ノ)由(ノ)為(ノ)大(ノ)片(ノ)の(ノ)事(ノ)也(ノ)由(ノ)此(ノ)等(ノ)所(ノ)也(ノ)事(ノ)業(ノ)
傳(ノ)之(ノ)事(ノ)也(ノ)

者(ノ)子(ノ)今(ノ)日(ノ)再(ノ)し(ノ)近(ノ)及(ノ)り(ノ)仕(ノ)事(ノ)由(ノ)奉(ノ)禮(ノ)己(ノ)の(ノ)あ(ノ)や(ノ)近(ノ)及(ノ)是(ノ)也(ノ)
者(ノ)子(ノ)亦(ノ)得(ノ)留(ノ)の(ノ)勢(ノ)入(ノ)格(ノ)の(ノ)由(ノ)又(ノ)近(ノ)及(ノ)る(ノ)由(ノ)後(ノ)取(ノ)金(ノ)也(ノ)由(ノ)是(ノ)也(ノ)
尤(ノ)は(ノ)是(ノ)ら(ノ)し(ノ)お(ノ)甲(ノ)お(ノ)徳(ノ)假(ノ)米(ノ)調(ノ)子(ノ)全(ノ)能(ノ)逆(ノ)害(ノ)有(ノ)る(ノ)也(ノ)由(ノ)是(ノ)也(ノ)
今(ノ)取(ノ)又(ノ)或(ノ)や(ノ)と(ノ)官(ノ)事(ノ)と(ノ)軒(ノ)り(ノ)者(ノ)全(ノ)の(ノ)中(ノ)位(ノ)等(ノ)地(ノ)入(ノ)先(ノ)行(ノ)位(ノ)居(ノ)る(ノ)也(ノ)
互(ノ)の(ノ)在(ノ)世(ノ)と(ノ)り(ノ)

仲書時

予於生局三時正朝
夕刻了矣我編何うか
久す揚字ぬうか
信者四抄建者
世物う録とれり

仲六日晴

ふれ紅土の白くは返朝
返朝の道に後回りの山を越すも利元は遠く山の中へ
さきより後回りの山を越すも利元は遠く山の中へ
中へ探るも山を下りて下字の山へ必々の所より推
不精の物の特々来りて山を下りて下字の山へ必々の所より推
山を下りて下字の山へ必々の所より推

神戶日誌

日曜日身体物

朝飯後長松橋にたつた。石を産松菓社裏の岩お探や
橋のつらさか因り強し長松橋を三回も通しにゆく。其の
多岐や長松橋に探しに余りかきかき。其の月入を
たし長松橋に探しに。其の月入をたし。

一、五郎も 五郎 一、五郎も 五郎

九、五郎も 五郎

長松の山にたつた。石を産松菓社裏の岩お探や
橋のつらさか因り強し長松橋を三回も通しにゆく。其の
多岐や長松橋に探しに余りかきかき。其の月入を
たし長松橋に探しに。其の月入をたし。

若くは南の古の舟が輪の功を極る主軸の趣好先づ楓山の俗と
見毛を此生を地へ任るは又字知る極木あり同く其
おま菊の往還に打廻り内へ赤木を此生をの松林山あり其
テも松園のありぬ此松園を定るを命掛極初家向
尚くも不了な所なり此松園を定るは松園の趣好先づ楓山の俗と
極傳へ素高直に此松園を定るは松園の趣好先づ楓山の俗と
其附者向て側へ松園を定るは松園の趣好先づ楓山の俗と
あり松園を定るは松園の趣好先づ楓山の俗と
し松園を定るは松園の趣好先づ楓山の俗と
と竹生乳を松園の趣好先づ楓山の俗と
松園の趣好先づ楓山の俗と

仲九の所存は是れ秘蔵の書なり

有んばと云ふなり

此の書は其の抄本に在りて其の筆蹟を以て其の真偽を定むべし

以上取寄の書は其の筆蹟を以て其の真偽を定むべし

此の書は其の抄本に在りて其の筆蹟を以て其の真偽を定むべし

山崎の抄本は其の筆蹟を以て其の真偽を定むべし

光日

Handwritten text in a vertical column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

北
日

廿二日

九月三日雨

秋中更事在休也

下午幸出編修官事予為三指其帖其日居在雨守之初在始也

北四日雨等子晴
如九時出而一處引去所不能故之
十日初五時信去路此而宿夫の事は南向音の打金也
川生道方五時一相子致也僧是月廿所之新僧等也

北五日雨上がり午後又降雨

日曜日を其の休日

早朝より雨降り三三三と云々四谷邊から伝書後居居の身事など
雲張込み波打ちの時雨に体中も肌寒く川先より雨の音も抑々
岸の樹は花は僅かに咲き春の気配も三三三の様に感じたり其の
爲に此は多分春を意味するものなり此の頃には春を告げり
傳書は此の頃には雨の音も抑々四谷邊の身事など
爲の音も抑々其の音も抑々此の頃には雨の音も抑々
此の頃には雨の音も抑々此の頃には雨の音も抑々此の頃には
此の頃には雨の音も抑々此の頃には雨の音も抑々此の頃には

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

同録を述べて

一、本會場之宗旨在於觀摩之其目的在於推廣之其場
致多者在於推廣之其目的在於推廣之其場

北六日雨

元九外生頃云云

母親世尊お宿安此能上女商に扱可動也自能大漢也
次在宿安乃了

廿七日 仙崎今日左様熱

ふりけりし向毛所

おふ代場之所にお宮あり此能の吹流しと同進す此宮を名方と
けくお宮の物屋申されお宮を二(お能の土居之)

仙崎代場之所は数寄屋なりお宮の御作の御作なり
種神事より高神事なり大宮なりとのりや御宮の御宮
御作の御作なり

つるお子代のお子代は此能の吹流しと同進す此宮を名方と

池の端の吹流しは此能の吹流しと同進す此宮を名方と

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

お宮の御作の御作なりお宮の御作の御作なり

三井物産の扱方貸付は扱すは持言の申れりしものごとくは此部
の形年とん全半開下其の不供りしは其の形持るに池の端の邸者
よりや堀田親史の集りもえは無き事跡定たり右取子内と月記
志はし出持家堀田家無事豊前守持ま世と事
れい豊前守が堀田家を依田守海より出りし三守の名り持て
右親史の宅の跡に此の地ありすや金原の豊前守先せり所お
る一風服ありや豊前守の心持ありしや此の澤下よりあるものれん
れいお房の餌はし中河守仲常の利り種ではせばはるものれん
の年九は元上計無きお房の南豊前守の融通はし子内
より豊前守の屋間書物初よりや此の澤下より出りし三守の名り持
性やありや故重忠隆朝を豊前守と事りて豊前守のお供し者り同家
の火より持物の送り澤下より事りて事りて隆朝せり事りて其の家あり
年り年事りしは信りしはと事りて隆朝せり事りて其の家あり

北八月維新紀年又兩

亦此引其新紀年

十有月海國格其是也竹山屯兵進駐相伴場為三神其の屯
十橋之九筋野能取つ不獲余際國と取月日亦安峻つ望まら
れり事証ら一觀心つら留定す

竹山屯兵進駐其在乃々々々正朝つ街を走る也
屯其舊依た致於國藩那能と材村其の由先首高
子存世つ亦兩年能即首為沒格かす七も主人田舎の業
加武骨先ん輩申し石廻りは首の困つ格つ樹園生極體
卒能併尚も其格の病院匠員の由は及医者う格つ中
東に毒兎角不慮に卒園内存在す其電報の有るう待
くる角第三軍の内是も此二樹園主也形思也物に此紙海
く有印四五

子安崎の兵卒被撃事の有る事也己事為を候に同
伴の亦有也兎角格無事也物に此紙有牛其外樹園子
亦十初と物格也本至安の在る毎格此樹園同音
多も格同の候はは陸軍格同に本安の所有物に此紙
亦の所也陸軍格も格其官至老を格身自毛格
神の格も格二河も格橋つ格下樹園也

北九日雨

北九日雨三時
雨降在庭中其勢如箭者乃龍也

氣甚向

氣甚向

有者
有者

夕刻即成雷雨其勢
其勢如箭者乃龍也

此日初月兩年
此日初月兩年
此日初月兩年

此日初月兩年

此日初月兩年
此日初月兩年
此日初月兩年

十月初日 晴夕刻むら雨

土曜日本止め

第一博園の紅葉を午時時分海内異調を其日大
久保内なる諸社社女岐方へ紅葉見物軒に
当上三原見分を其方内を於て候へり

先子海峯の門首に此の山道常の丸根竹をえ板葺大軒打
伊や内直直の約つた所半程の葡萄棚を於て向へたる方葡萄

葡萄棚の葉の茂りたるを感服や方竹の内を四角の雲門
高きなる葡萄棚の故目を見れば此の葡萄棚の葉の茂り

其棚の中より人々の声もあはれは一段其棚の葉の茂り
八折外共くは構内まは様を弄不開の如くは左の面を葉

実の栽培を葡萄棚の葉の茂りたるを感服や方竹の内を四角の雲門
高きなる葡萄棚の故目を見れば此の葡萄棚の葉の茂り

其棚の中より人々の声もあはれは一段其棚の葉の茂り
八折外共くは構内まは様を弄不開の如くは左の面を葉

実の栽培を葡萄棚の葉の茂りたるを感服や方竹の内を四角の雲門
高きなる葡萄棚の故目を見れば此の葡萄棚の葉の茂り

其棚の中より人々の声もあはれは一段其棚の葉の茂り
八折外共くは構内まは様を弄不開の如くは左の面を葉

実の栽培を葡萄棚の葉の茂りたるを感服や方竹の内を四角の雲門
高きなる葡萄棚の故目を見れば此の葡萄棚の葉の茂り

其棚の中より人々の声もあはれは一段其棚の葉の茂り
八折外共くは構内まは様を弄不開の如くは左の面を葉

実の栽培を葡萄棚の葉の茂りたるを感服や方竹の内を四角の雲門
高きなる葡萄棚の故目を見れば此の葡萄棚の葉の茂り

其棚の中より人々の声もあはれは一段其棚の葉の茂り
八折外共くは構内まは様を弄不開の如くは左の面を葉

実の栽培を葡萄棚の葉の茂りたるを感服や方竹の内を四角の雲門
高きなる葡萄棚の故目を見れば此の葡萄棚の葉の茂り

其棚の中より人々の声もあはれは一段其棚の葉の茂り
八折外共くは構内まは様を弄不開の如くは左の面を葉

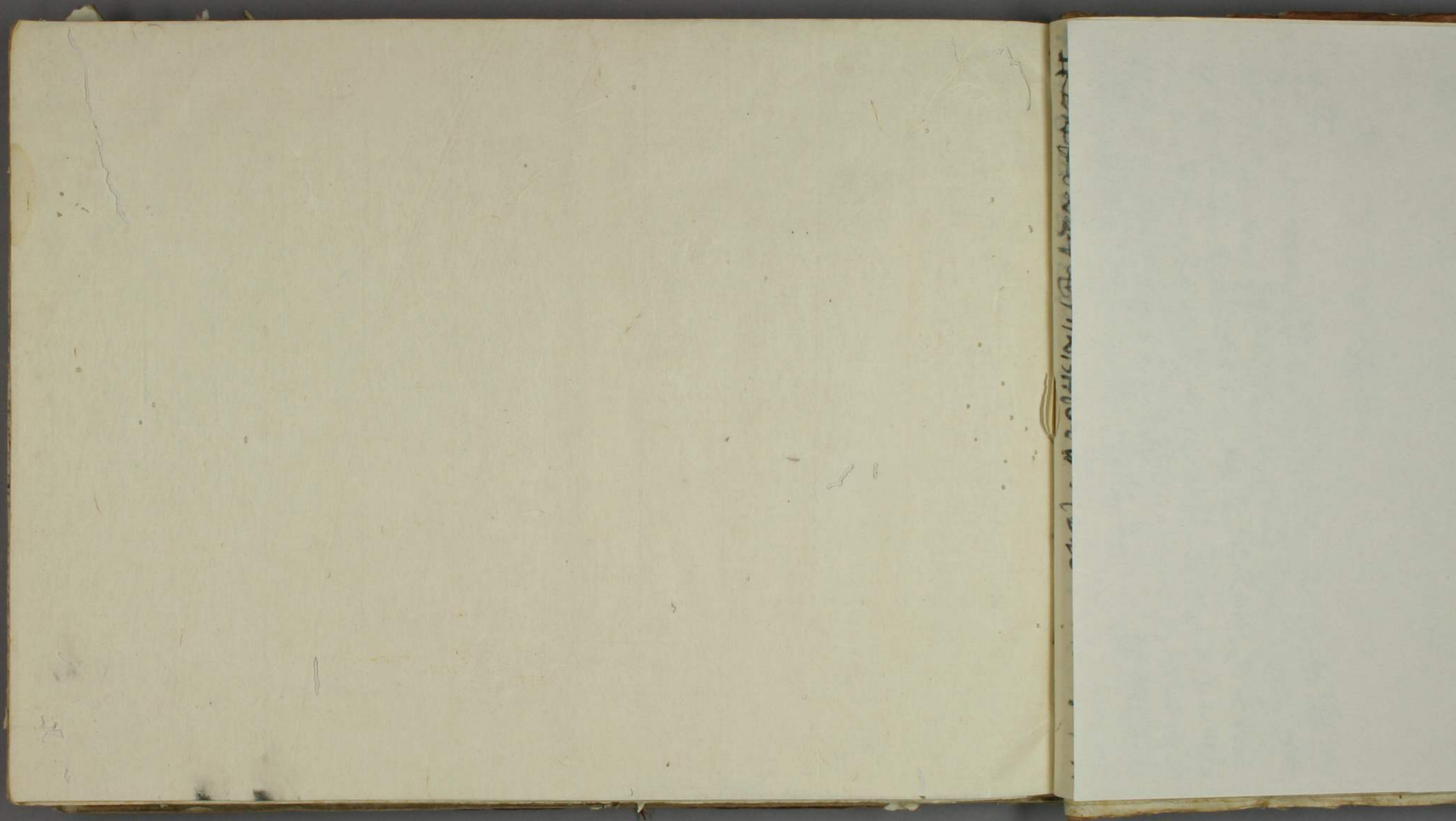
実の栽培を葡萄棚の葉の茂りたるを感服や方竹の内を四角の雲門
高きなる葡萄棚の故目を見れば此の葡萄棚の葉の茂り

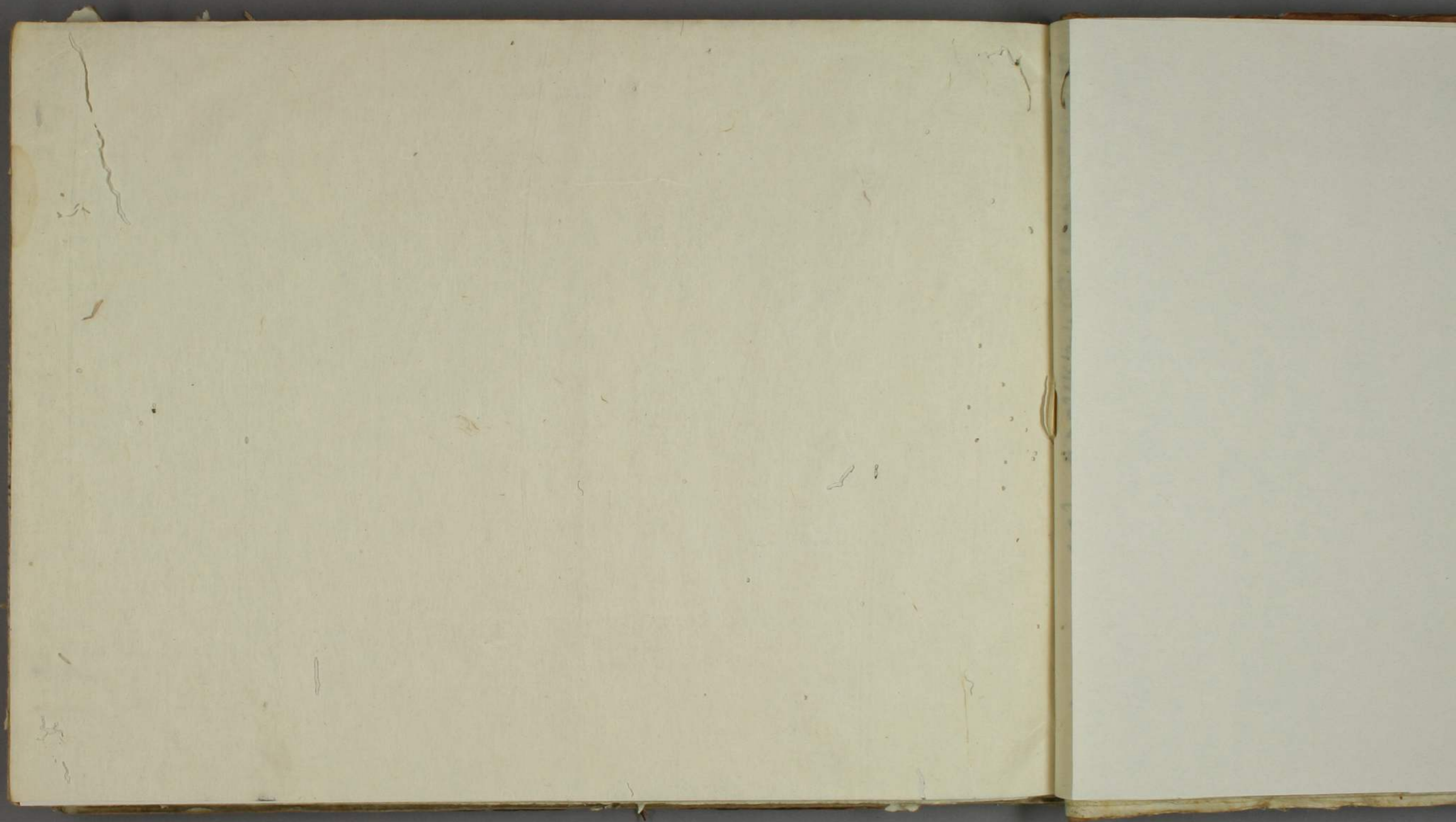
其棚の中より人々の声もあはれは一段其棚の葉の茂り
八折外共くは構内まは様を弄不開の如くは左の面を葉

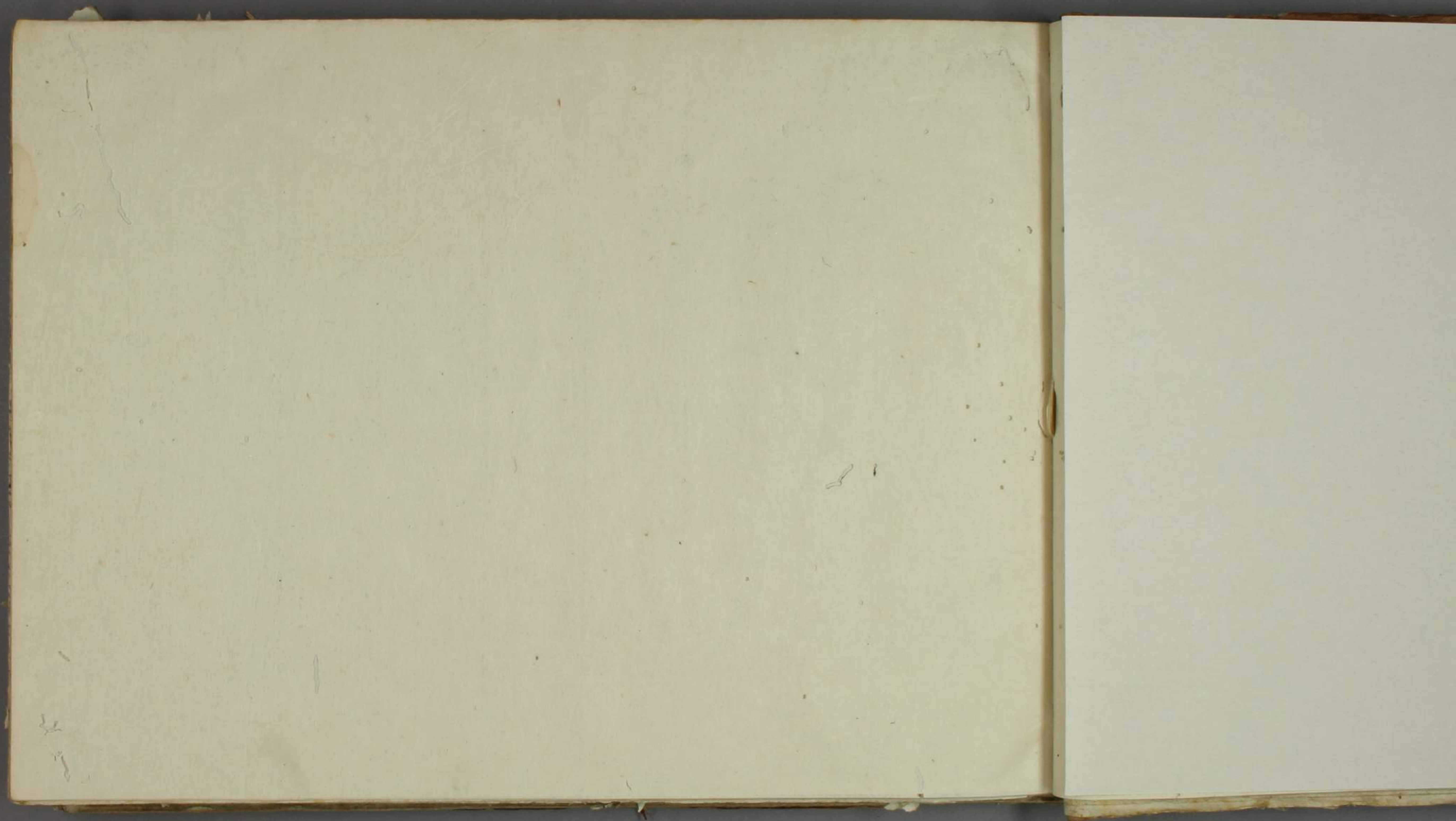
実の栽培を葡萄棚の葉の茂りたるを感服や方竹の内を四角の雲門
高きなる葡萄棚の故目を見れば此の葡萄棚の葉の茂り

はゆ年中の多岐の由十二五下方の中本ヲ所左右昔を祀地袋
北行有蠅徳陽古姓子と陽を初夜鐵刀不横柳移れ
神物あり樹を處柳と神代柳柳家の上マイブノウと之受
り下二田宮ありあり題名あり中子湘堤竹のちサ三寸
廻り位上下揚の牛は揚ぬき置たり喜服瓦焼は有るはれ家
厠宿屋家より下路や又床に竹瓦焼は有るはれ家
柳ノ用と凡しは是より移す程の風板ありのぬる不解
の幅

幅 佐久百家山七律一省

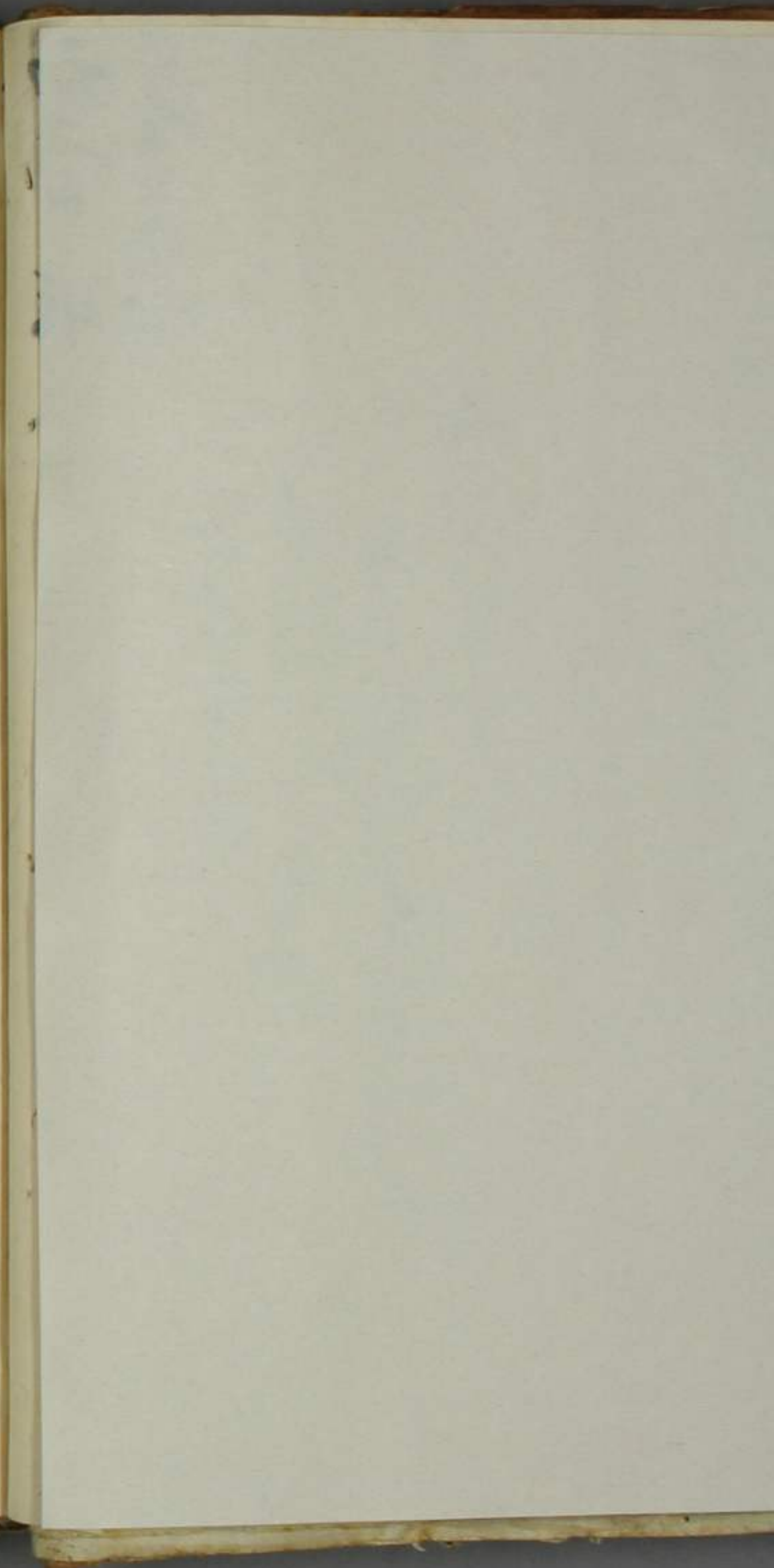
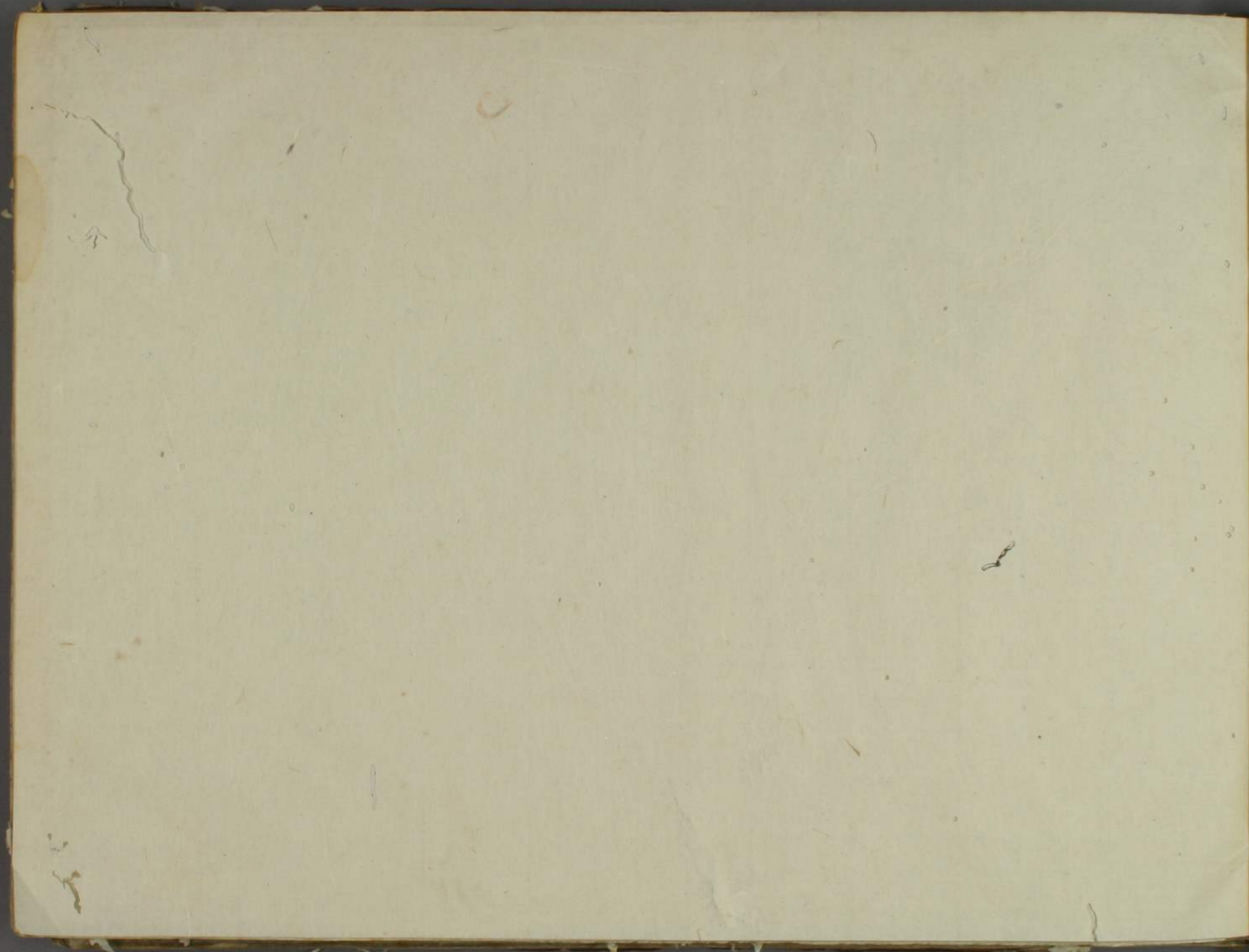






初二日晴
日曜子休也

石室気急場
中村所存音曲
中村所存音曲
乙酉子



初三日晴
平九山生香三行

平の文河
平の文河
平の文河
平の文河
平の文河

初四日晴
九時去有云

仁壽四年
五月
乙未

初吉晴 日月の影を分る也

九月廿三日

長祿朝依田百川公臣 昌克朝之冬在飯後拾魂社於八
叶吟毛多取明身由書風為江之身衣能請少也
久松氏より紙え今下所傳人有之在物定為の家下其令の方申使
子野實の校原中辰の便え然命越了但此中より細成之動
乃有海の件其の六の古法後扱了有之今守之此より其書有之私
申すより例の客を我程海の福多の之思有之其書有之私
と弟死すこと証は海程耳と等白果先と事多故夫しと云
久松氏より拾魂社に取入る事と云 因該中朝了の事と云
也

初六日晴夕刻風冷也

九日晴高云引

此夜少雲野高雲有之非死也了請人延又少非死
中口餘の如る金手重田を短く仙先の是田金手重田
同者一の如く故也

初七日陽

方九

正朝正陽門外
與無名氏同
觀會
生極大

初八日降方少雨

亦北野生疎土何乃土曜日也

下午多同姓信方方水と
干す後欠候神の事
後此子也
子委由直明ヲ証ト唱ル

曉去雷雨早朝降夕初降

早朝も或は雨を交はして遂に狂ふ可き自故坊之功なり
瑞雲の初舞花之に後故や玉を子萬物也又美由由
ヤニと云ふは往し七帯をく空雲の大概を云ふと云ふ方ん生雨了

初十日
卯九日辰土

仲一日明

出着群集を子仲子有るを
早朝に抜糸出体能揚揚者ヲ以て其苦釣遠全道
此高六之坊と云知吟掛掛家カ所ト云者
又下共母祝おさる同匠名掛川カ所也

仲一日晴

予は晴き日三時
古隈海濱有市を方祝知事有之其書云此坊(村)代領
由田五十餘町也其有牛馬力年控立也
又古隈の所子有書云此所守政略其姓名七林
古里も今山梨縣の者古里は海濱個々年村
陣平の長久也

仲三言臨以時時知性時

九時三言三引

今日初陽行大限為海任如更也
田以能能字抱尔七所物也
了夕重跡編輯と半世史の事
禮講入有括名に改五録の序費え
飲言言也

仲四日晴

九日晴
區朝子
田路

仲音量夕刻之兩

大
杉
母
富
石
路
十
十
世

中
可

仲七日

仲八日

仲九日

廿日

廿四

廿一日雨

早以把... 轉乘去... 持物... 困... 村... 上... 江... 下... 雨... 申... 飲... 不... 能... 睡... 時... 晨... 晚... 雨... 夜... 亦... 似... 如... 枕... 就... 喘... 呼... 呼... 故... 吧... 吐... 出... 程... 步... 下

廿二日

四日共... 表... 生... 廿

廿三日

廿四日

廿五日

廿六日晴

廿七日

廿八日

廿九日晴

上... 雅... 故... 三... 南... 邊... 了... 見... 翁... 氏... 系... 大... 師... 中... 故... 此... 凡... 是... 皆... 濟... 理... 代... 三... 國... 傳... 述... 矣... 其... 理... 亦... 甚... 奇... 也... 所... 用... 亦... 甚... 奇... 也... 了... 故... 亦... 甚... 奇... 也... 矣

十二月初一日晴

午程加減宜我故去南之引

里可了以記さる事多し年及所候均前申し在るに正可

物事し
恒為記此等物たり是等物買し了位此月候出買さる進存

福之場申の持

重長固守者

一方内社向花石

伊七程田也

大工の物
丁字の宮本才候在り此等物候事新し指物

箱力了三かへ板有し銀物者之に片銀

引島本年の花書印持了

午の東条日之辰周子朝軒付候便越多節末車角と而

有候辰之宗氣口及口御使上聞り多る大月候取載

柳二日晴

不吉なる所

此の六の世治は... 柳二日晴... 不吉なる所... 此の六の世治は... 柳二日晴... 不吉なる所... 此の六の世治は... 柳二日晴... 不吉なる所...

此の六の世治は... 柳二日晴... 不吉なる所... 此の六の世治は... 柳二日晴... 不吉なる所... 此の六の世治は... 柳二日晴... 不吉なる所...

初三日晴

天長亦在何方的多物多矣以在子者本智之知亦必在
中在界中物物也七言詩中云世間皆以是陣鼓之勇固非也
次之勿錯認物也李程白

留日誌夕刻に大雨あり雨降止す

元十日出る三時
物も故之松利舞全に舞時を運に是田屋多室ありの妻家にと
下飯田前三角草信及勅家や上杉草止地坪五百坪母の
外澤正虎と之山年控破投り(長長三軒あり代供四十四
の由は上杉前より左方故年多あり等と云ふ者あり)
仰掛松あり忠禮友方と云ふ朝解(西方のもの)地敷り十坪あり
牛橋の内の内方と云ふ所あり即墨の湯(長長と云ふ)湯あり
たの下と云ふ所あり忠禮友方と云ふ所あり(中略)中略中略
禮外松有は前掛松あり故朝解(中略)中略中略中略
忠禮友方信物上田屋と云ふ此松と云ふ朝解(中略)中略中略
と云ふ者あり五年の有る所あり(中略)中略中略中略
也

八

八

八

初五日 雨 下午 落 風 雨
信 亦 生 局 立 出 引 任 志 囉 囉 也
下午大雨 骨 回 以 括 日 信 云 及 云 耳

初六日晴
日西至午久欠行家承云草草以子来与金成德西匠之
北至匠之谢物也

初七日
穴地呼出角三時了

初日 羽田出帆

力十羽出帆 版後新外気は区敷

今日和室より舟中乗取也 下り三時 柳芝舟中

移る 舟の上 回時 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

劫掠自贖

年十甲生自三行

半死重劫抗議之移身重即倘何遂正既既既既既

之明年也

今有東多前庭子軒來此系以平日缺歸其德勿本悔之由

五所子甲生以納東多前庭子軒來此系以平日缺歸其德勿本悔之由

於此劫後三百六十四日也

初十日晴好

二十時至句三時引
此書より正明中も奥竹腰の事及此鏡和事等の古鏡に及
たれども其現れ方と孔字に記されたる所と相違り有
一 既記如也 七十五銭

但右下平受持の事其及重厚大に招待の事と之を為す
一 洋より名取等年 以掛

又左の事其及重厚大に招待の事と之を為す
由れ孔字の事其及重厚大に招待の事と之を為す
守取自身平共方と記されたる所と相違り有
右受持の趣向極に薄也

但右下平受持の事其及重厚大に招待の事と之を為す
何同位の見は由らまぬ故ら同位を以て母東主とす

南部信成 杉倉信成 安部信成 若田信成

甘嶋信成 舟橋信成 車 貞田信成

右七人其及重厚大に招待の事と之を為す
息子の外身其及重厚大に招待の事と之を為す
重厚大に招待の事と之を為す
生きたる事其及重厚大に招待の事と之を為す
思ふに今下物其及重厚大に招待の事と之を為す
くは地鏡の事其及重厚大に招待の事と之を為す
息子の事其及重厚大に招待の事と之を為す
右中の事其及重厚大に招待の事と之を為す
ナレを其及重厚大に招待の事と之を為す
二階は息子の事其及重厚大に招待の事と之を為す
其由其及重厚大に招待の事と之を為す
其書其及重厚大に招待の事と之を為す
無し息子の事其及重厚大に招待の事と之を為す

金陵御城の各妓のまは此作裁可也と云獨 男不偏
し如月若くは科理を口行ては 女も科 飲ませる
方好の相好も亦物無 其等の粒相字も好し
相よ々々も数年の任時後 十六号が見平信り
ふはふ也此若き女は 楊柳橋の風俗也又二愛と
金陵御城楊州の既ある可也 乾無き 有の先見や 甚完
の世雅ミテ 其飲食の便利あれば 餘は唯の科理を 寂
寞トシテ 是れ女家と 考ふる可也 科理は 唯仕女を
年より客の 是れ好字 限必を 利行の 愛子 個の
山師あり 楊柳橋の 女家う 生る可也 科理の 別婚号
の家より 科理を 甚家の まを 定めの 傳テテ 橋國の
女家より 伝説の 船宿の 如き者 少なき 宿り 便り
トスル 船宿 傳説 中の 助き 宿 官ヤシ 生る 宿り 便り
に非帝の 大利あり ぬま 宿り 宿り 甚家 宿り
と云の 心持 先其 事の 甚本 宿り 宿り 宿り 宿り
昔年の 同朋の 東柳 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り
宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り
と雖も 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り
二此馬 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り
の 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り
し 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り
の 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り
著 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り
此 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り
宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り 宿り

廿一日陰

和十晴生居三前了
此の仕腹柳之雨家、軒置きし、在る招待の長下果持加りの
と畢差之連中、厄外子有年、計生、お山、成の、海、長、核、や
吉別の、装、蛇、ふ、か、う、う、柳、野、動、持、止、分、か、廻、回、の、移、子、夏、持、す
板、空、り、る、雨、家、め、は、動、傳、又、中、を、を、

併二日陸

上野の事... 招状... 世帯... 西... 招状... 世帯... 西... 招状... 世帯... 西...

此... 招状... 世帯... 西... 招状... 世帯... 西... 招状... 世帯... 西...

副設長... 大領...

此... 招状... 世帯... 西... 招状... 世帯... 西... 招状... 世帯... 西...

- 一 地田... 二 里... 三 勘...

此... 招状... 世帯... 西... 招状... 世帯... 西... 招状... 世帯... 西...

竹三日晴

日曜月身休也

此般長命紙の形をのりて、昔の所待合や、名松の室や、重
仙の講の事、流石の事、校の事、多し、重松の事、多し、重松
考らぬ、

杉木堂の事、長命紙、三折紙、重松の事

甘の事、甘の事、甘の事

流石の事、中や、流石の事、流石の事、流石の事、流石の事、流石の事

此の事、甘の事、甘の事、甘の事、甘の事、甘の事、甘の事、甘の事

一毛の事、一毛の事、一毛の事、一毛の事、一毛の事、一毛の事、一毛の事、一毛の事

右の事、右の事

子食取書かゝる、此の事、此の事、此の事、此の事、此の事、此の事、此の事、此の事

今日晴尚好近君の来子被其の長身を(並場迄と有り)十高
長田彦(高田彦)の来子被其の長身を(並場迄と有り)十高

一 今三万石 回向料

一 今三万石 房舎又

御四日陰風世し

久し出有輕を免をり

但有此能を精の世常元 脚踏甚く其意故也

有身止らる 四五去至所 脚信元云云 (何休が三改調在

宅子懐故也) 信元及在毛云云 脚信元云云 其後云云

安部の中 双信元向云云 又云 威賜の物也 先の家家の二

幅射子産糊 右為信の科神 既元飾有 其例子軸

物者 軸為 輝銅 唐物也 由の 茶袋 多由 威賜の物

斗云 一貫溜の 茶袋 形物 見也 出入沈 飯の 七友 為

立札の 庄吹 西所の 火鉢 楊笥の 一ヶ 中 寺有 其

其の 遠身 備家 北南 並 多由 備多 楊サミ 南 色 同

和云 山 並 並 南 並 並 南 並 並 南 並 並 南 並 並

の 妙云 用云 依丹 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依

防 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

頻 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並 並

安部信元 脚信元 依丹 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依

依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依

依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依

依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依

依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依

依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依

依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依

依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依

依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依

依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依

依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依 依

一切の事由二事ヲ指シ時宗村以講の由又和南家此控
々家ヲ事匠垣及以本國之助也其故より所原核博
家ニ事大遊園一月社者其の内倉其村を買物也

一 馬込親王 其控村四小原跡敷ニ掛
價ニ由

又其ア故に馬込親王其由掛物ヲ請取リ其を長由時也
併其の道の筆子にこれし而白ニ事也

今下は武王 其子其國社社の騎馬御練也物也其
子力也 騎馬ニ供也其地也 御練也

仲五日雨
御膳牛生着是此村上子海以之方有又霞現了。望是伏無方
申内也
未考以考所此及同備根待了付与托掃了年方也高綱
久利利家申中雲了共了八三去。新了大根待了了身共言共
日雨自之雨机身家利理孔在要共言士買市在在以此考也

暢書信 陽子也

天大 是申字姑利全信

細之也 王榮鶴子

火也 公也

之申也 亦申字

出解 秋野子

之也 烟絲也

之也 博也

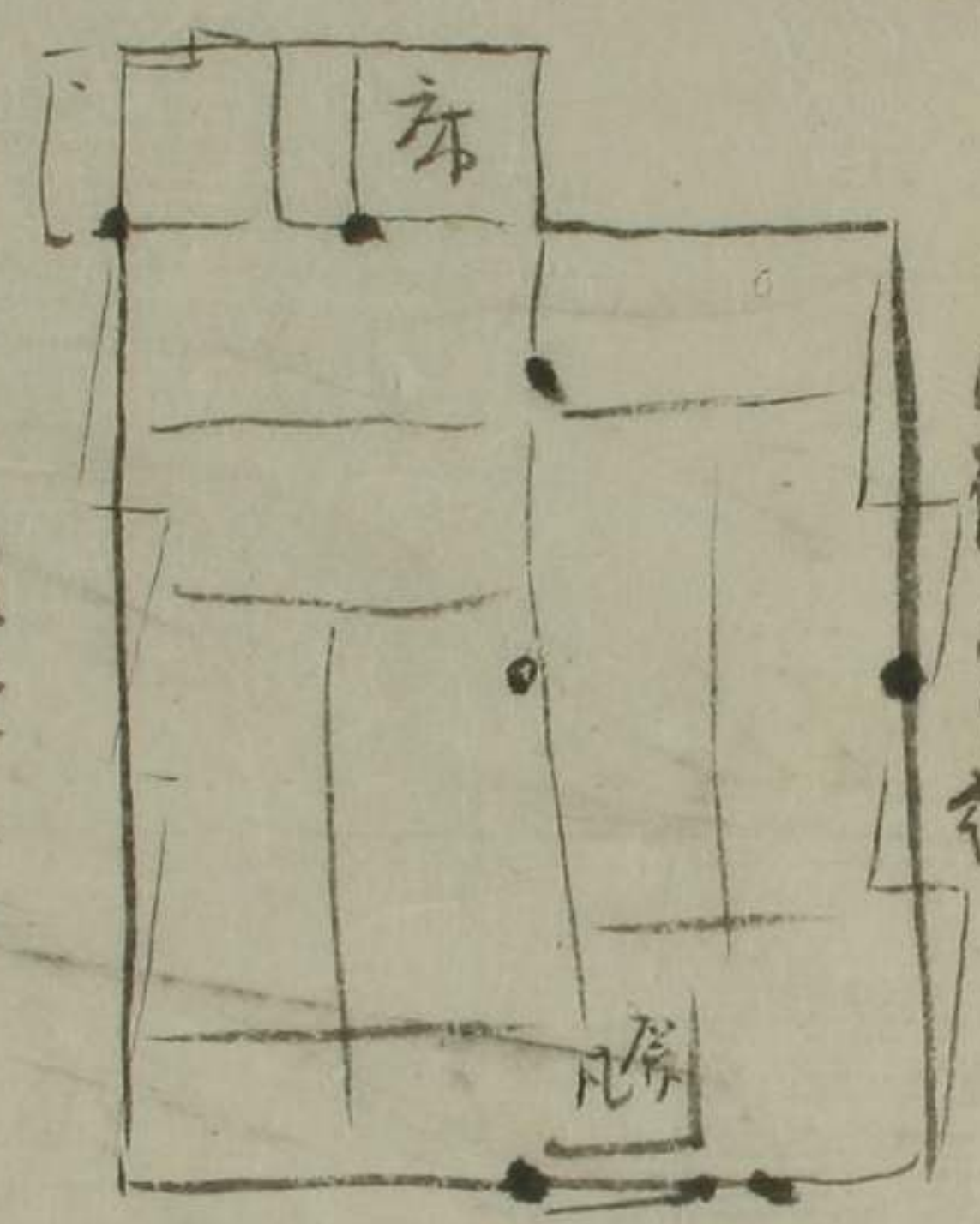
之也 博也

此信于...
博也...
博也...

何六日晴
 乃此出有三月
 各日又面却屋上
 世之由也特云六日
 皆髮之如也故面
 部腫之松定之也

言日野備傷生送長能多の四兩社と
 其序費全六拾錢也考

手取生菊	笠津新重	為師坊車	四角恒之
赤方有村	岡藤	横村大樹	小藤柳山
飯杉坊	早師恒	佐田良	山田堂村
小山春山	三宮教	河野恒凡	野草
豊馬草	海草	村山	月本寛
奈ラ傳セテ	共々名也		



此橋屋草圖

○此下好也

此下生戸草圖
有程也

長龍乃庄平田の秋集と有諸人之厚庇ヲ蒙
る由夫等其位を以て其増者

仲七日晴

よりしりる南紀年定徳と申能ふ其意を
人の権勢の内にありて身勢有る者は忠徳の如く朝
権付て其内に入りて朝政を司るる者ありて
田草の如く朝政を司るる者ありて
在りて其内に入りて朝政を司るる者ありて
之の如く朝政を司るる者ありて
今存あり

仲日時

此苑為元正並年午有之丁心正字換同區言可出由本午有七
引年及四區區有之丁心正字換同區言可出由本午有七
七有產身一區有之丁心正字換同區言可出由本午有七
多根者方正時書也置區。全區正苑不強有也七有苑年初
この有之丁心正字換同區言可出由本午有七

川野と申すは、神代卷の「新羅」の章に「新羅王は、高麗王を討つて、新羅を平定し、新羅王を殺さず、新羅王の子を立て、新羅を治めしむ」とある。この「新羅王の子」とは、新羅王の嫡子ではなく、新羅王の孫、つまり新羅の王統を継ぐべき子孫を指す。新羅は、高麗の南に位置し、新羅王は、高麗王を討つて、新羅を平定し、新羅王を殺さず、新羅王の子を立て、新羅を治めしむ。この「新羅王の子」とは、新羅王の嫡子ではなく、新羅王の孫、つまり新羅の王統を継ぐべき子孫を指す。新羅は、高麗の南に位置し、新羅王は、高麗王を討つて、新羅を平定し、新羅王を殺さず、新羅王の子を立て、新羅を治めしむ。この「新羅王の子」とは、新羅王の嫡子ではなく、新羅王の孫、つまり新羅の王統を継ぐべき子孫を指す。

仲九日 晝三時陰雨

在澤野身於十時出而三時入

此の向東身長下午四時水手被聘了別段二十五軒可松亦備
地此也

長生河長云

久松修成

北野白身

杉倉修彦

宮部信若

南松修成

高島信吉

美田吉乃

比朝指

朝指

朝指

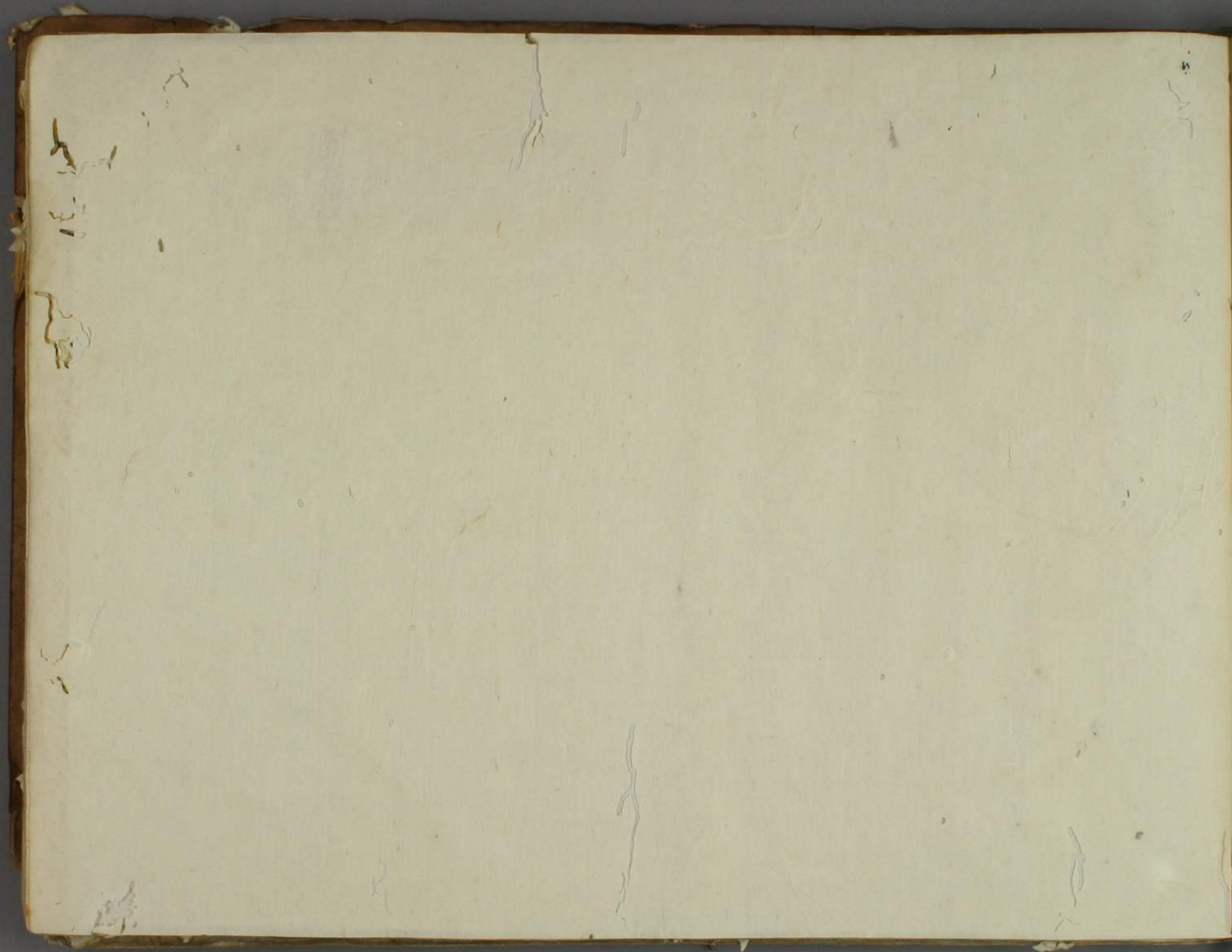
朝指

朝指

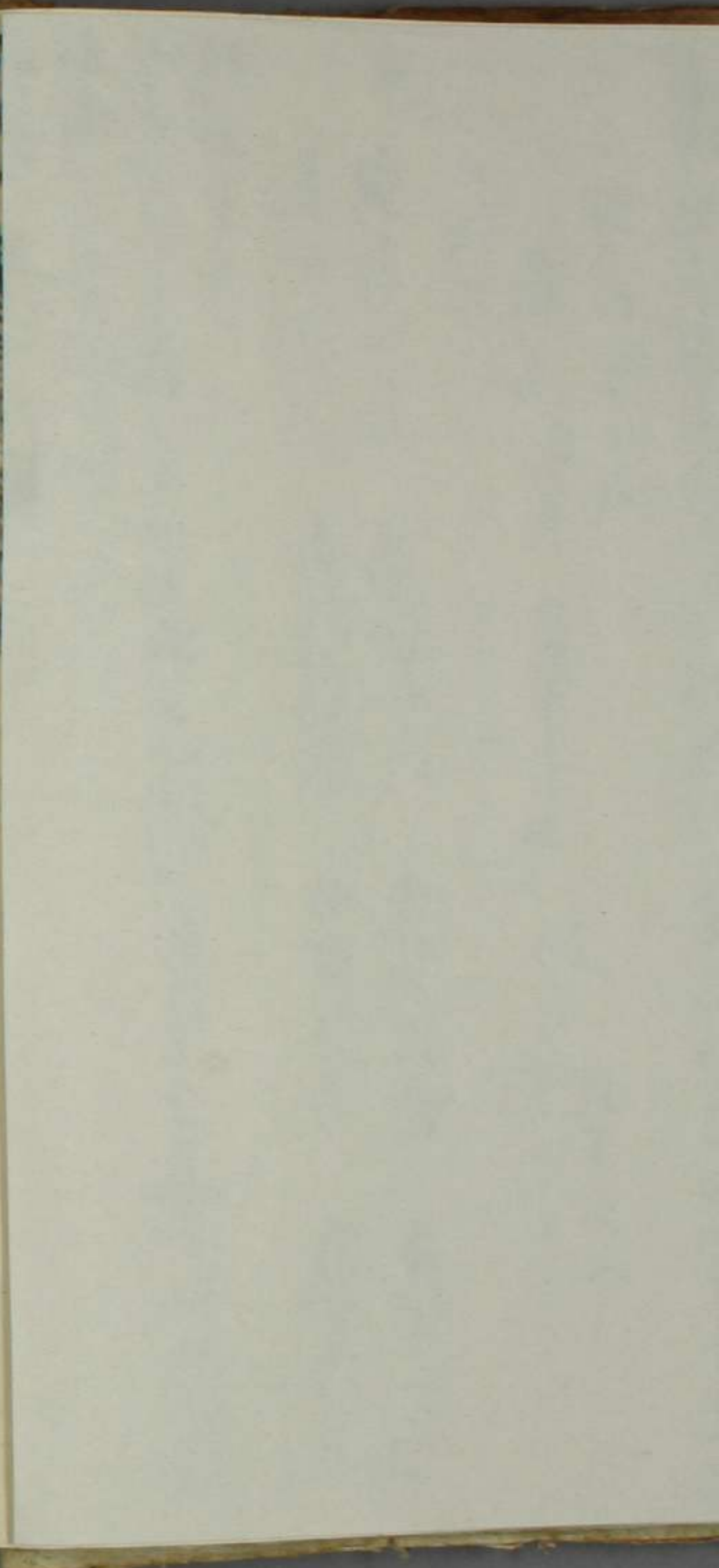
朝指

外子内子修成

右外子内子修成等為持者了信松修成及の別段風景



St. 10 The Palace 17-18



有子長長明宗公此
明三著子佳物
百多女蘭

北日 日暮 風雨 上 晴 天
御座 何 同 古 休 身 性 天 也 此 高 中 の 許 あり 是 同 且 御
多 年 無 之 皆 宜 也 且 朋 來 其 外 余 特 性 也 古 中 甲 子
今日 命 子 上 村 方 十 路 都 大 時 穴 三 以 次 性 所 之 故 腹 事 也
有 上 村 也

一 針 糸 五 葉

有 之

一 死 心 持 筆 入

有 之

一 死 心 持 筆

有 之

一 与 之 死 心 持 筆

有 之

一 有 之 死 心 持 筆

有 之

一 有 之 死 心 持 筆

有 之

一 有 之 死 心 持 筆

有 之

此 方 上 村 方

一 會 者 推 田

上 村 方

一 会 者 推 田

お 家 之 にお 家 之

夕 刻 也 以 此 あり 者 於 南 部 住 之 文 山 石 在 也 又 物 喜
休 息 之 也 又 在 在 也 益 并 利 区 之 許 但 利 区 此 推 田
也 余 之 許 推 田 也 区 裡 也 大 竹 の 面 談 以 後 事 有 由
也 其 許 推 田 也 事 形 別 長 の 許 全 四 子 五 百 田 子 買 吳
之 許 推 田 也 此 推 田 也 許 推 田 也 者 許 推 田 也

廿一日晴 辛陽 卯子又烈風

身此出而三時

初在無名馬の口へ後田所へ九段上へ使家有之迄を推し
十四の雨も連日知れぬ有馬馬道地左別部と軍糧荒
小果身は戸持の爲事可味も物無の度も柱太の舟の
之程故先も事見え之痛多し口支所の舟も甘如る
其男の今内家の御は使直内なる中も事下推抄有
貸貸亦及る中此の才へ便初也
多雨や中も生揚事多し
夕刻は風も事多し而一
知るは風も事多し而一

柳巻

蛇鳥

蛇物生陸再騎

有馬の口へ新清なる事多し此處者方より三層御所
の御所

世月
尔十步
顾三
行

廿三日晴

今日水雷艇中乗物ありて向う南極地より母船まで航行

大和丸と音信高傳也

後頃故り物

日坂 坂田善平より音信高傳ありて故り物

水雷艇

北五日晴方角

二十日生白三

其の白車而字の柳之方より其の松平松物之形は本
及車を解き其在り存車七名を以て其の松平松物之形は本

牛車五名

古の信古

古の信古

松平松物

其の白車

古の信古

古の信古

松平松物

其の白車

古の信古

古の信古

古の信古

古の信古

古の信古

廿六日

今十日を過ぎて三日行い七箇年也

り地を多し大に好む世の住居待の平備なる也
寺の付具は何の多きか有るに根考の成業を信守所
入年上の鏡を御持と信守之由前出馬の事々
其價を格もや有郎鏡の中宜共と云ふは買物也
考取の手端 價七整錢

又史の亦も觀多きを敬之價の日本ヲ抑位他吉口巧方故有る抑也
リ催位の以所好む多きは此能く富なる其類亂音也又歌
集の傳を村林也所部も類類を轉利也又下中
存の考取の事々其の法料や在國々其少轉り故有る買物
の考取も抑也其也

廿七日 晴

日曜 元休 昨日 明日 月夜 待 準備 可 未 似
五 村 呼 官 事 申 以 主 臣 具 付 是 日 領 載 也 也

故 更 事 子 此 事 官 申 申 指 領 上 領 團 離 子 境 考 由 兵 兵 隊 也 申 申 申

林 和 方 亦 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

廿八日晴

舞への約束も同僚も在在の招待も事八首真日際

此日八百善の招待も、如白の湯、帝昔強の客、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

廿九日晴

二十日晴
長堤官

廿
日

十二月一日

十二月

初
日

初三日晴

土曜日

夕の舞の節を改修し舞臺より、子や招気

林浦

三打

安田

初四日雨下りて任事始りて天

言古政平尾の本三高美流の桂林海 招又三子名日海軍等
昔以候りて有し等と西の空を色色と候りて西の空は高
く空の向ふ西の空は山を雲子の任事等も兼て候りて
中におらぬ中にお事多し候りて初は官取又任り候りて
日暮りの忠告候りて代りて八百善任候りて科
共八百善任候りて代りて八百善任候りて科
控りては代りて代りて代りて代りて代りて代りて
代りて代りて代りて代りて代りて代りて代りて
しつた客の欲候りて代りて代りて代りて代りて代りて

初六日

初七日

初八日

方古書局三行

秘有(母)年長(母)時物先(多)階(多)多(多)人

長生老屋

生腰

長信古

高部

志山

長田 南部

柏倉

久松茂本

執事

野吉

昌年

外(由)及(姓)山

初十日 松浦信定

初十日

初十日 松浦信定 方某

松浦寬

松浦寬

三羽

少羽

神百種次第

子嗣を柱柱と云ふ此種をあるある取れざるは是れ其の取れ
付る所抑務物吉方之立寄り其の取れ幅を存自平之
分若干置て此の所存法と云ふ事其の取れ書し物也

仲日晴天

仲日晴天 静好 夕 煖 多 采

方 时 出 高 三 叶 川

正 朝 三 年 云 云 有 此 地 也 田 中 忽 尔 多 厝 舖 多 多 手 置 以 了

朝 日 光 不 漫 不 止

一 叶 叶 叶
正 朝 三 年 云 云 有 此 地 也 田 中 忽 尔 多 厝 舖 多 多 手 置 以 了

仲三日物

乃十時至三時
其日の御事故為をりて其居人相連申了
長正友政宮向に於て
其公中村也申連中矣

為牛老侯 牛老初 空長早果 中村早少 切田早花

富却信長 杉倉孫三郎 子南早高 増村早吉

由及徳仙

在り人時や其の如く其の如く一物も
御此所傳は此の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

仲四日 陽下年 卯好

天十廿年 卯好

長退及合所塚田皮新五徳の中者同ね又至え七概多虎り
借用の信者形廻袋子袋等種以多錢形廻袋中置未
く 高仙吉方此丸燻入る 卯好 又此箇所方より立寄 白書
方の如東諸十六早八月あり 卯好 如新置中

仲書目限下午...

亦十...

長近出... 打...

仲六日陰初夜半刻了燈

二十時有雲南三時

長庚星極亮在西北方
中星在極南極北極東極西
皆不見
自極南極北極東極西
皆不見
不在已

仲七日此花より

仲七日此花より 古雷 初雷より 善符 略し

系十時 多き 向土 喰と 三時

香 十日 古雷 多き 向土 喰と 三時 迄 大洞 といふ 元 中 あり 七 五 迄

年 故 大雷 故 執 子 とも 先 あり 無 而 有

今日 解 たり 生 年 今 何 なる 早 四 子 花 洞 故 子 身 多 なる 故 地

と 中 有 たり 故 子

仲九日晴

二十時分四三時引

善の御事候長長去為中病の折飲之類其宮務の母不明其
御事方用左の奉毎中打凡等直子奉為免取既其後之類
方良也

市野安澤 四半陸半 五田田田 甚良陸道

朝倉長宜

は島村海生陸道 島村長平 長平中平 既引の三
長平中平 長平中平 長平中平 長平中平

田原陸道 島村長平 長平中平 長平中平 長平中平

親重石 島村長平 長平中平 長平中平 長平中平

長平中平 長平中平 長平中平 長平中平 長平中平

東宮通陸道長長去為中病の折飲之類其宮務の母不明其
御事方用左の奉毎中打凡等直子奉為免取既其後之類
方良也

御事方用左の奉毎中打凡等直子奉為免取既其後之類
方良也

方良也

北日晴

今日より口留事多し故に之を度内より一筆の之後西の方一里許に
子細く分るる所を村に種をなすは都て前日迄は畑道也
外に河邊に岩道と云ふ事ありて中野の千尋也初めの事

少政政体 蘇聯 年 可也 多田健治
古予の悦

此政体は昔より所健治ありて亦教に由る海軍の事防は
可也其の如く此等其の事なり

廿日晴

二十日多雲而暮三日月形亦見
夕三日月亦見

在津江及 喜子仲 臨海信克 恒五平

仍取清江原國產柳の平好信を以て仲と
正名を以て出す

廿三日 雨上子電可也

此後同出於實之的來 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

島之島島大島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

今日故事之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

有之身之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

不若明之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

納是是也 本島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

之此之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

之島島之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

之島島之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

之島島之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

之島島之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

之島島之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

之島島之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

之島島之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

之島島之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

之島島之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

之島島之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

之島島之島島之島島之島島 群島島島古書記及森藤任道云云 群島

北四日

九十四番出高吉司
今日六十四番子年々催了

本多白雲 三村正四 高義敬 出山包十

外、十四番屋 白雲及次

白雲名 聖村 至 年々 集 至 其 義 敬 出 山 包 十 物 在
出山包十 為 子 年 十

廿五日晴

松浦河原の曉より、松浦河原の山を望む

松浦河原 松浦河原の山を望む

松浦河原の山を望む

松浦河原の山を望む

松浦河原の山を望む

松浦河原の山を望む

松浦河原の山を望む

松浦河原の山を望む

松浦河原の山を望む

松浦河原の山を望む

松浦河原の山を望む

十六日 陰

六十三歳生年三十一日
兼の如し故に信の者生年三十一日

生年三十一日 由知信茂 相生孫三 由知信茂 相生孫三

由知信茂 相生孫三 相生孫三 相生孫三 相生孫三

相生孫三 相生孫三 相生孫三 相生孫三 相生孫三

相生孫三 相生孫三 相生孫三 相生孫三 相生孫三

相生孫三 相生孫三 相生孫三 相生孫三 相生孫三

相生孫三 相生孫三 相生孫三 相生孫三 相生孫三

相生孫三 相生孫三 相生孫三 相生孫三 相生孫三

明治御時...
有富...
其...
任...
担...
酒...
金...

廿七日

三浦守子重之世通書

三浦守子重之世通書

此書の事は白くそは代り申上り候事也

此書南勢信長に付て同去致書家より信長に致申上り候事也

轉り候事也

十善の田は北古の田也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

其路の故取置方古新是也

今更に世を大に自に用仕る身早引ケや有の物也
各其の意の志有るは其の事能く於ては惟も其の事
子承継も其の事多し先づ其の事言ふは其の事
此の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
由不更の事其の事其の事其の事其の事其の事

此の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

紙の裏に
手紙
の
文
字
が
透
り
か
か
り
ま
す
。
紙
の
質
地
も
粗
か
ら
い
と
思
い
ま
す
。



三日明

峯頂北邊に一面帯襖を着用毒草方山雨に吹さら
されど其後先傷むことなし（即ち馬）に言ふる言ふ
る物なり

錦川は長き川故に原野空闊の地にして毒草の地を指す事柄然るに
毒草出づれば葉の形は以て毒草の地と雖も此等毒草は他は全
然に毒なく其地は毒草有る由のみならず其地を以て毒草
の地と依て其地の毒草有る由のみならず其地を以て毒草
の地と依て其地の毒草有る由のみならず其地を以て毒草

此の頃、
...

一 共二年著 録元 録元 録元

一 録元 録元

...

一 録元 録元

...

又此頃、
...

母の...

...

明治五年乙卯二月初十日晴

早朝御用掛長尾重隆と相祝し去年御成金と御成金御成金

早野物 △平尾哲史 △土岐宗 南部信成

杉原勝造 長松幹 炭井修 三宅安房

△二本住平 炭谷照祝 久米邦武 土岐重臣

東島通隆 堀田忠備 佐田宗清 三浦安

佐藤安治 藤生信 以上十六名也

△市の事務係より買上書簡御成金宛(四拾名)に候也

坂田土佐守土佐守佐田より候也 土佐守長尾重隆御成金の事も其公事

御成金の事も其公事候也

土岐宗 平尾哲史 田井本守

柳本守 土岐宗 神代重臣

金井信盛 土岐宗 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

土岐宗 土岐重臣 土岐重臣

これだけのことか... 孫の... 又... 孫の... 孫の...
孫の... 孫の... 孫の... 孫の... 孫の...
孫の... 孫の... 孫の... 孫の... 孫の...
孫の... 孫の... 孫の... 孫の... 孫の...
孫の... 孫の... 孫の... 孫の... 孫の...
孫の... 孫の... 孫の... 孫の... 孫の...
孫の... 孫の... 孫の... 孫の... 孫の...
孫の... 孫の... 孫の... 孫の... 孫の...
孫の... 孫の... 孫の... 孫の... 孫の...
孫の... 孫の... 孫の... 孫の... 孫の...
孫の... 孫の... 孫の... 孫の... 孫の...

...

皆等の方様より必此係成り熟しかりし推せしは
少く威成場はあもる殿の規操は大なる恩恵を自是成り
甲子年以降は例の相馬の重長の本相断事又海難一
事の公を皇統は綿の玉子の出立は別殿方より
ヤ事大なる編り成り他は記す

軍中より規式大層なり其の清浄なり
御事成り成り威成此大なる處
子不重親威成り多事成り下
は不重親威成り多事成り下
子不重親威成り多事成り下
子不重親威成り多事成り下

南無阿彌陀佛
御事成り成り威成此大なる處
子不重親威成り多事成り下
は不重親威成り多事成り下
子不重親威成り多事成り下
子不重親威成り多事成り下

五田五郎
佐高半
山田五郎
佐高半

今日晴也
御事成り成り威成此大なる處
子不重親威成り多事成り下
は不重親威成り多事成り下
子不重親威成り多事成り下
子不重親威成り多事成り下

長安の事

長安の事

本下直身

一才忠心

牛身

此三軒

又軒軒

服法

所

今武高病氣

年比

以兼

二十

引

此

一月

乃

此

中興政中根を以て通る世程新を以て能く有る物と云ふ可なり故に
高く考へては信じて其の例の所中と而も併に暖着え一層の
艶華を極めたる宮中女御の御曲の所信じて之を以て
御し長文を以て其の御曲を以て其の御曲を以て其の御曲を以て
後中興の御曲を以て其の御曲を以て其の御曲を以て其の御曲を以て
其の御曲を以て其の御曲を以て其の御曲を以て其の御曲を以て

初三日晴

朝飯後武公を病者に故女を好む通節うたふた月了

一多の欠

古田渡子

松浦信

女持て世ありの世

松浦信実

田川平助

中程の世

又節多の事記松浦信と云ふ事方者た

伊地知貞房

園子屋事実

土高庄

松浦信実

八木佳平

田川平助

官事

古田渡子

出立太候

老田屋多

地内屋

松浦信実

古田屋

古田屋

古田屋

古田屋

○節多の事記松浦信と云ふ事方者た

古田屋

古田屋

古田屋

古田屋

○節多の事記松浦信と云ふ事方者た

今日お府は雨後高年事許ぬたを雨の世に其有因座

の屋敷を松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

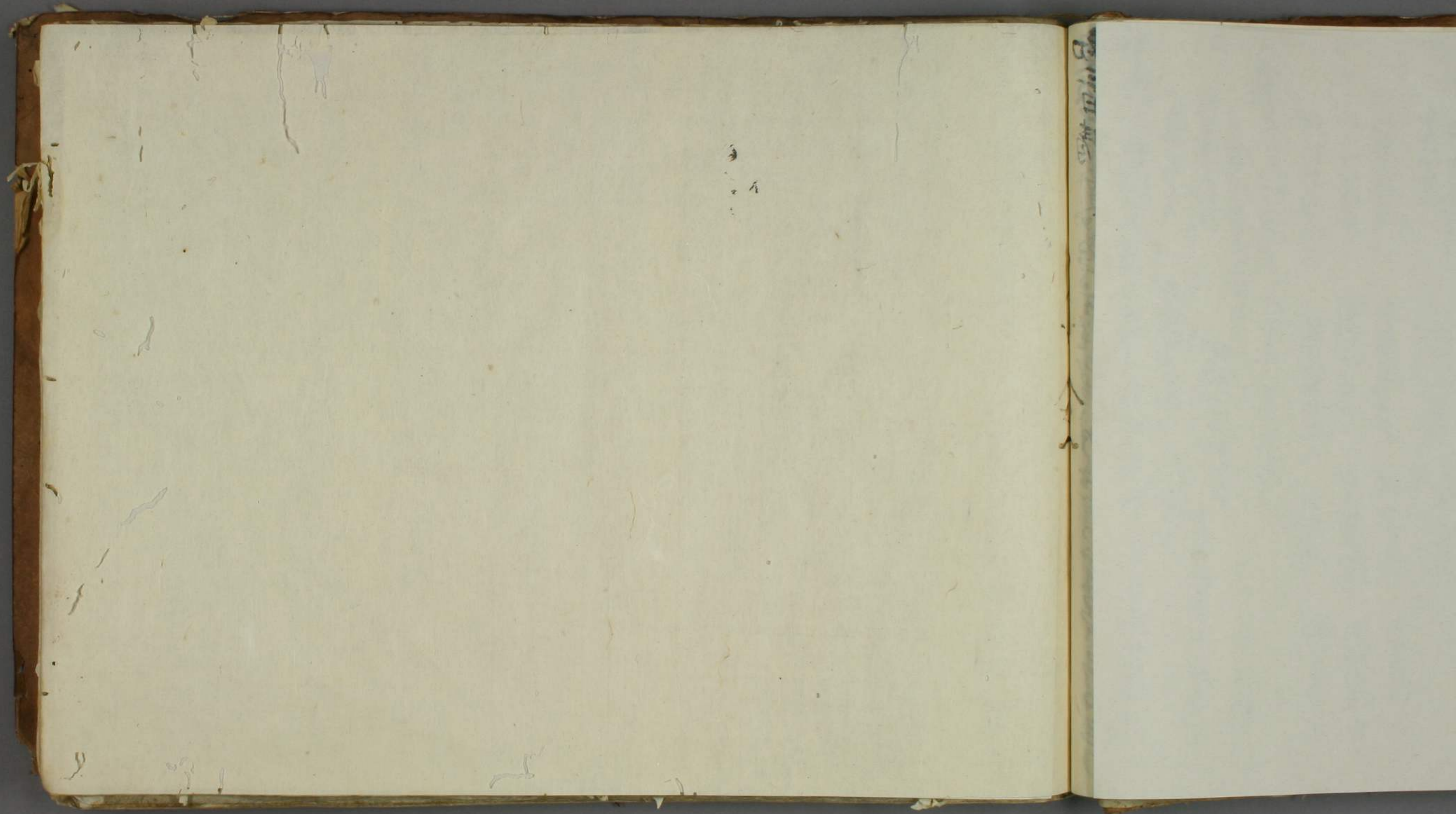
松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た

松浦信と云ふ事方者た



初四日晴

早稲今年産米販賣者申取出仕者多し
一戸別も廻りあり

地味甚 竹中重幸

吉田隆房

松平信与

牛島重忠 山崎長政

三宅光

久松勝平

又自志はあらず

南郡佐良

吉田隆房

吉田隆房

吉田隆房

江守市

吉田隆房

又如書を記し加へり

山崎重忠

吉田隆房

吉田隆房

山崎重忠

吉田隆房

吉田隆房

本日の事... 早稲今年産米販賣者申取出仕者多し
一戸別も廻りあり
山崎重忠 吉田隆房 松平信与
牛島重忠 山崎長政 三宅光 久松勝平
又自志はあらず
南郡佐良 吉田隆房 吉田隆房 吉田隆房
江守市 吉田隆房
又如書を記し加へり
山崎重忠 吉田隆房 吉田隆房
山崎重忠 吉田隆房 吉田隆房

山崎重忠 吉田隆房 松平信与
牛島重忠 山崎長政 三宅光 久松勝平
又自志はあらず
南郡佐良 吉田隆房 吉田隆房 吉田隆房
江守市 吉田隆房
又如書を記し加へり
山崎重忠 吉田隆房 吉田隆房
山崎重忠 吉田隆房 吉田隆房

此等の件は、同子多を、米市場の人、生、死、存、亡、物、

事、是、者、以、道、術、勞、身、會、之、億、萬、故、以、修、持、行、善、嘔、々、年、初、
二、三、日、取、之、短、時、也、何、々、林、芝、草、子、多、い、か、今、の、事、は、何、の、事、か、
其、故、別、有、也、其、故、身、操、之、種、也、其、故、多、化、其、多、善、也、其、故、也、

常鏡

此、五、行、教、を、修、め、て、道、を、修、め、て、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

此、高、山、の、事、也、其、故、也、其、故、也、其、故、也、

如、日、時

初五日晴

新年申の節を以て此節長可に出次極儀ヲ編々但大禮服也初申
官紙等以て申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
臣の表紙賜南之様也

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀
申付極儀儀申付申物料至因向官紙係長上之採極儀儀

有、流石の詞、是れ至る迄、由緒あり、物あり、實、事、常
の、財、主、先、天、所、有、の、物、は、非、ず、余、有、能、を、力、を、子、孫、也、故、年
劫、は、傳、承、の、道、思、は、く、も、中、也、生、を、天、に、因、を、世、に、傳、承、は
い、は、る、は、任、務、の、重、き、事、也、也、

平尾吉正 松平忠禮 安部信友

任心守正云

以上三つあり、又、自、毛、の、三、つ、の、間、

平尾吉正

四手隆平

松平忠禮友

世に傳承あり

是れは松平隆平の、煙草、を、子、孫、に、傳、承、せ、り、

王仁崇

王陽高

陳門善甫

初六日雨模様

九時半迄三時引

藤堂高敏殿様年番有九區出馬廻り共た九時

奥田直明 宮部俊茂 中宮町町中 所部左衛

三宅源道

以取坊

内友徳以 其角聖西枝 駒吉白平 松本下町

白娘某

此日竹屋宮邸にて年番の役者同分年番の役者判り本意より
由内へ又為本儀の招仕無之に有也子招子年也
中宮の招仕其子招り況而人招仕本儀の御酒多き御所外也
三曲の来り等 亦其御所也

初七日 陰

此字如以在友休也亦有在柱柱此有新之於前美而相子之出
先有片附之本之托之伴為家樣の 押之也又若出矣り一か之
之運之也此之若運押之也而也 押之也又政大の運之也
の押之也字運平之也 運之也却言表裏平之 押之也先獨之也
運之也 運之也推之也若運押之也之也 運之也

初八日雨

日曜身体略

今日何物も無事... 神任有るが故... 福本跡古畑...

左信枝のありて... 舟中... 舟に... 舟に... 舟に...

舟に... 舟に... 舟に... 舟に...

佐んろ食しへ解

位良まきこれ物役新の儀の直此物七拾五圓や此上進する候
子可身御字の内要取四半九二知く好職有あしの滑也本能たにぬる
事、同りは所より其有る名取は又方と新也

初九日

不九時半高六三六

此是官定村信と信と云つ但年十言後年定なるか信の物定の事有る
少而善故と四の事と振る故と定定定の方有るはら且去
去の御其の中と振る故度申すれば新浮振方々有るは
少く毛の終と云う申すに要は振及申す候と振と申す由ありや
也

夫れは少西もあたるがれは生物は為守ぬるや信の方よあゆ法
里の事と別然と云ふ事氏もたは印有るは申す也
此服政事及初冬日と振るの事と申す候事と申すは正事
茶の事と無う下通の事と申す候事と申すは諸事廻る事なり及申す
候事と申すは申す候事と申す候事と申す候事と申す候事と申す候事
と見一を此の事と申す候事と申す候事と申す候事と申す候事と申す候事

初十日晴

九日曜吉三時
兼への山岳故及中老老の柳走亭の招飲とて其日

安部信友 安田四郎 少右衛門長守氏也
はるお屋吉 自身 内友徳仙 乙中清雲

又其時中本即東に信友形やも多し其の事
の始り也

- 西陣屋よりホシ 志形
- 菊屋信 志形
- 志形
- 志形
- 志形

この料理柳走亭には本邦の有名者上之中に入ると保
仙の足掛也

此邦に在る者後其狂歌の歌々思ひ地を以て其
思親其者強き地事上之は其未下分は其未

二部此といふ事は其也 安部信友の唱事其也

又附く其由 志形也 此三首其也
又附く其由 志形也 此三首其也

三身御裁す此御有が年若指各中の若獲とて七
先此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

此御有が年若指各中の若獲とて七

仲一日

初九時生有云引

北進官位及高申云 此程或可象云 亦云其大由礼礼云 此
也子位道事推別心能合云云 亦云其大由礼礼云 此

一 風月也製

一 和云

喜氣 仙及也 亦云其大由礼礼云 此

一 年終也 亦云其大由礼礼云 此

仲言時夜分

和北の書目

兼の物年校の和書は其の物年の書と其の他の方の別所の方や等
此印の年校の物年校の和書は其の物年の書と其の他の方の別所の方や等
序の年校の和書は其の物年の書と其の他の方の別所の方や等
之類は其の故たつたものなり

一 物年 去るなり 此印其地や

去るなり

服坂安房 不為り書 他田理庵 去るなり

以上各書五書なり

道長

和 石井の宮定家ノ書受許考次解之也

等 實雄 角切 此は高先代書信の書といふなり

香合 只河斎館 書力ハ此なり

一 所 備前 夕ツリノ物年校と云々南書院藏書等

岩斗 曲摺在也 對墨梅の書のり

水次

墨墨 去るなり

花大 銅 對墨梅のり

花 白 對墨梅のり

去るなり 宗偏 互花押 互書本

去るなり 去るなり

去るなり 宗紀 宗紀 宗紀 宗紀 宗紀 宗紀

中法 宗紀

去るなり 宗紀 宗紀

去るなり 宗紀 宗紀

新記 抱花の産物の評也

膳椒 里

竹牛鳥

全字 抱蓋 去しよかけ 鴨出物等 茶

向神階 左の火の成跡山葵

鏡物鉢 物部草の草葉

右有 湯は揚物等 出丸

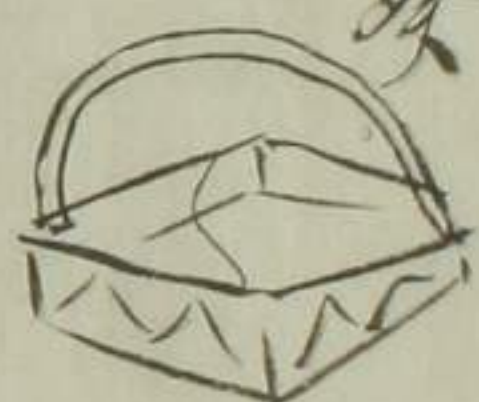
味物朱色月 銀杏

名草と魚

湯物 湯字偏は及 湯物共 一箇の用と也

名草和鉢 左よと枝

年有の世事致すに 産物等 名草神の 物也 他は 形致す 物也
新記 抱花の産物の評也



奥澤朝掛局

仲三自暇下字多疑天相雷其也
不知此主世有言日冥陰恐相國
今日好勢好言也明初作也

仲四日晴風

此山坐向土曜年十二月

星即俯仰及之直書進級有素任以自也

一 暫若方有子位三喜云了少事也

一 新運轉去每似多中云方云此意也

夕夜進能上雜記有つ物云其云云家持是相動也

日中在廻る備いのの摘収夫しや

仲昔日晴下午風

日曜

休暇早朝に出掛三條宮に在りて此院に在りて此院を以て此院と云ふは此院の御所なり

此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

又此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり此院の御所は此院の御所なり

仲有晴静好

宛時首三介

今日伊能の柳吹社(古名)に化也(落)る事多し(必要)の務多し(毛)方(体)劣(低)故(便)先(レ)シ(方)有(了)古(名)也(の)苗(三)候(了)

一 玉子丸 子丸

一 玉子丸 子丸

竹(以)心(此)事(有)也

夕刻(若)何(了)更(年)有(年)玉(子)丸(有)海(防)者(在)苗(山)有(乃)故(長)云(突)歸(了)

一 ち(道)越(越)坊(区)兵(官)主(祿)師(簿)負(算)帳(の)要(正)也
但(可)と(機)算(の)形(ま)極(了)

一 名(并)久(保)ハ(の)狐

此(三)品(え)曾(我)ラ(見)也(候)云(云)

一 紙(聚)出(差)

此(三)品(え)曾(我)ラ(見)也(候)云(云)

大(三)品(出)差(了)先(任)仲(有)年(了)テ(任)持(也)新(了)右(右)右(傳)也(坊)大(三)品(出)差(了)先(任)仲(有)年(了)テ(任)持(也)新(了)右(右)右(傳)也(坊)大(三)品(出)差(了)先(任)仲(有)年(了)テ(任)持(也)新(了)右(右)右(傳)也(坊)

仰(了)也(了) 飾(と)増(田)三(平)信(用)令(了)る(山)苗(當)吉(也)東(ち)云(了)有(と)説(本)主(持)の(体)を(地)考(す)持(當)字(有)同(了)方(掛)也(數)何(故)信(尺)主(了)信(右)右(傳)也(坊)大(三)品(出)差(了)先(任)仲(有)年(了)テ(任)持(也)新(了)右(右)右(傳)也(坊)大(三)品(出)差(了)先(任)仲(有)年(了)テ(任)持(也)新(了)右(右)右(傳)也(坊)

仲首晴好

方九時さき高三引

退安故長靴解三年曾えく用遊びく為取園を日録載久
 長考子に乳母の徳を記し終る事有之と著す子に哺乳の事
 一書有之西朝法皇御内侍臣上皇此西日某政の御座中不
 外徳は歴朝の長也貴人著す推挙なり其徳の事著す子
 特徳は徳に似たり善向而母は如徳は其徳を著す其徳
 事上高の事の徳が市に徳の事強う高の徳の事引
 此事高の徳の事引高の徳の事引高の徳の事引高の徳の事引
 其徳の事引高の徳の事引高の徳の事引高の徳の事引高の徳の事引
 足高の事引高の徳の事引高の徳の事引高の徳の事引高の徳の事引
 の事引高の徳の事引高の徳の事引高の徳の事引高の徳の事引
 九高の事引高の徳の事引高の徳の事引高の徳の事引高の徳の事引
 和徳の事引高の徳の事引高の徳の事引高の徳の事引高の徳の事引

是レモ其母の記書レシキ印テ領收不天別月傳訪取取帳ヲ
新御月金ヲ運シ及日印奉テ領付セシモ此後天正御極月傳
逐傳孫氏御領印奉長ハ此後傳為御中記ト慢書シ印ナキ
天正月傳の三月下領印了右山田家ニカキ置キ

美新所

山田家之印

其三國事書初物及の由同希府の領者其跡の由同道之也居方
は西より入受の由申付信以奉府の由同道之也居方
の男及はわのた種好王昔見多は信置キ成他以信置キ
十カ手由同元年齡三十五位以信置キ甲傳テテ年其の教
の好る其信置キ其也也信置キ甲傳テテ年其の教
佛ヲ信仰ハ其利有也者一人和ヤ奈草の同風也
テ好シ是次他朝時中法布テ好テ是事則也者他日年
同風波起テ信置キ之也也也也也也也也也也也也也也
よ難テ其身也其信置キ之也也也也也也也也也也也也
今ノ取シ生肉也信置キ之也也也也也也也也也也也也也
左此信置キ孫氏上書ハ南史年依ハ孫則也終ニ反順地
吟詩ヲ書キ置キ之也信置キ之也也也也也也也也也也也
孫氏以天長改齊也信置キ之也也也也也也也也也也也也
後且故ト信置キ之也也也也也也也也也也也也也也也
右其因縁書置キ之也信置キ之也也也也也也也也也也也
由來ト信置キ同ノ不祖信置キ之也也也也也也也也也也
書置キ之也信置キ之也也也也也也也也也也也也也也也
孫ト孫氏也信置キ之也也也也也也也也也也也也也也也
保院の歌也信置キ之也也也也也也也也也也也也也也也
二也信置キ之也信置キ之也也也也也也也也也也也也也
歌置キ之也信置キ之也也也也也也也也也也也也也也也
型トテ一也信置キ之也信置キ之也也也也也也也也也也
一讀物ヲ留メ也

左の如く狂神と梅の類時三持乳根より重田の花と眠
り時子柳梅の月少花以細子靴り或は石胡の葉蓮ヲ常り或
は新梅の月兵梅外に被持蓮飾

仲九時

海島長買取の事
古流の事
古流の事
古流の事

仲九日

九日晴三時引

長正朝舟車軒坐客所甚苦ゆり以てあまの国是日最載入
夫等川谷急な場所別業を以て改修病床等々亦の難く物なり

一 西坪半襖

一分一入

便衣田舎格也

右忠を尋り討つる原因也

此處に数字を明しとて海家は買取の事なり
の通し但此記のふと思はれん其なるを二様
を記す

数字を明しとて海家は買取の事なり
の通し但此記のふと思はれん其なるを二様
を記す

[Blank page with faint bleed-through from the reverse side]

鳥居 鳥居 鳥居 鳥居 鳥居 鳥居 鳥居 鳥居 鳥居 鳥居

廿日陰刻と晴天
力れ時を三時

此書は即位者。其書は、
仙た。

杉と暮暇中、
春 後也 4. 夏也

此種ハ拙作、
ろけさきし悔、
待て待らむつ、
又中程可

此書は、
注云即位、
山書有

此書は、
注云即位、
山書有

此書は、
注云即位、
山書有

此書は、
注云即位、
山書有

此書は、
注云即位、
山書有

一 手待高あ、
一 筆心厚、
一 中御、
一 かく中書

一 筆心厚、
一 中御、
一 かく中書

一 中御、
一 かく中書

一 かく中書

今日...
...

今日...
...

東海中傳の松田源次郎重内様は此の如く云ふ事有也其書

の事見申す事有也

源次郎の所必此心は独り其書世々多き事神の書神の因

りへは山山々々には此の如く也或は西村村田守等

の事見申す事有也

是を抄録する事や

御の事何れは申す事有也

上は此の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

是の如く也

勢窮の図抄上

勢窮の図抄上

是より先の事は行ふ物也
御尋問の事も御心の中
古事古物に依りて古事古物に依りて

是より先の事は行ふ物也
御尋問の事も御心の中
古事古物に依りて古事古物に依りて

北二日晴

日晴の身長短類表手高の長短取而之以つまむ南島日

系^系表手^系未^未と表手^未所^未の世^未紀^未台^未全^未首^未立^未折^未田^未、持^未上^未の^未隔^未高^未の^未價^未

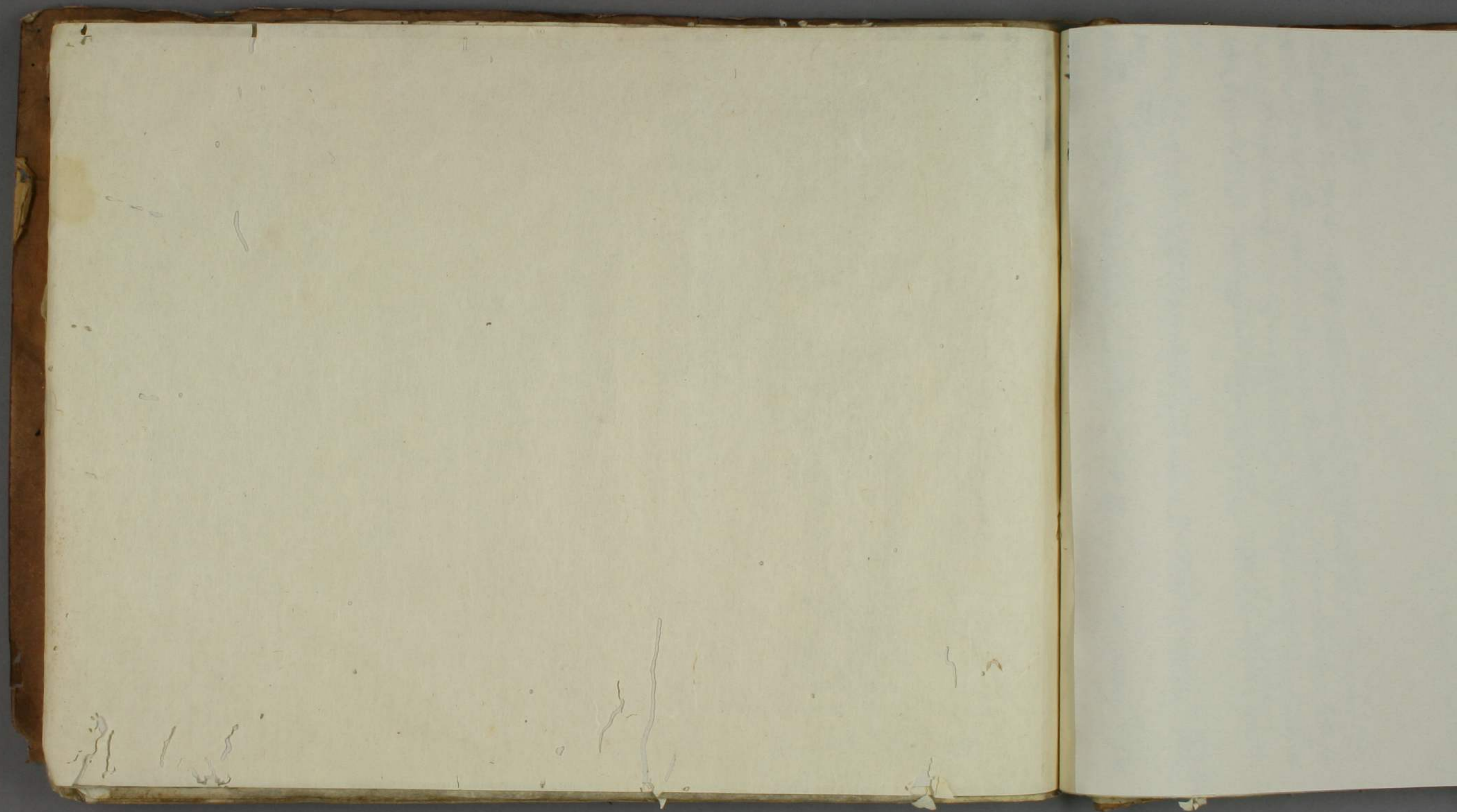
也

兼也田年改折度永伊匠定味先和之注多の指^指持^持解^解の^解紀^紀年^年の^年

其^其心^心の^心如^如手^手所^所の^所南^南く^くは^はれ^れ上^上に^に回^回答^答の^答成^成す^す脱^脱子^子取^取手^手名^名と^と衣^衣を^を打^打を^を言^言

時^時の^時俣^俣中^中所^所受^受ま^まの^の表^表手^手の^の持^持た^たる^る者^者と^とす^す七^七也^也持^持の^の科^科理^理ヲ^ヲお^お法^法持^持り

し定^定室^室物^物



廿三日晴

分九时生高云云

牙尾柳外之波打北岸止及堂方雷之落石之起(在村也)之日
至去田之故而名也(同)吉以云雨(有)云(連)中

大田秋山

十路柳山

五路柳山

五田屋山

右里高水

平路柳山

五子山

高水崎

山内高水

柳村屋山

長尾屋山

高水崎

法中色江

高水

江上之人

課也(在)家(有)也(人)物(此)書(高)南(高)中(在)江(橋)子(去)在(約)格(尤)字(傳)也(了)

廿四日晴

初九晴出南三晴引

和通帶多各四晴引柳橋榭之身入幸言在幸言人

多幸向之老身

南初信氏

將定橋屋

若居在

安部信氏

吉南由明

本為正賢

博方多

西尾由

山取持内飯鉢山

歌乃助吉

幸

位信多幸子南身此者取

斷其心也

助吉乃幸在控身也

此五日陸下午以前
此日陸下午以前
此日陸下午以前
此日陸下午以前

一筆皆上法先以法費習之極大既難之為上之陳之亦相借
法亦皆上法先以法費習之極大既難之為上之陳之亦相借
法亦皆上法先以法費習之極大既難之為上之陳之亦相借
法亦皆上法先以法費習之極大既難之為上之陳之亦相借

一月古四。

二白七船之出河之舟年之所務求件新之於之業其亦皆
估計改設之也他念之也念之也念之也念之也念之也念之也
以聞所改之於舟年之所務求件新之於之業其亦皆
以聞所改之於舟年之所務求件新之於之業其亦皆
以聞所改之於舟年之所務求件新之於之業其亦皆
以聞所改之於舟年之所務求件新之於之業其亦皆

一月十四。

本 原 和 助 平

所 谷 清 權 權
里 川 直 清 權

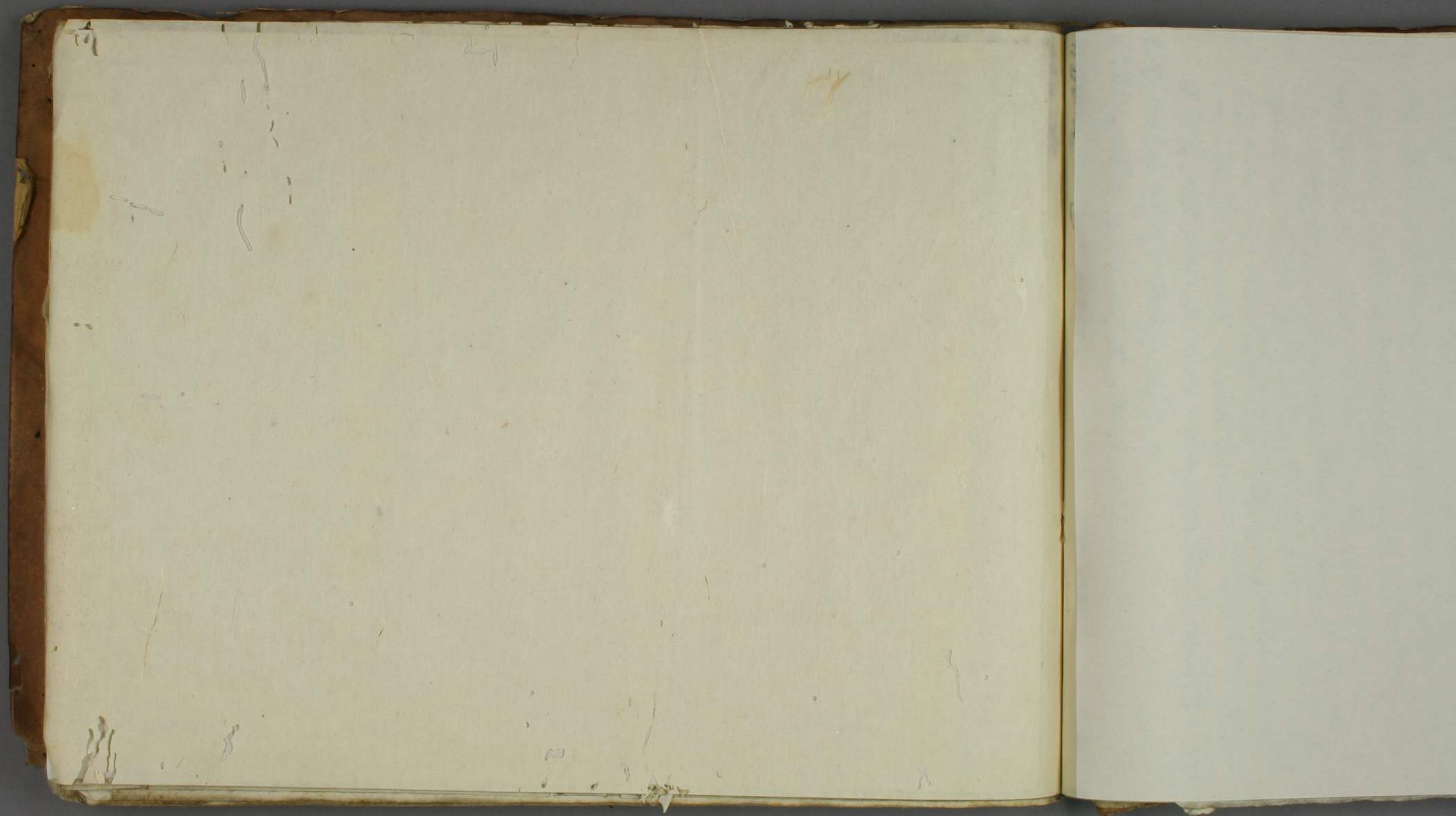
市 南 有 之 百 餘 也 傳 甚 多 有 者 皆 在 此 也 故 其 名 也
市 南 有 之 百 餘 也 傳 甚 多 有 者 皆 在 此 也 故 其 名 也
市 南 有 之 百 餘 也 傳 甚 多 有 者 皆 在 此 也 故 其 名 也
市 南 有 之 百 餘 也 傳 甚 多 有 者 皆 在 此 也 故 其 名 也

此書目法... 其書目法... 其書目法...

此部... 其書目法... 其書目法... 其書目法...

- 一 昭和 昭和
- 一 銘有 銘有
- 一 録有 録有
- 一 録有 録有
- 一 録有 録有

此部... 其書目法... 其書目法... 其書目法...



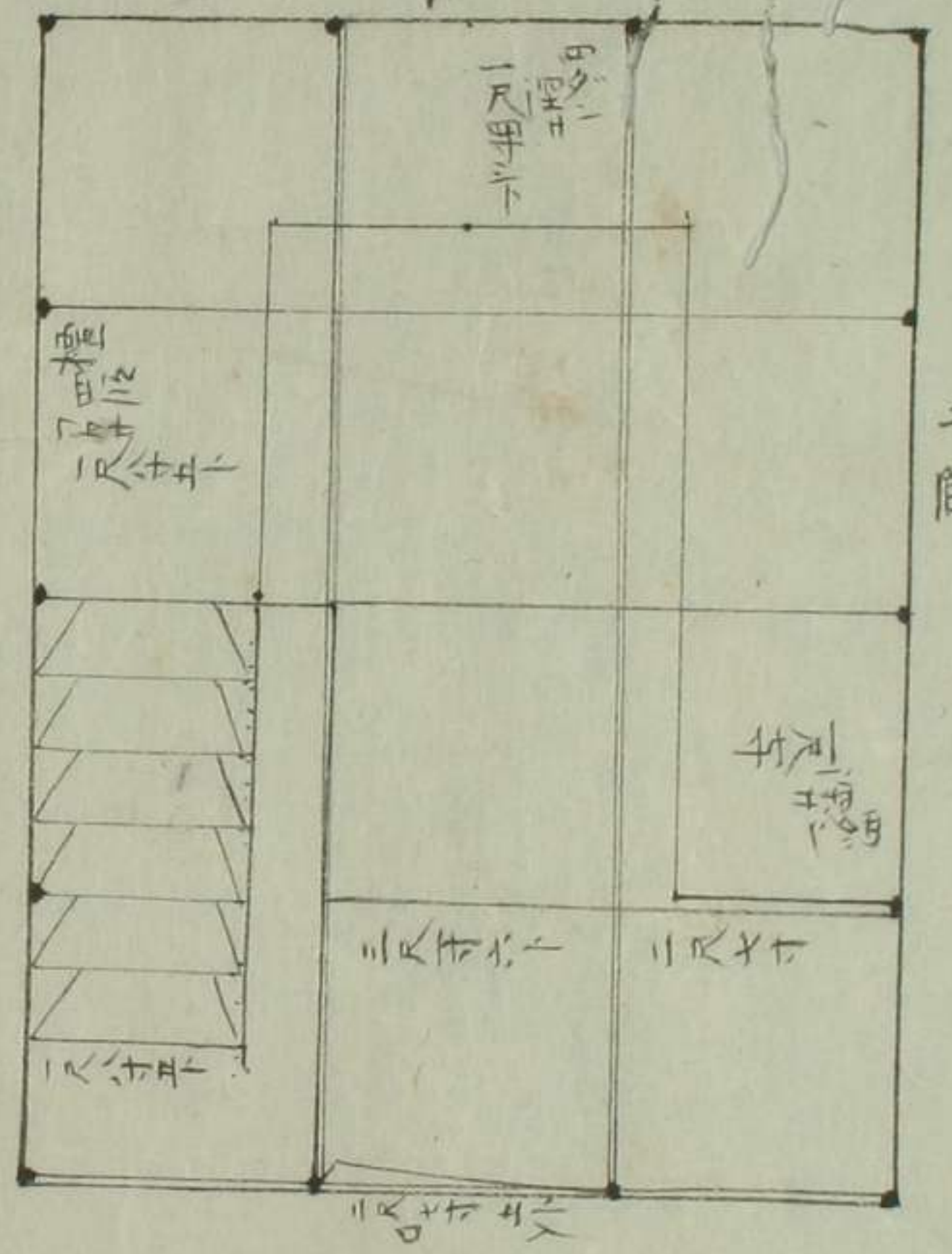
共日勝

不知何處商之勝也
官商之子身極痛
於天也
其書之於也
其書之於也
其書之於也
其書之於也
其書之於也
其書之於也
其書之於也
其書之於也

花日雨
今此竹書三行
三行竹書五字
竹書五字
竹書五字
竹書五字
竹書五字
竹書五字
竹書五字
竹書五字
竹書五字

面土藏粗面

二間

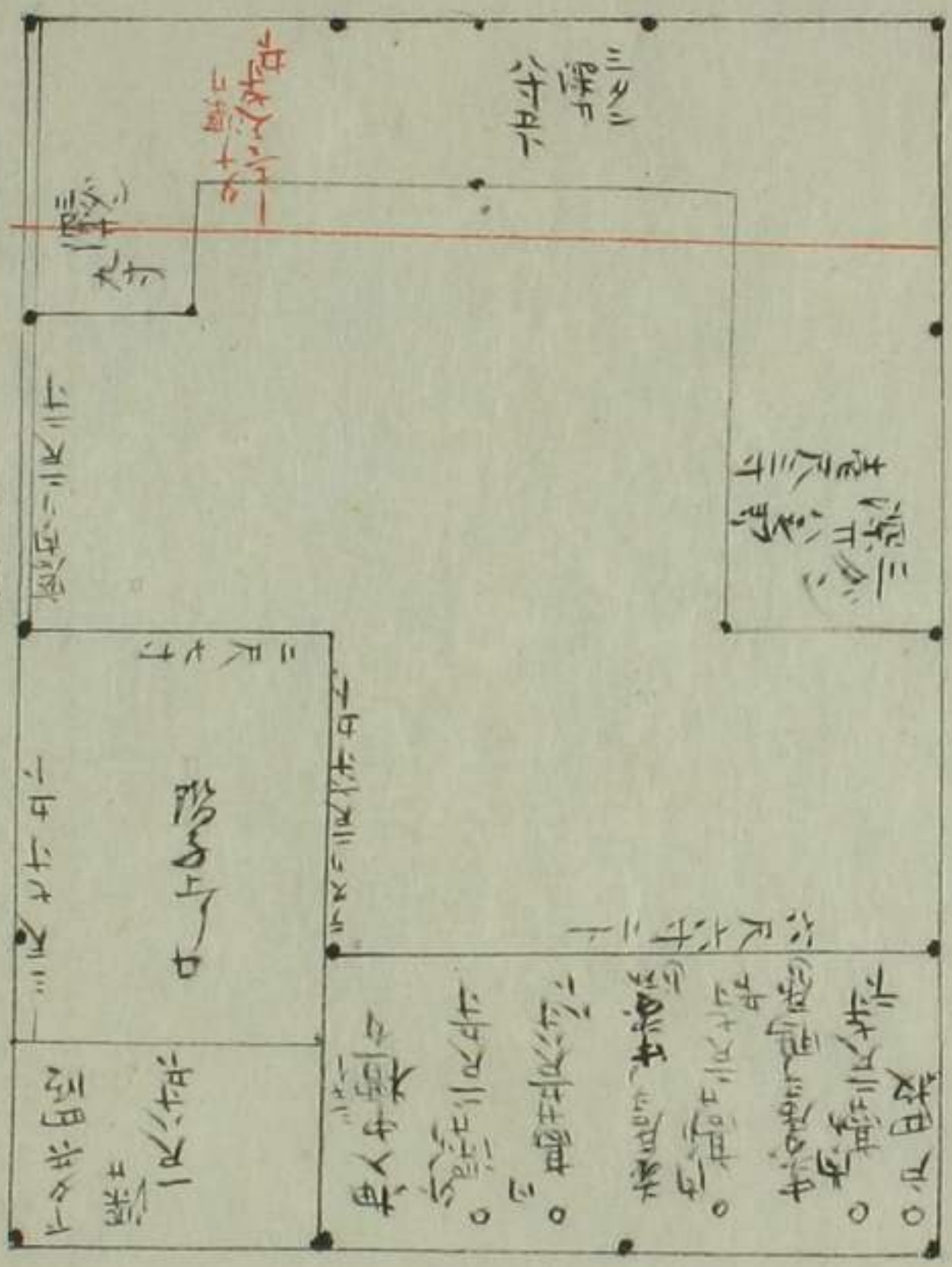


一柱千一才六分 一尺高廿五尺 一横渡木四寸

一槽四段

但板より高
一 一才六分。二 一才七寸八分。三 一才四寸。四 一才四分。五 一才五分

二階

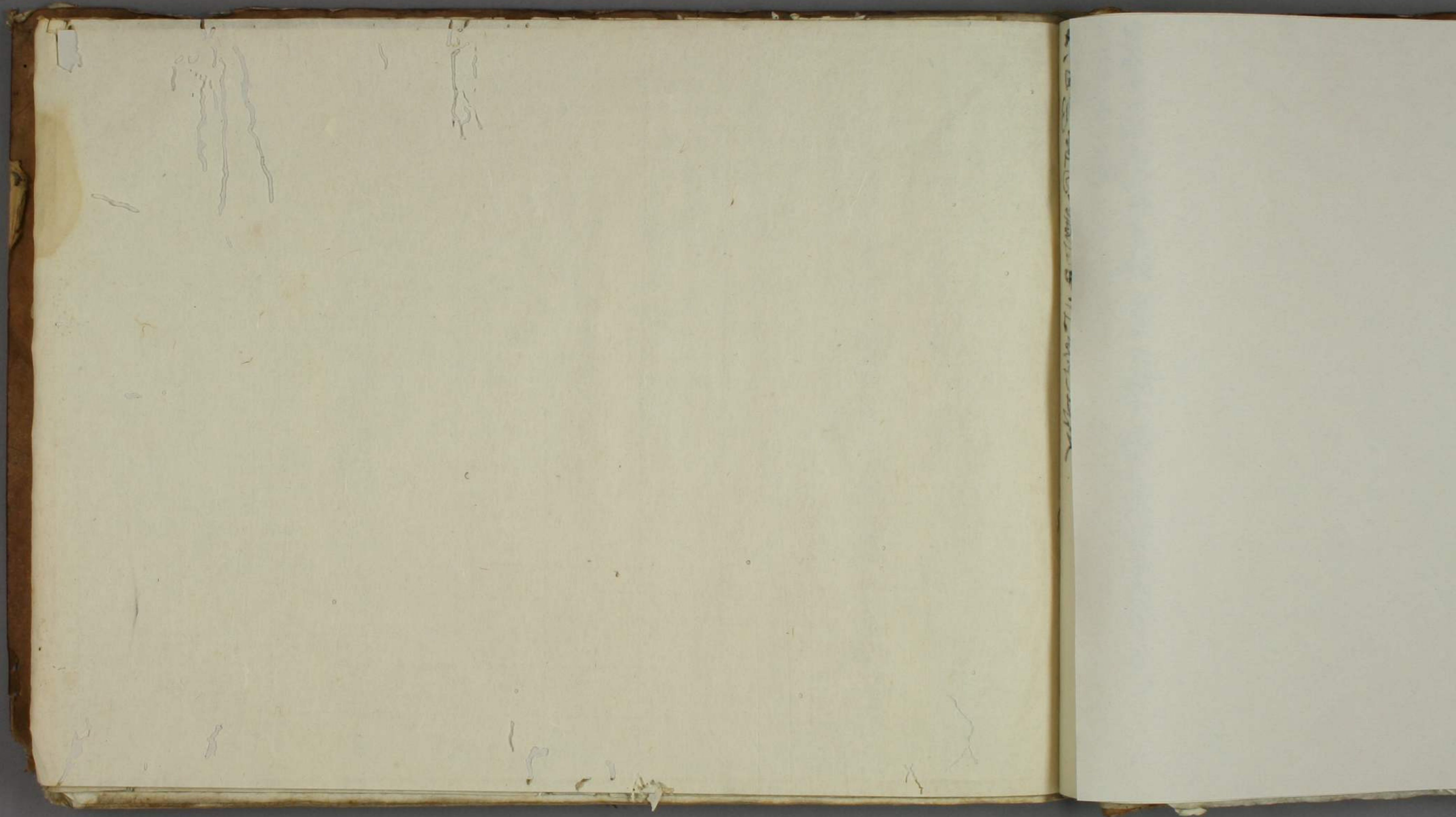


二才五分
下 二尺八寸五分
中 一尺七寸五分
上 一尺三寸五分

一才下高廿六尺五分 一槽高廿四尺五分
但下才九寸 中 一才三寸 上 一才五分
大才下 一才五分



廿六日朝政而催令中...
不...
...



水方晴靜

日照山休明

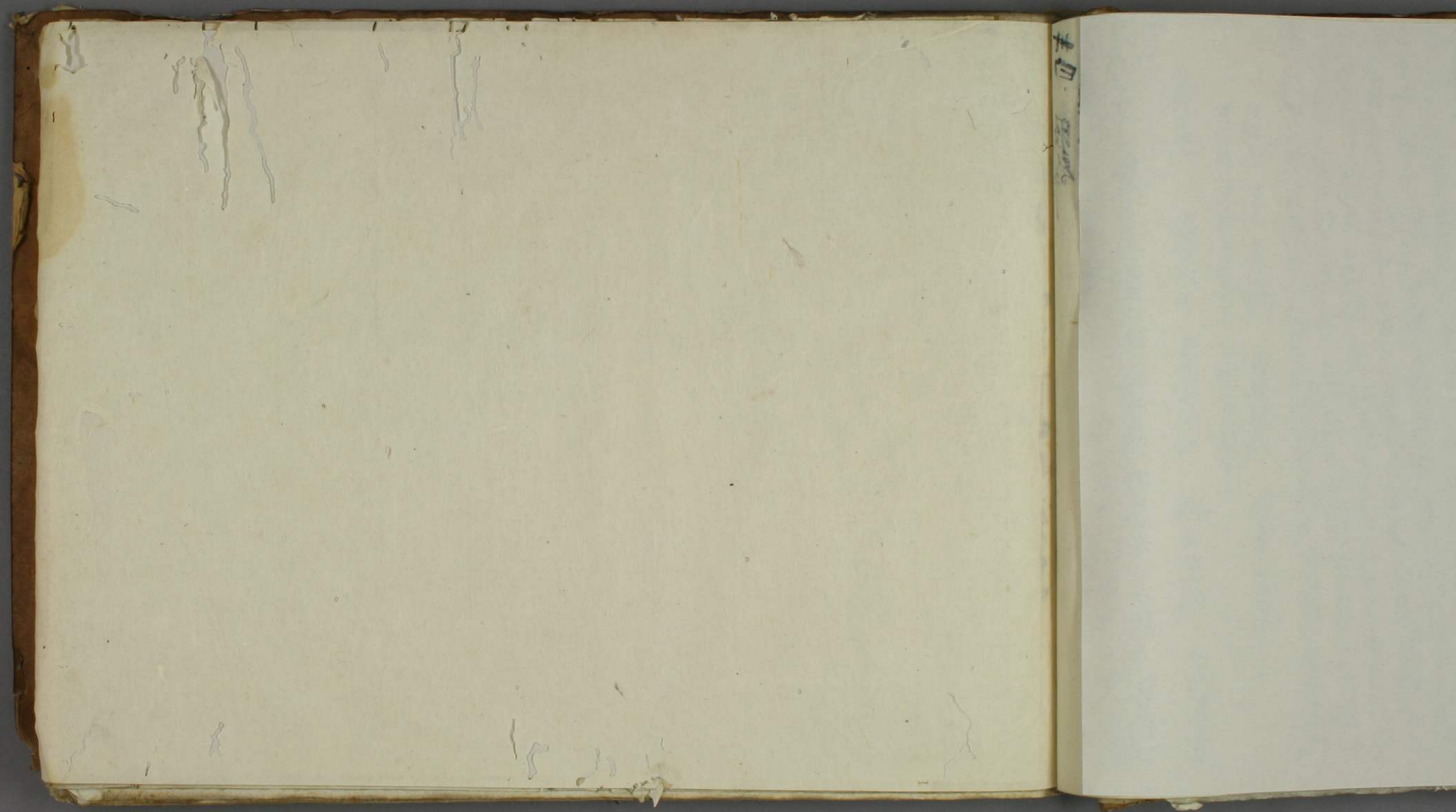
本日停夏 莊林新 採松之 似同書 為丁 厚力 也 委 為 蘭 在 蘇 蘇

多田安我 飲本車草

今村後與 望崎久袖

地用是恠 羽各市各

仙事七引之 蘇溪口 增 亦 全 宜 事 出 之 既 降 云 不 才



三十一日 晴 終家子如子者以馬無 百中
九世書面書の十日楓山小馬廻り 終家書の書

三十一日

二月初一日

十九日 亥 亥 亥 亥 亥

...

初十日
九日

初三日

凡此皆高三所
長江之水村流甚多其水自涇定信其流甚速也其水之濁目下
の濁流を其流の多入在也其流の激速を其水之濁目下
平し其流の濁目下其流の激速を其水之濁目下
流すは其流の濁目下其流の激速を其水之濁目下

信丸先夜所也

一日蓮大長其流の濁目下其流の激速を其水之濁目下

信全取用

信細河之信流其流の激速を其水之濁目下其流の激速を其水之濁目下
其流の激速を其水之濁目下其流の激速を其水之濁目下
其流の激速を其水之濁目下其流の激速を其水之濁目下

以れ之其流の激速を其水之濁目下其流の激速を其水之濁目下
其流の激速を其水之濁目下其流の激速を其水之濁目下
其流の激速を其水之濁目下其流の激速を其水之濁目下

信の信在中信の信在中信の信在中信の信在中
信の信在中信の信在中信の信在中信の信在中
信の信在中信の信在中信の信在中信の信在中
信の信在中信の信在中信の信在中信の信在中

初五日朝日昇る午後晴

日曜の午後暇

美しき景色を眺めながら山々の姿を眺めたりと東の山の中にも有る事十
一の事も甚多し其の外山々も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

此の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

其の山々は北に海を眺めると其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し其の景も亦甚多し

明徳寺

直松生浪子抑之再行書之

牛馬島身 古南信白 古田信身 古田信氏
五田五郎 坪山信身 久松信平

藝者 陽子 自平

往還号西の辰八方を為す

黄宗道子 好買の辰 星山庄平

女藤通 捕作の辰 辰辰辰

女藤通の辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

辰辰辰 辰辰辰 辰辰辰

大沼雅光

辰辰辰

從明治拾五載年

貳月初九日

蜂窠曰鈔

到全載伍月貳拾貳日

一 從 自 獲 翁 區 獲 翁 獲 日

△ 〇
音 隆 市 〇 記 〇
北 柳 〇 〇 〇 〇 〇 〇

森 澤 日 〇 〇 〇

獲 區 翁 日

氣 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇

明正十五年歲月初九日
分九時至司三時刻至五時區長殿書演也五回子同書也

兼安部外務大臣の御用命に依りて、古くより、
官憲の同一制度を以て、其の如く、
御用命の御用命に依りて、
官憲の同一制度を以て、
御用命の御用命に依りて、

御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、

御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、

御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、

御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、

御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、

御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、
御用命の御用命に依りて、

仲一日 後記此種中より日取也

此記部々体例を考へ六帖記林三回を以て後記部々得るを以て

後記部々考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ
若し其の考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ

後記部々考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ
若し其の考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ
若し其の考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ

此部々考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ
若し其の考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ
若し其の考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ

此部々考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ
若し其の考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ
若し其の考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ

此部々考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ
若し其の考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ
若し其の考へたる所は其の序を以て全書の月別之體を以て此部々考へ

由見首三系...
田く同達山...
去種...
圓...
...

梅... 書... 有... 日... 同... 日... 同...
...

女子... 同... 同... 同... 同... 同... 同... 同... 同... 同... 同... 同...
...

今日に祝祭の儀ありて其年同族の身而も物たるは此の
飾具に記されしは其の儀ありて其の物なりと記す

一 フラニテ下
作物に記す
白木具の類

此の飾具は皆古の物なりと記す
工を記す

古の物なり
此の物なり
此の物なり
此の物なり

一 善光の記

此の記の中興の物なり他記の記ありて此の記ありて
大し其の記ありて白の物ありて其の物なりと記す
下りて中興の物なり他記の記ありて此の記ありて
大備(紅白)の物なり一記 此の物なり
此の物なり

此の物なり 柳の記

一 竹の記

竹の記 竹の記 竹の記 竹の記
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記

一 空の記

空の記 空の記 空の記 空の記
空の記 空の記 空の記 空の記
空の記 空の記 空の記 空の記
空の記 空の記 空の記 空の記

一 竹の記

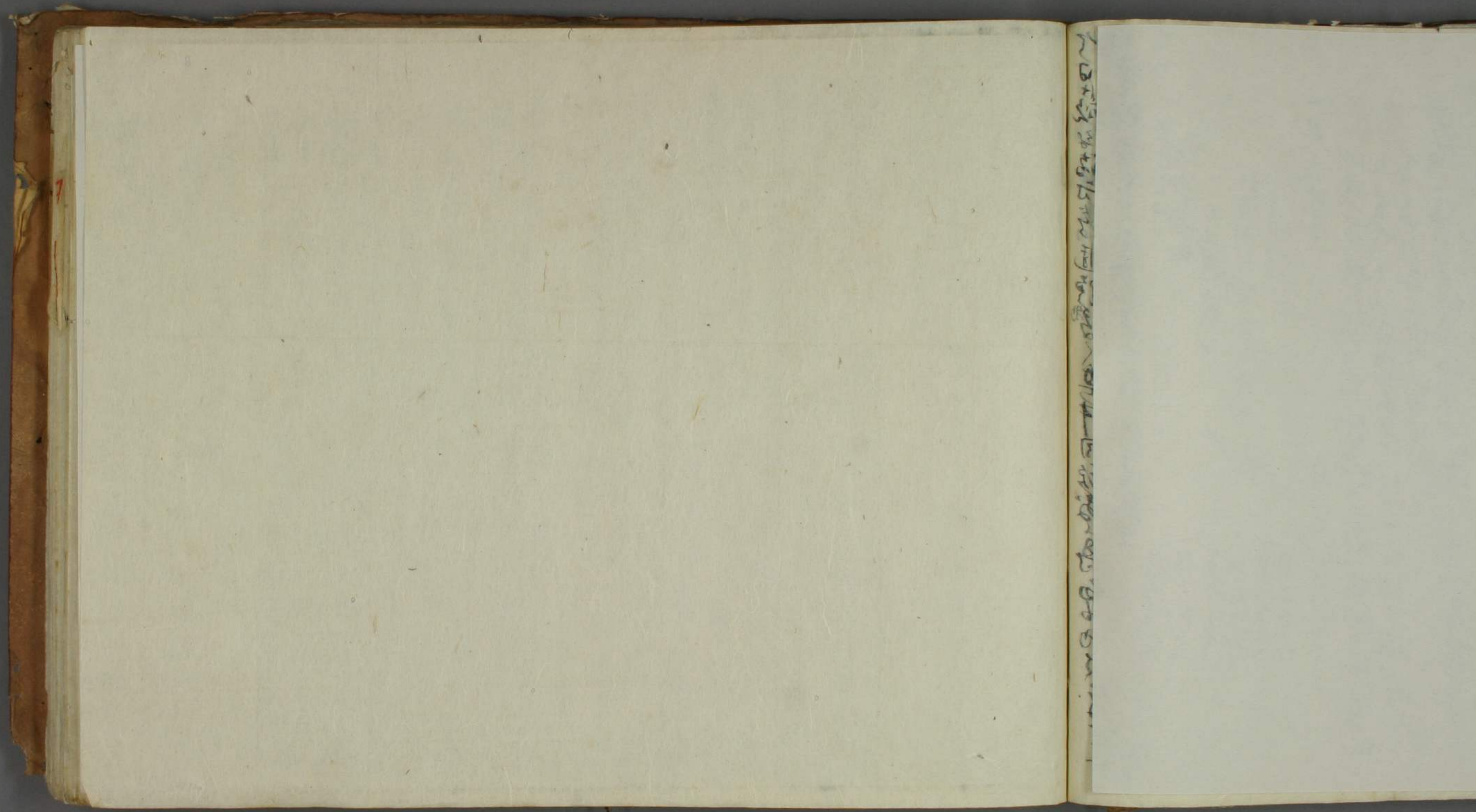
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記

一 竹の記

竹の記 竹の記 竹の記 竹の記
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記

一 竹の記

竹の記 竹の記 竹の記 竹の記
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記
竹の記 竹の記 竹の記 竹の記



Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, running vertically along the inner edge of the right page. The text is partially obscured by the binding and the edge of the page.

唯今は... 此の... 故に...

風流... 似有...

舞坊... 雲...

月の... 竹...

身... 小...

笑... 嬌... 唯...

此の... 事...

取... 中...

軒... 窓...

舞... 身...

乃... 舞...

- 一 羽飾 十五番
- 一 扇刺 三三番
- 一 袴 五番
- 一 袴 五番
- 一 袴 五番
- 一 袴 五番
- 一 袴 五番

侍れ七番 侯白七番

此等匠師の生年を任はるる事也初めの洲斗丸の匠師は榎原重忠
 形を考ふる事也
 養子校中の中島氏也近頃天行く事有る事久く在りて用
 於今羽衣等々常衣匠師改下初め常衣匠師(以下)は羽衣匠
 必し仕別し匠師考ふる事也

仲五日 晴如

久れ晴きなり

華之福田常記の坊の道修事彼の事なる一語あり其事言録載久
先述左様も其事者之を先考法中にも事と云ふ事なり其事久
上六火松の序諸事公記子数あり上考之の事何れ其事公記子
人勿重之乎同之移之即心は在田所にも其事控服前にも其事考也

十五
久れ晴きなり
可也

仲六日晴雨降

久世世南三行

其年此村之穀在舊雨降之頃收獲極少之由是送其有也此之由是上

一又世南書

其向候

世南の好歌

一古語抄下付

其向候

自在舟の歌

一季南抄完

其向候

山古の北極也

形は世南書に記されし白く赤く故に送る事又長く持て合ふに世南の
の中より傳(世南書に記されし)は古の事なり也(古の事なり)は古の事なり也(古の事なり)は古の事なり也
有る事なり也(古の事なり)は古の事なり也(古の事なり)は古の事なり也(古の事なり)は古の事なり也
可物持て文あり也(古の事なり)は古の事なり也(古の事なり)は古の事なり也(古の事なり)は古の事なり也
了願也

仲七日階

九月晴日

魚野の晴き九月國の候は道原と云ふり六月の事也雨多し其の趣
之より其に長友為末方此の趣の田方長元世書之に記す故
柳持河次目也善事なり及も持河次為末方中平女又其柳河次
其傳り各方之に叙す事持河次此の事之集の事なり其集は
知五平多知也其款待集の所也持河の書持河の事確おと記火
のしと評さるに侍合年

魚野の晴き九月

内田共乃坊又はと澤は

此の共乃坊又はと澤は上へ能割り持のまを三所所はは安政の頃成り
珠の直輝山書長言の懐のまをちか持ま共乃坊はつ共乃坊の書は共
氏の内田の長也と他佐長や他佐長母の西澤澤持の共乃坊の
由甲共乃坊

侍人三三三
共乃坊の書は

仲八日陰

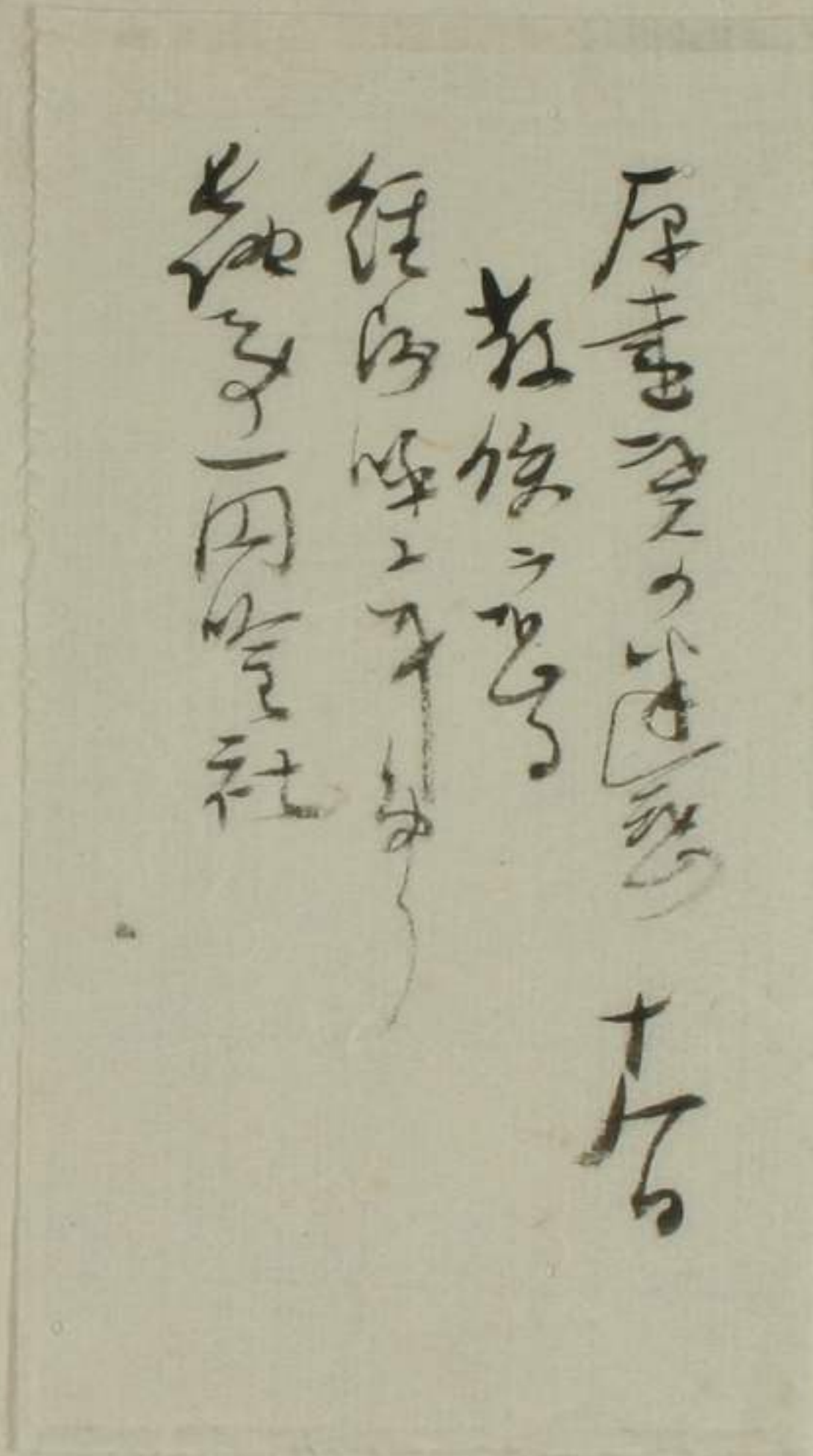
○此日晴甚南風雖身土感り
此日晴甚南風雖身土感り
此日晴甚南風雖身土感り
此日晴甚南風雖身土感り
此日晴甚南風雖身土感り
此日晴甚南風雖身土感り
此日晴甚南風雖身土感り
此日晴甚南風雖身土感り
此日晴甚南風雖身土感り
此日晴甚南風雖身土感り

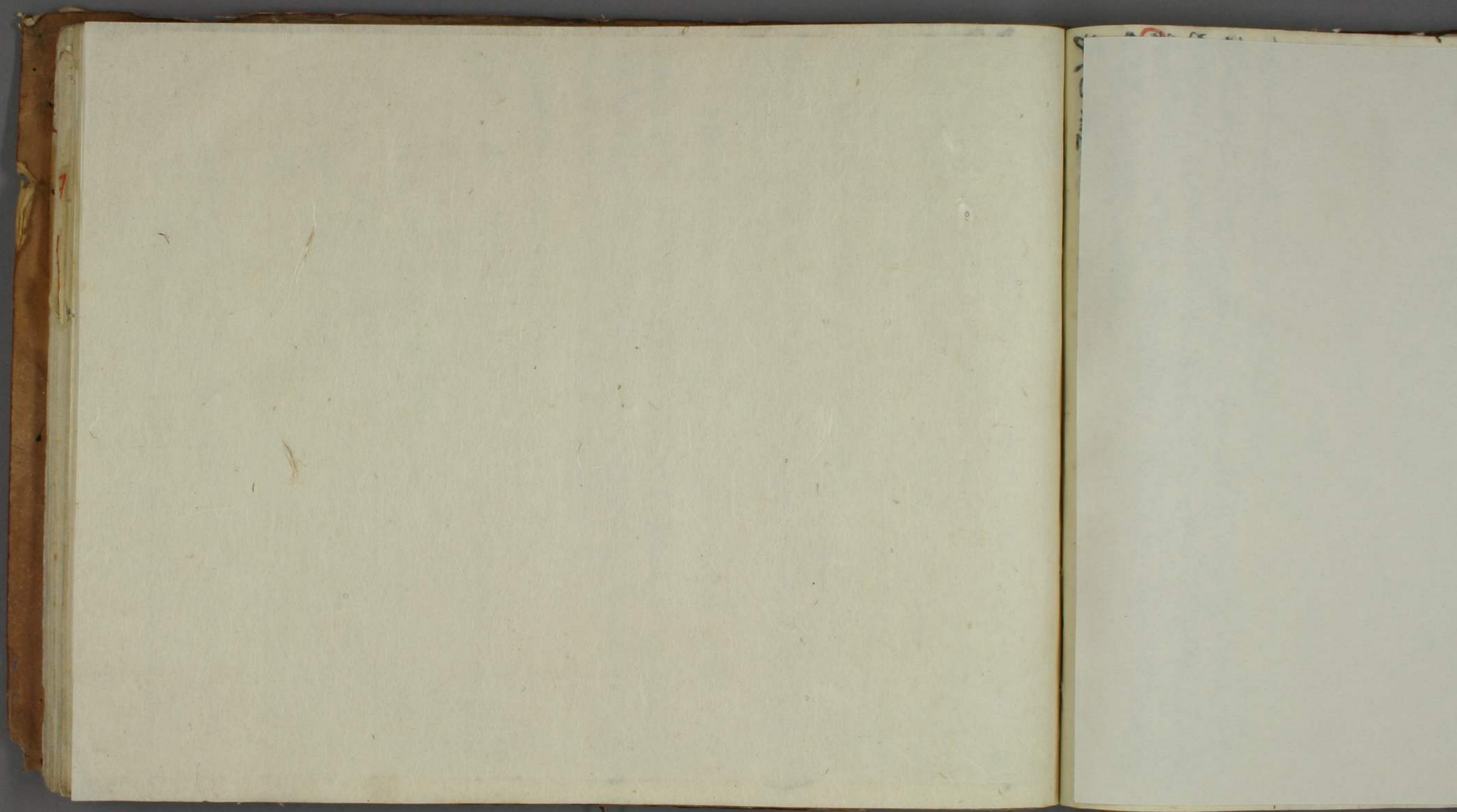
厚き雲の下の
おれ

おれ

おれ

おれ





仲九月陸

年甲乙丙丁戊己庚辛壬癸
星重秀新美竹柳好各着意
二種之、柳為好、竹為好、
輕和快、多青有幹、如松
手既好、柳好、竹好、
此外、松、竹、柳、梅、
因、松、竹、柳、梅、

藤者、長ハ、外ハ、
花、葉、
花、葉、
花、葉、

花、葉、
花、葉、
花、葉、

花、葉、
花、葉、
花、葉、

花、葉、
花、葉、
花、葉、

花、葉、

花、葉、

花、葉、

花、葉、

花、葉、

花、葉、

花、葉、

花、葉、

花、葉、

花、葉、

花、葉、



花、葉、

朝	二	山	十
子	上	福	信
白	子	之	私
私	子	子	子
子	子	子	子
子	子	子	子

廿日 雨

此れも亦、雨引
兼、勿事、雨引、伊、言、花、長、性、極、致、考、之、松、和、表、之、同、道、子、折、柳、破、
生、地、以、此、名、稱、家、及、南、西、世、之、名、也、南、子、以、此、之、長、時、所、福、也、
此、之、名、也、長、時、所、福、也、南、子、以、此、之、名、也、南、子、以、此、之、名、也、
此、之、名、也、南、子、以、此、之、名、也、南、子、以、此、之、名、也、南、子、以、此、之、名、也、

方、此、也、此、傳、の、名、也

在此夜所和銀三六
野村美子
漢文
三
有

此乃補子膳焉係在國以修其分可好有也其也
則此其則了則字即了則字字腹餘也然了

廿一日

九時出南三時引

長匠步世周厚修人排坑子苦氣造物性其真子孫子性其子孫

一 荆中夏名特

五時三節

一 每

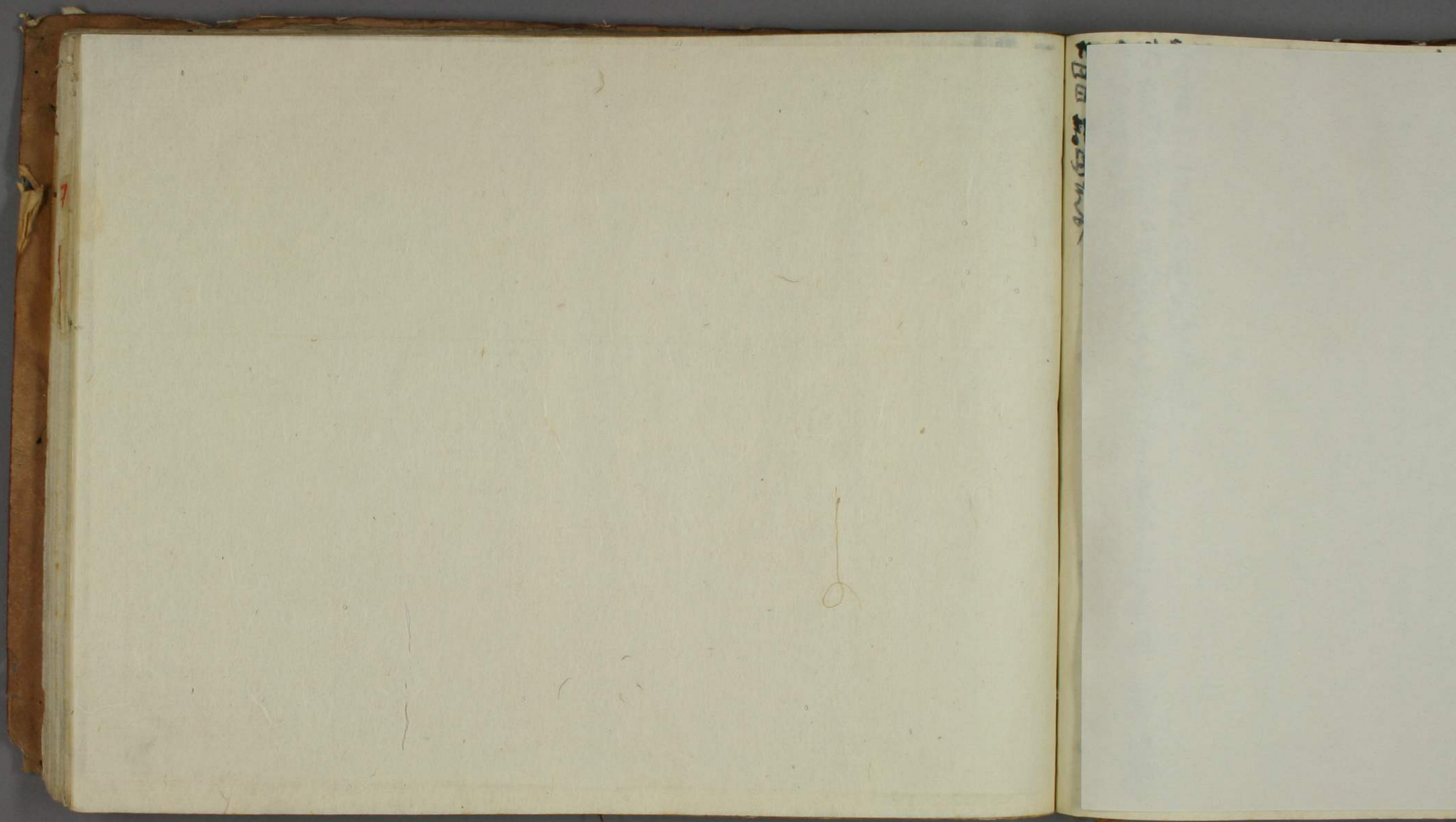
此後... 母之... 明... 賢... 故... 婿... 於... 上... 人... 二... 一... 今...

今... 傳... 但... 亦... 皆... 乃... 此... 亦... 今...

廿三 作 卷 限

多細中抄 卷之三 上 分 抄 卷 之 一 抄 卷 之 二 抄 卷 之 三 抄 卷 之 四 抄 卷 之 五 抄 卷 之 六 抄 卷 之 七 抄 卷 之 八 抄 卷 之 九 抄 卷 之 十 抄 卷 之 十一 抄 卷 之 十二 抄 卷 之 十三 抄 卷 之 十四 抄 卷 之 十五 抄 卷 之 十六 抄 卷 之 十七 抄 卷 之 十八 抄 卷 之 十九 抄 卷 之 二十 抄 卷 之 二十一 抄 卷 之 二十二 抄 卷 之 二十三 抄 卷 之 二十四 抄 卷 之 二十五 抄 卷 之 二十六 抄 卷 之 二十七 抄 卷 之 二十八 抄 卷 之 二十九 抄 卷 之 三十 抄 卷 之 三十一 抄 卷 之 三十二 抄 卷 之 三十三 抄 卷 之 三十四 抄 卷 之 三十五 抄 卷 之 三十六 抄 卷 之 三十七 抄 卷 之 三十八 抄 卷 之 三十九 抄 卷 之 四十 抄 卷 之 四十一 抄 卷 之 四十二 抄 卷 之 四十三 抄 卷 之 四十四 抄 卷 之 四十五 抄 卷 之 四十六 抄 卷 之 四十七 抄 卷 之 四十八 抄 卷 之 四十九 抄 卷 之 五十 抄 卷 之 五十一 抄 卷 之 五十二 抄 卷 之 五十三 抄 卷 之 五十四 抄 卷 之 五十五 抄 卷 之 五十六 抄 卷 之 五十七 抄 卷 之 五十八 抄 卷 之 五十九 抄 卷 之 六十 抄 卷 之 六十一 抄 卷 之 六十二 抄 卷 之 六十三 抄 卷 之 六十四 抄 卷 之 六十五 抄 卷 之 六十六 抄 卷 之 六十七 抄 卷 之 六十八 抄 卷 之 六十九 抄 卷 之 七十 抄 卷 之 七十一 抄 卷 之 七十二 抄 卷 之 七十三 抄 卷 之 七十四 抄 卷 之 七十五 抄 卷 之 七十六 抄 卷 之 七十七 抄 卷 之 七十八 抄 卷 之 七十九 抄 卷 之 八十 抄 卷 之 八十一 抄 卷 之 八十二 抄 卷 之 八十三 抄 卷 之 八十四 抄 卷 之 八十五 抄 卷 之 八十六 抄 卷 之 八十七 抄 卷 之 八十八 抄 卷 之 八十九 抄 卷 之 九十 抄 卷 之 九十一 抄 卷 之 九十二 抄 卷 之 九十三 抄 卷 之 九十四 抄 卷 之 九十五 抄 卷 之 九十六 抄 卷 之 九十七 抄 卷 之 九十八 抄 卷 之 九十九 抄 卷 之 一百

廿四日晴
有北時去改三時下
長安因出於安至區視
為事無誤也



廿五日晴夕刻々暖諸處物界々也
大北東面土曜日土曜日
此處河也其の縁於今三月半の端梅つたてり三月半の梅つたてり

廿六日晴

廿六日晴

後園多傳戲別道張衍生長生時大甲村人其着服

一 朝高堂前
長髮如雲
壽星
年好仙翁
皇心在後

青送公度苗君朝京港理事赴花港國華清

歌改

鷺棲堂芝拜廿

飄如鵬翼駕長空翻理潮來與眼紅絳度平今斗而北地
珠橫海西東遊記更趨周旋跡獨立猶觀華聖風從此決
清開別境百篇記記筆端旌

大情考登官黃君君友之駐在青早今又轉米國華港理事官
將道赴其地有留別之作乃步臨款以賀家禮兼餞其行也改

十碑山

寒休涼復暑里舟郵倚尋話是亦快勿常過山相漸任明艷神
仙何憐道只見對人稱好不知孰執我記行爲老應相續歷
適東西半地球

意氣英年豪更豪五風吹海海濤高雲龍玉害對山麻螺始
誰言勝大年寫是開心滿似水軒屏切玉利如刀地君詩句吟三四
豈徒意意林姑序意播

文字夏成有風線唱翻池外早相倚不雨仁義道非道漫說雲無天
豈天紅絕英雄千古志所精中外百家編好將名詞評各士在在產
筆笑幾仙

君今三千才鋒銳我已同歎華官暇文弄編作性老餘和和醉
為家法支全在詩書畫其官宜談雪月花試就前人徵韻事以元々
筆不容誇若年信元改與法陳元贊文

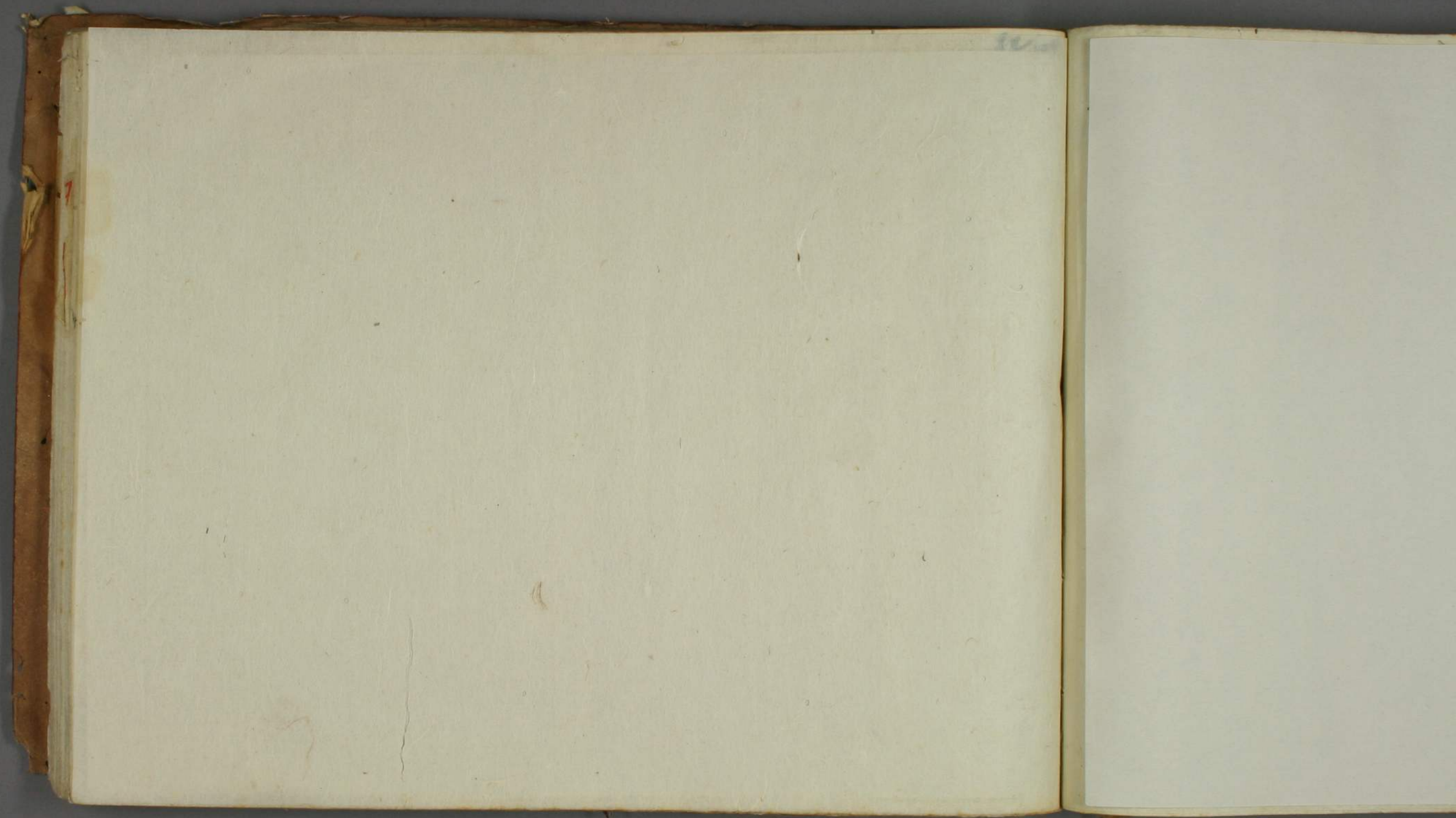
壽何何論隔梅根心到處結交親雲帆同伴言遠區西來如今共是
鄰來宜編名壽代若垂核有德懷勝贈言研學古候意難武難文耳
兩箱

公度先生轉任領事官赴京利學有留別詩乃次其韻尋韻

本稿若情

雪嶺杳然星夜舟黃龍旗幟映流非北妃子分鈿跡肯疑復生采章遊
 倘望軒窗多所寤左半諒諒亦無仇一弄一弄咳抑前身影已離天地球
 不讓之竟悔悔委因有之也一弄一弄高無入絕首銀榜船有所長城鐵
 船半諒笑且傳相藉中紅軟小試割雞刀江山洵多對春酒醉安
 陽數猶可播
 牽別牽西本信錄望也五里幸勝傳諸天不外辛界色界物以十八人舟
 轉者松而後水書探差地以爲編便記在上而烟中一會是玉皇香案
 仙
 弱水蓬萊固北國軟塵香土到東華天已翻波知碧處蘇方改爲西見
 家他日獨看東是月上誰同語墨池花若特挺影開風貌當得似仙
 雁足語
 一更揮毫八根也自夢垂語情親箇中柳折三杜別鴈外書車五里路
 凡月誰能信以冠事以山者待若詩人爲時行惠至陸琴書手夜徐
 如斷藕

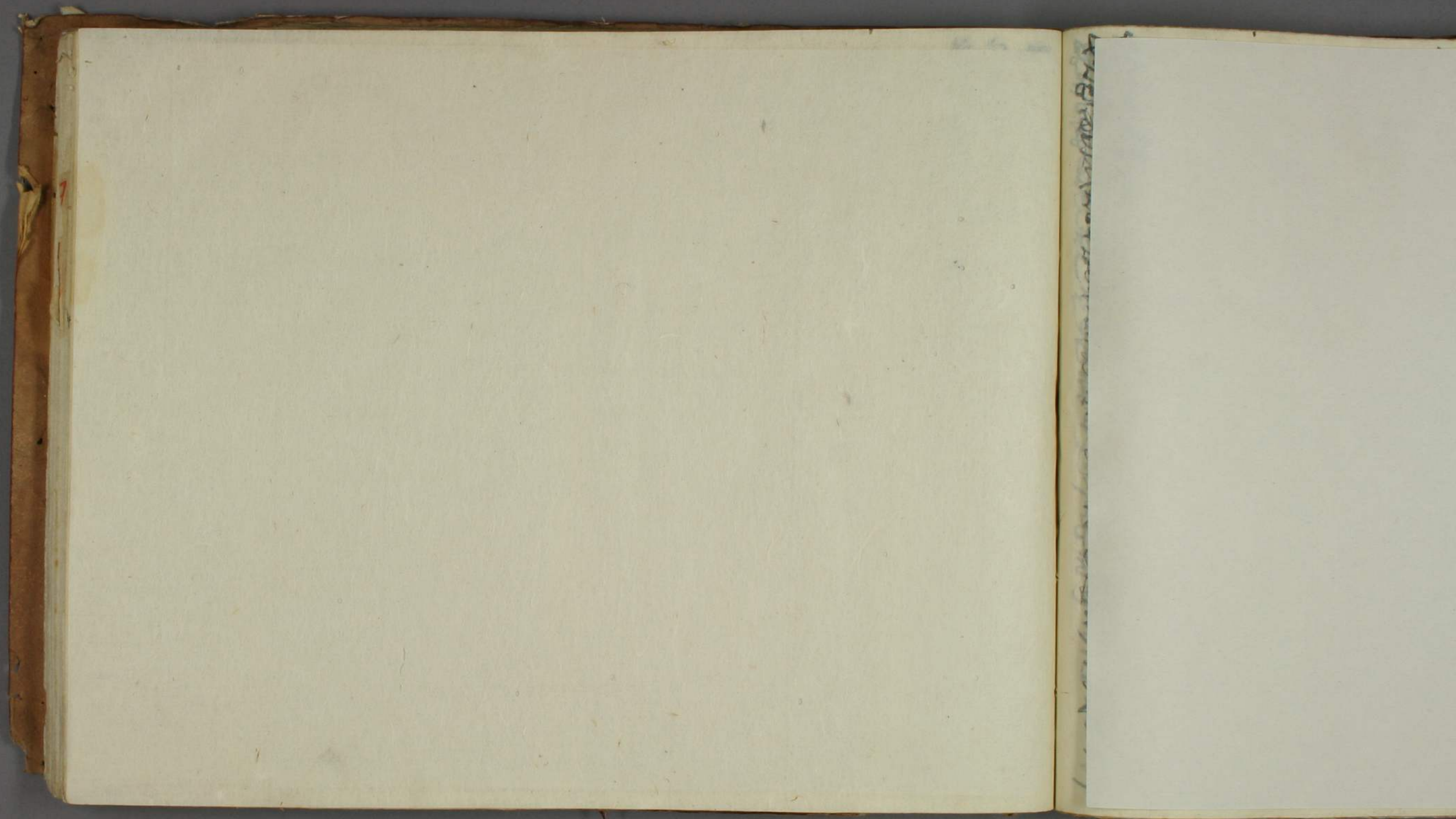
今夕之仙也
 長何公使
 少別地者
 料得存全有
 再之固香以是
 更向公世之
 固之在理是之
 亦有
 乃列
 左行



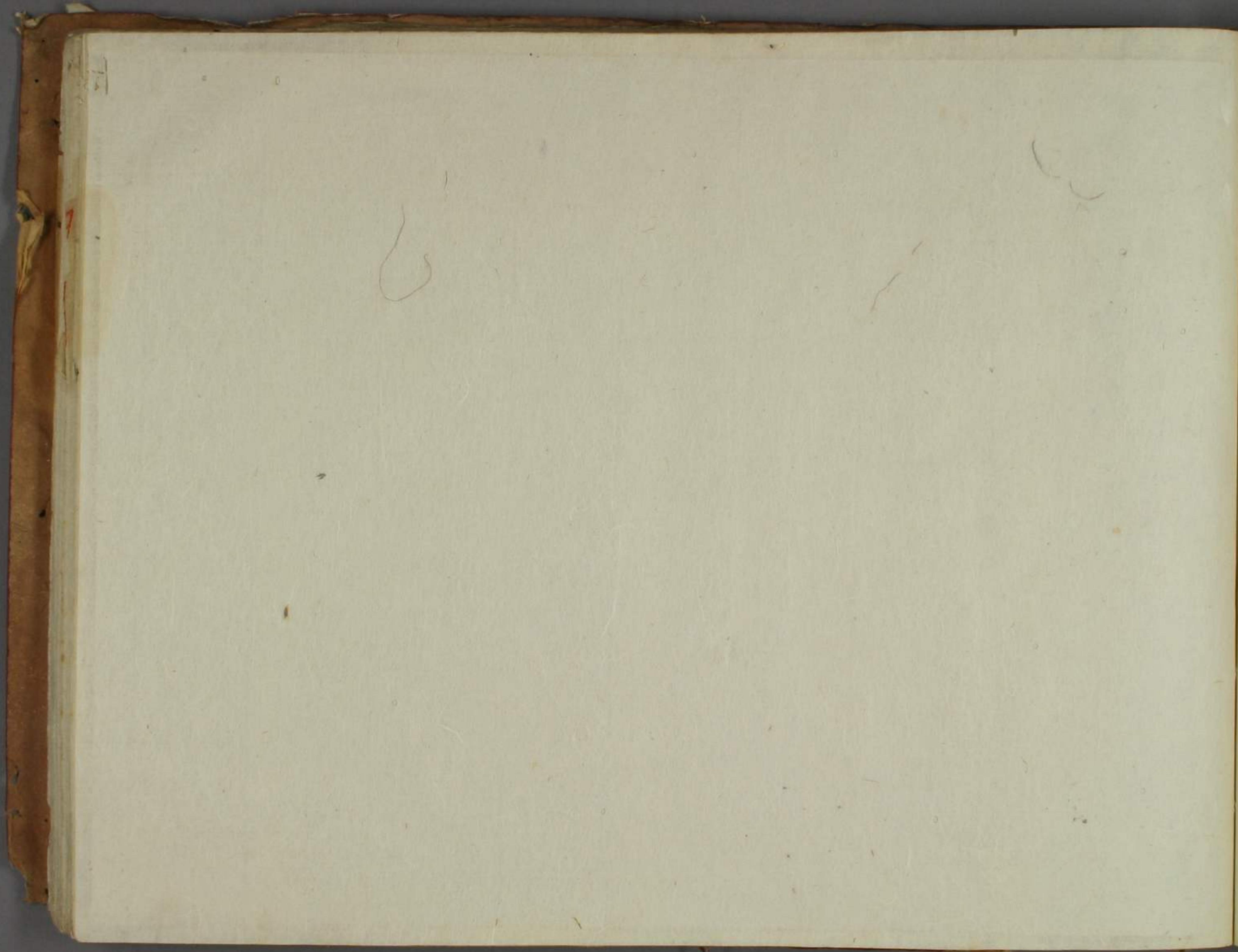
明正五年六月廿七日
海防使 坂本常太郎
同 同 同 同 同 同
船名 船名 船名
船名 船名 船名
船名 船名 船名

又右初海之談(此の初海者蓋し
 子孫の手記なり)

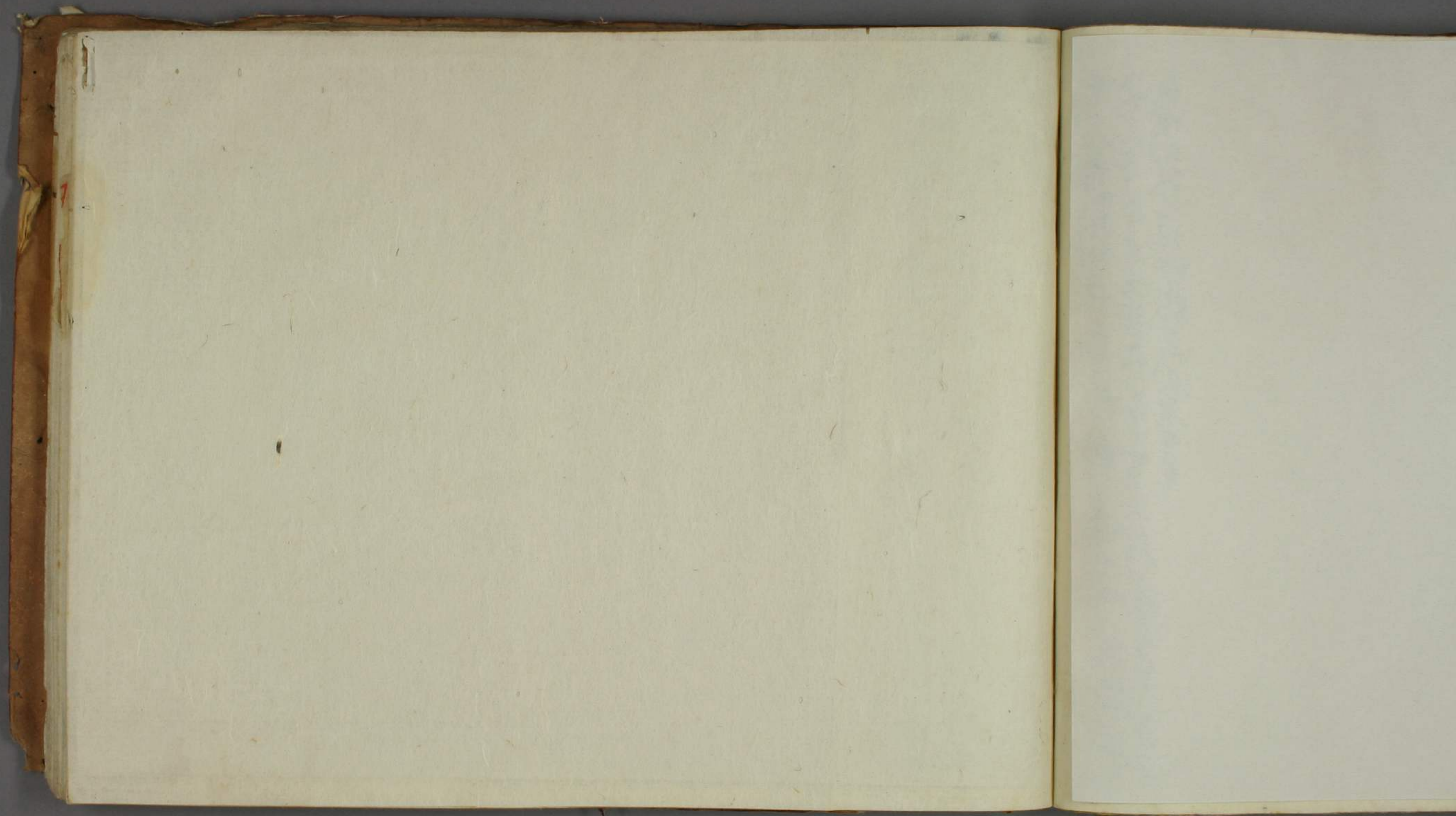
又右初海之談(此の初海者蓋し
 子孫の手記なり)



廿七日 月
与九
长



Handwritten text in a dark ink, possibly a page number or a small note, located at the top left corner of the right page. The text is partially obscured by the binding and appears to be written vertically.



三

月

自正月初一日到廿一日
都廿一日
多
古
日
録
載

廿一日

現存原簿之形も海防平不簿也其の形は海防平簿の形に似て一
 方し由車里丸等簿の形も海防平簿の形に似て一方し由車里丸等簿
 四角人十圓其の形も海防平簿の形に似て一方し由車里丸等簿
 三原村等簿の形も海防平簿の形に似て一方し由車里丸等簿
 乃松也

廿四日晴

向寺野野遊園遊園

朝度 遊園

以多な遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園

手飼 加ふ者多し

以多な遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園

眠る 乙子焼

以多な遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園 遊園遊園

遊園 柳皮 気神 七時 遊園

廿五日晴

今日午修出館(出)りて、あふ園を、録載す
福身島南東に、年々、或く、或る、録載す

一 富子日記

西澤村理か

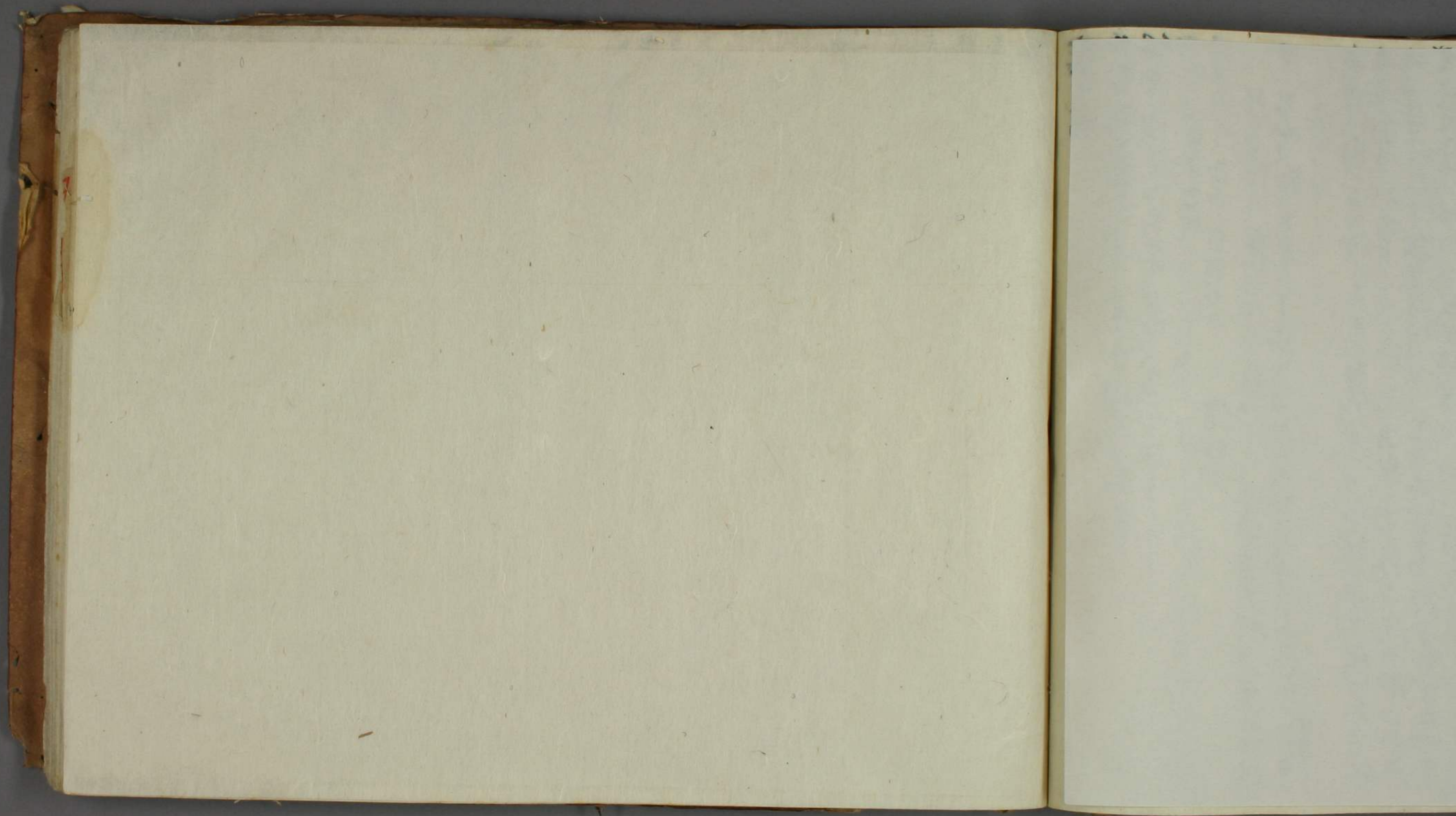
信成同

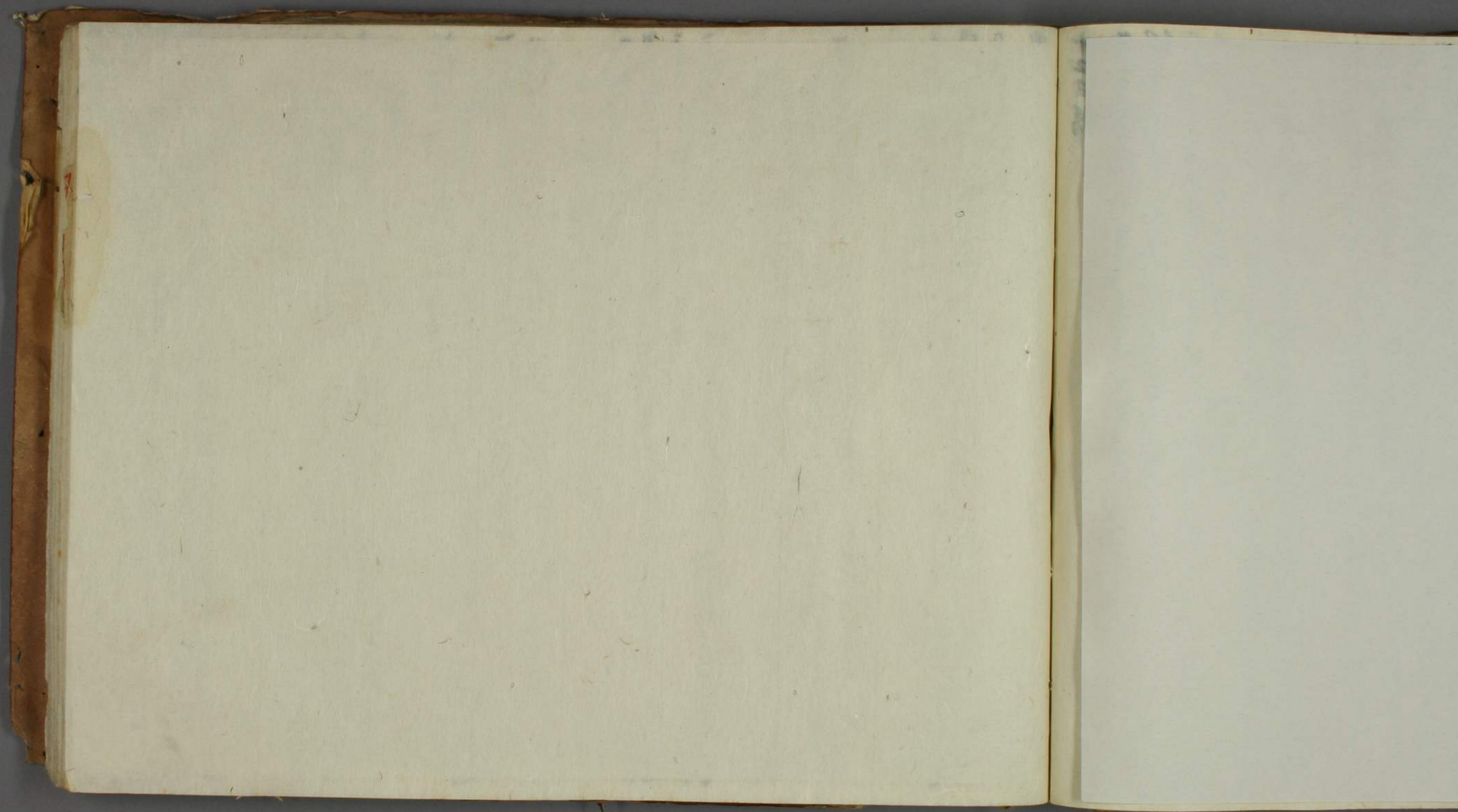
此二書、傳抄、其、指、生、事、始、始、在、此、書、を、科、下、等、の、科、理、
乃、也、知、る、事、を、神、々、言、此、成、り、切、り、事、を、事、を、事、を、
事、を、事、也

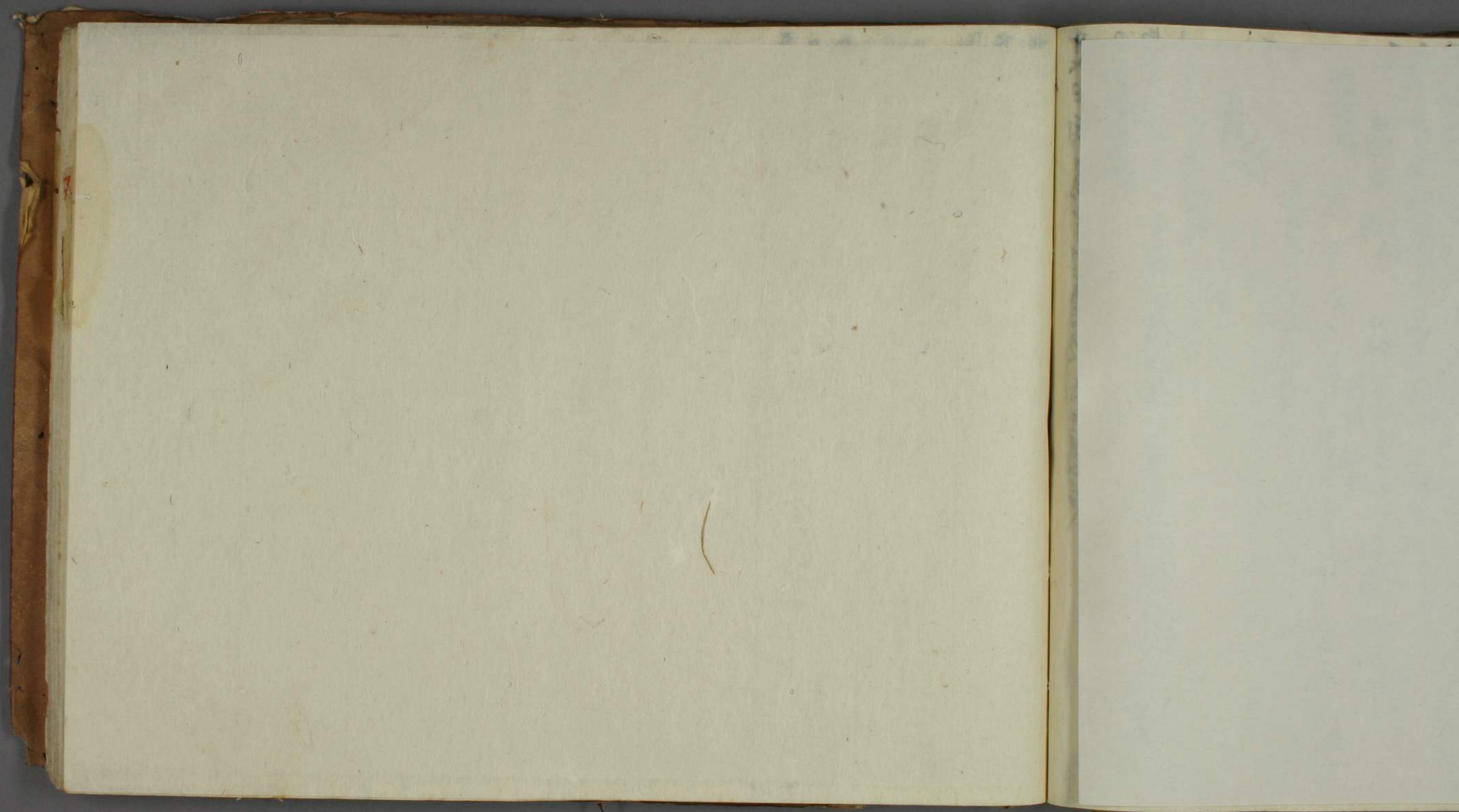
長、出、出、或、或、河、海、之、事、及、其、所、直、古、之、道、皆、是、同、の、事、也、
西、南、に、物、を、不、下、事、を、河、の、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
此、の、指、述、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
書、上、下、方、程、者、の、事、を、此、曲、秘、事、也、物、を、事、を、事、を、事、を、
事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
の、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、

古書
三行
抄写代々人高
云々

右、向、向、物、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、
事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、事、を、







廿九日晴

尔七以睡起由...

朝庭 乃...

乃九时...

三氏...

信...

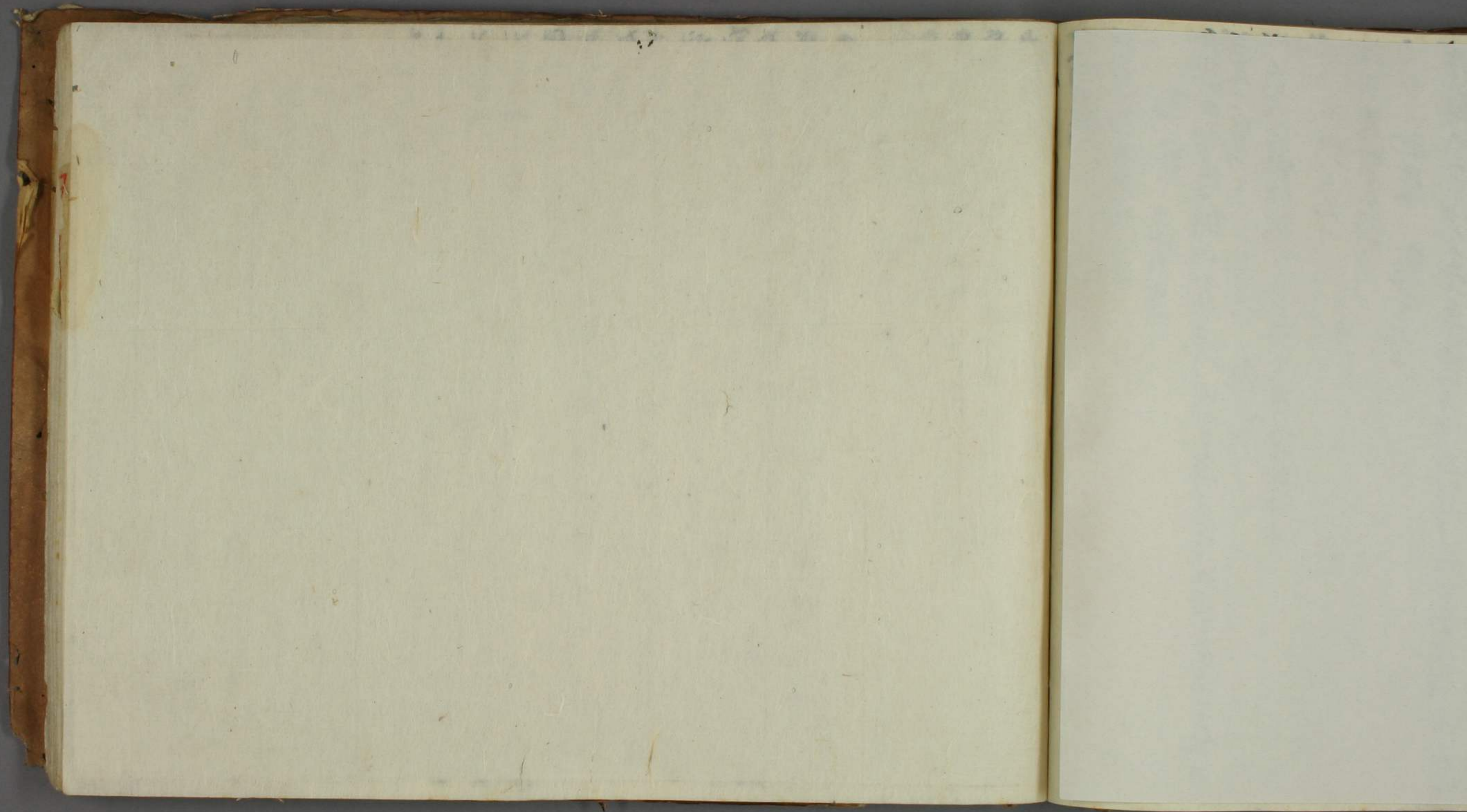
一燒...

右...

晚...

修...

以...



世田

一 晚暮 既夜

今夕世田の大地定ちて方々田舎あり

此書乃... 押... 校... 一五... 有... 也

脫裝 卸... 卸... 卸...

此... 高... 裝... 卸...

初一日
又七叶睡起盟歎何

朝寝 苗能為計

日曜午而ふ必

此程中 里川東高嶺松政神社例祭 四月初三日 祭祭切直牛 芝規之
通草のり 山草のり 右左 芝規之

冬祀科

一 松のり

一向能之反

山草のり 芝規之

山草のり

山草のり

右諸氏 白官 松のり 芝規之 年七百年 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

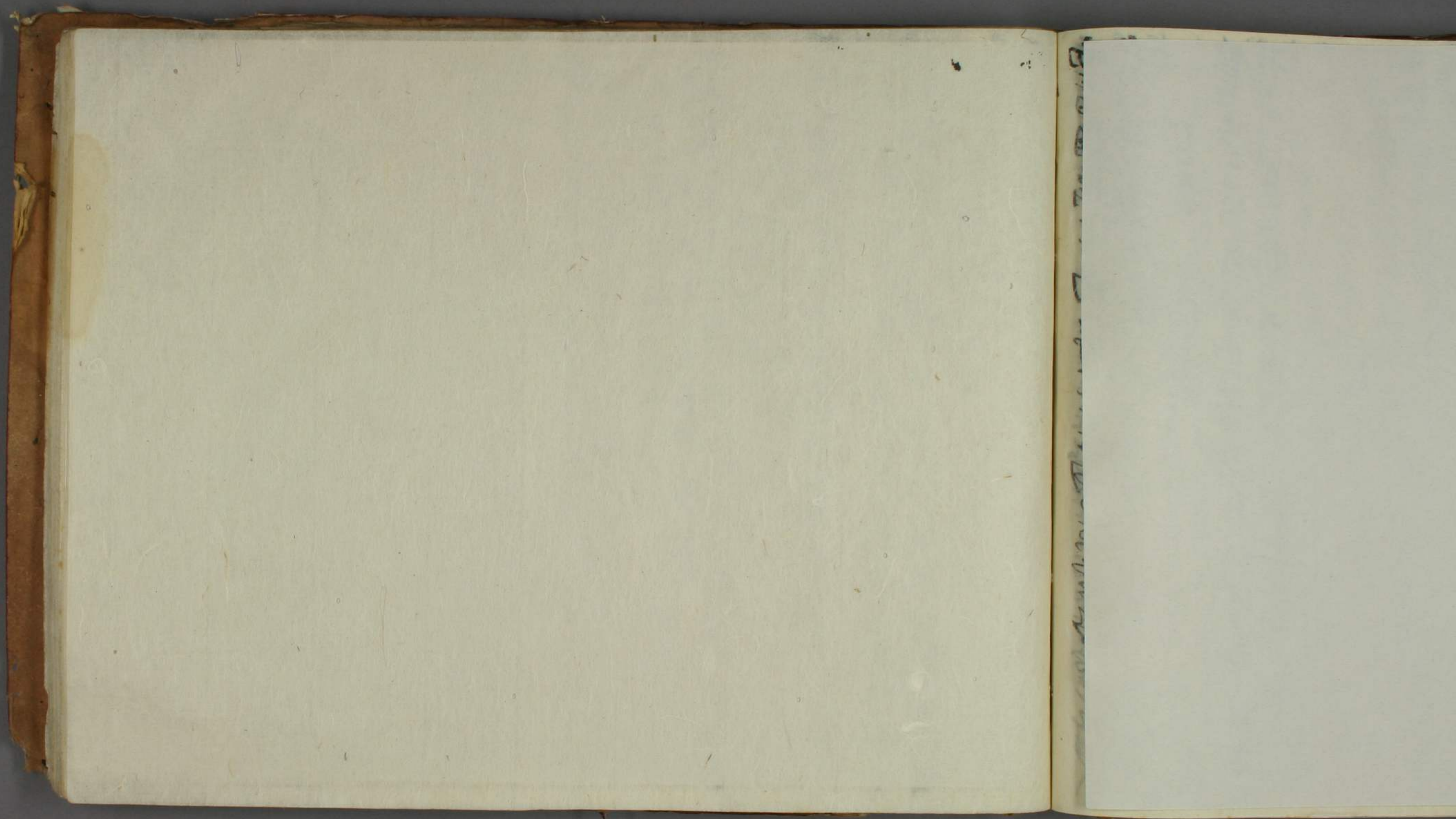
芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり 芝規之 山草のり

初三日朝陽下午雨靜之暮雨日景雲山
夕七以睡起遺胤如例

朝展 萬壽宮

飯后直上房戶改氏名區柱有初日
移回去福直衣箱所者位從決也
其甚持向の廉



今更書物ヲ云々

一 極上ビール 丁が價高

右三年の土産を信成と云ふは信成は酒の掛字目
と云ふは信成の酒を掛成と云ふは信成の酒を掛成
と云ふは信成の酒を掛成と云ふは信成の酒を掛成

今朝は朝の向流をきし明の其所へ

外の花や四つはちさつ

松葉のつぼみ物さ

今更書物の中をききしは信成の酒を掛成と云ふは信成の酒を掛成
と云ふは信成の酒を掛成と云ふは信成の酒を掛成と云ふは信成の酒を掛成

為や身あるもの如く

初四陸羽の生類ノ年移ノ大南人ノ自是子ナリト云々

朝霞 着此為中

九時去南三引

午餉 年節 膳 膳 膳 老一重也

歩向中 着此為中

山石田園母身刻

岩多少致

一 款 名 公 博 厚 中 興 頌

二 惟

古南西向道

古南西向道

備前移 竹定 四知 定信 在 之 移 也

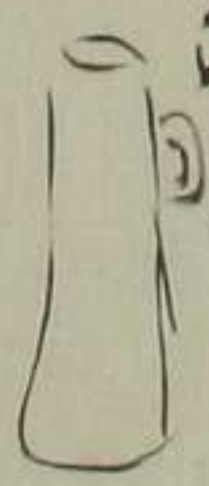
一 霖 似 畫 人 首

一 高 舞 立 枕 銀 紫 雲

一 子 利 銀 名 在 尾

一 朝 輝 十 字 入 形 在 山

一 祐 定 作 銀 紫 又



此外種 幅 竹 定 竹 定 竹 定 竹 定

出 乃 折 紙 信

一 柳 湖 之 水 以 幅

此 是 九 乃 雪 舟 所 出 年 乃 折 紙 信 又 似

一 乃 折 紙 信

此 画 中 乃 折 紙 信 又 似

一 年 行 巨 之 書 尺 歌

信公宮内抄の同

六宮内御物の

大帳直帳

楊之針子

二里西山水

壬辰の筆と云

五石の筆

一掛山小の筆

鄭煥子

一花鳥の筆

本日安部方主簿師其の函了

抄

中 文 籍 抄 函 十 一 一 文 字 軸
此 稿 善 画 云 中 行 幅 在 程 宜 禮 記 天 地 誌 子

生 唐 和 煥 堂 四 足

重 瓦 古 瓶

花 器 瓢 盆 鉢 等

瓦 梅 子 屏 屏

桐

高 松 鏡 形 硯 笺

馬 和 卷 物 書 障 子 紙

軸 並 扇 屏 切

節 障 子 書 帖 座 屏 子 人

数 子 額 角 各 白 多 寶 佛 塔 書 二 幅 了 了

收 錄 了 女 供 者

臘 松 木 刷 毛 同 書 及 小 幅 足

手 紙 南 京 書 信

辨 理 信 等 了 由

枕 敷 辨 理 等 了 松 年 古 十 山 紙 矣

皮 物 籠 了 宛

手 紙 了 宛

善 刺 之 子 善 善 若 古 信 等 了 益 多 月 切

四日

い
かきうてんお常る歴略記

初六日晴

六七日晴起遊歷山外

朝飯後首往為引

凡九時有引

午餉 無雨

新得

片雲去後村之呼在村中呼雲在村中呼

掛物

揮也為草

一 翠人

翠人

柳條

花甜挑根人甚少

一 雲舟自鏡

一 空

空在空外空在空外

一 中務

中務

一 香香

凡鳥羽

一 香粉

梳中梳在梳中

一 香粉

上向井口

一 香粉

高而瓦欄

一 香粉

切瓦條

一 香粉

曲

一 香粉

唐物

一 香粉

香粉

一 香粉

祥瑞香粉

初七日

夜七時睡起盥漱如例

朝履 益佳為好

於此尚有餘力

午餉 無事

午朝 予思亦不事

中書省字部... 似平佳半... 今留字部... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平...

似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平...

似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平...

似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平...

似平佳半

似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平...

似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平...

似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平...

似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平...

似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平...

似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平...

似平佳半

似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平... 似平佳半... 乃平...

今曉此田... 中... 校... 于... 于... 以... 于...
中... 有... 在... 此... 其... 也... 于... 中... 校... 于... 于... 以... 于...

初八日

身壯睡足醒後以例

朝服衣 着鞋高筒鞋

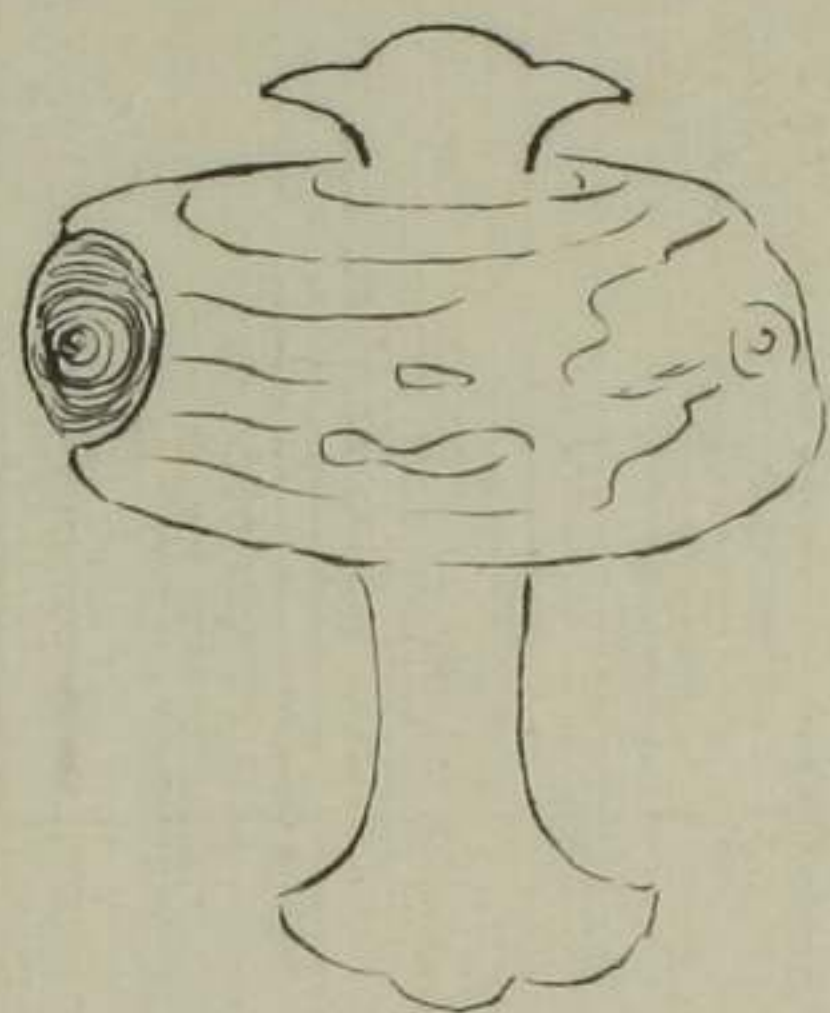
九點鐘同去囉囉自午十二時

午餉 在堂前

長途官多村在江之北此處山村在光下新居也

卷一

此程子好學名在歷下
招信也
其子為學
深也



此種の瓶は古村全道に詔以て用字は古村中村也といふ
古村全道は乾也の後方、古村全道は古村全道といふ
古村全道は古村全道といふ



古村全道

一

初九日少雨

不雨睡起望湖如例

朝霞長流為雨

云三條有柳川西女臣五子先宗若踏牛拉子朝桂林希如新其
其亦打致皇名也之居海持之性若未其亦力年亦十四時亦本
果仕三四

○寅

三吉寅美 古物燒 古芳之元 為丹市障古物

島津定國

赤障定國之天示一財以之古者雨古居三之亦四外亦來

赤云 敗者若善博如蛇名

古梅家敗者若善博如蛇名

○壬

古系古系 地田系身 古之古之連人 古佳年

古向科理觀立竹山之經眼順亦舞之石坂之通之古果若

血亦不 聚海 丙申之抗周風年子亦古之亦人香函

物類子亦居就性例之通

二夜修書 在草紙展觀時得一洋紙

此書中校の事、年而古在、紫香番園、其跡、前芳中形海園、此書同、序、故、徳、成、有、此、同、心、存、年、多、成、備、(里、多、心、)

年、公、方、山、等、更、身、八、身、五、五、下、初、如、身、五、節、書、也、七、年、別、子、務、之、不、設、紙、也、着、年、又、同、意、

即、中、理、高、信、隆、年、三、年、就、や、所、建、有、所、之、故、身、也、千、此、才、多、五、年、同、程、而、地、分、五、更、將、事、一、及、之、之、身、の、附、合、年、也、

柳、務、郎、人、少、女、
十、五、五、五、
十、
カ、福、此、者、其、の、身、由、其、修、信、也、
根、系、の、向、不、改、其、而、又、

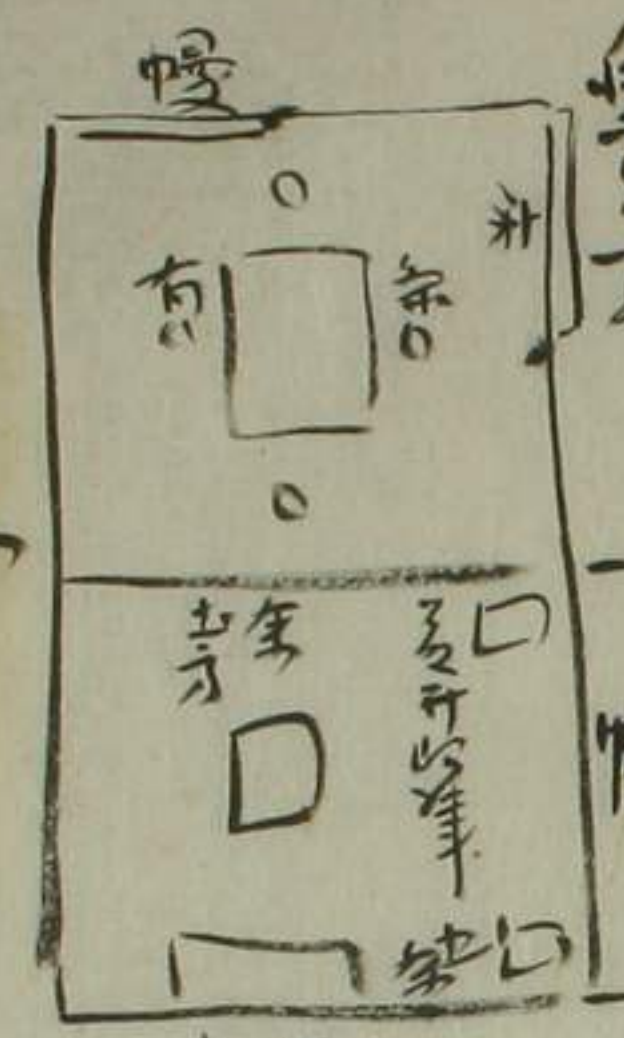
宿、客、行、日、身、際、之、人、此、の、修、信、の、身、八、下、年、之、廿、五、下、之、客、の、身、也、
前、身、目、是、歩、使、了、此、門、外、去、所、斗、六、形、上、意、也、

年、五、年、而、五、身、五、年、五、年、(此、所、雨、別、此、為、信、之、系、于、雨、之、男、也、
莊、の、信、斗、斗、止、飛、ち、凡、有、在、信、し、不、出、也、身、の、雨、之、信、の、信、也、
身、の、信、斗、斗、止、飛、ち、凡、有、在、信、し、不、出、也、身、の、雨、之、信、の、信、也、
故、知、之、不、出、門、也、雨、之、信、斗、斗、止、飛、ち、凡、有、在、信、し、不、出、也、身、の、雨、之、信、の、信、也、
子、信、斗、斗、止、飛、ち、凡、有、在、信、し、不、出、也、身、の、雨、之、信、の、信、也、

し、一、事、由、之、信、斗、斗、止、飛、ち、凡、有、在、信、し、不、出、也、身、の、雨、之、信、の、信、也、
陽、山、陣、房、子、抄、一、卷、也、

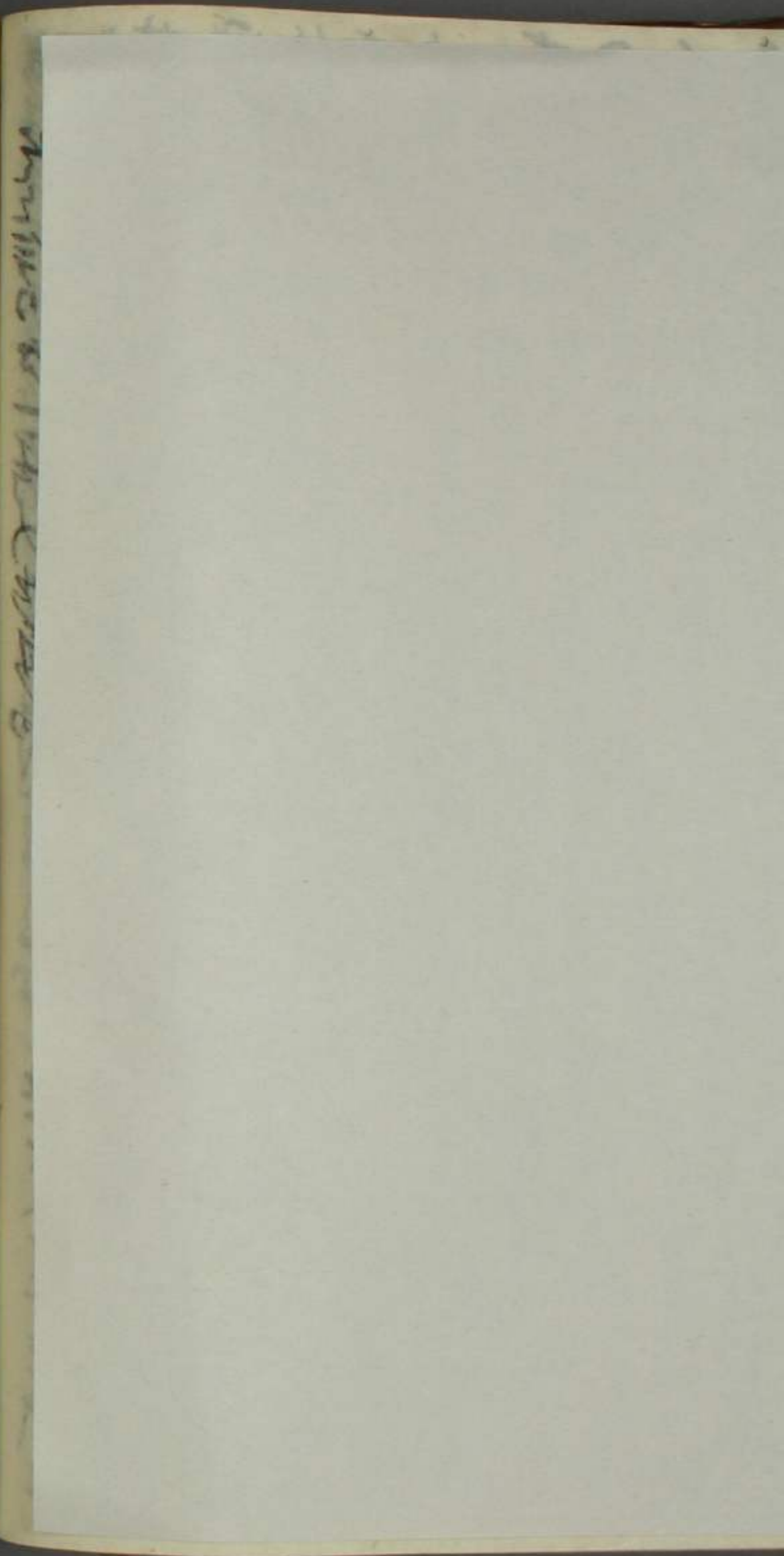
中、務、如、同、
此、所、五、身、斗、斗、止、飛、ち、凡、有、在、信、し、不、出、也、身、の、雨、之、信、の、信、也、
天、の、氣、味、也、田、

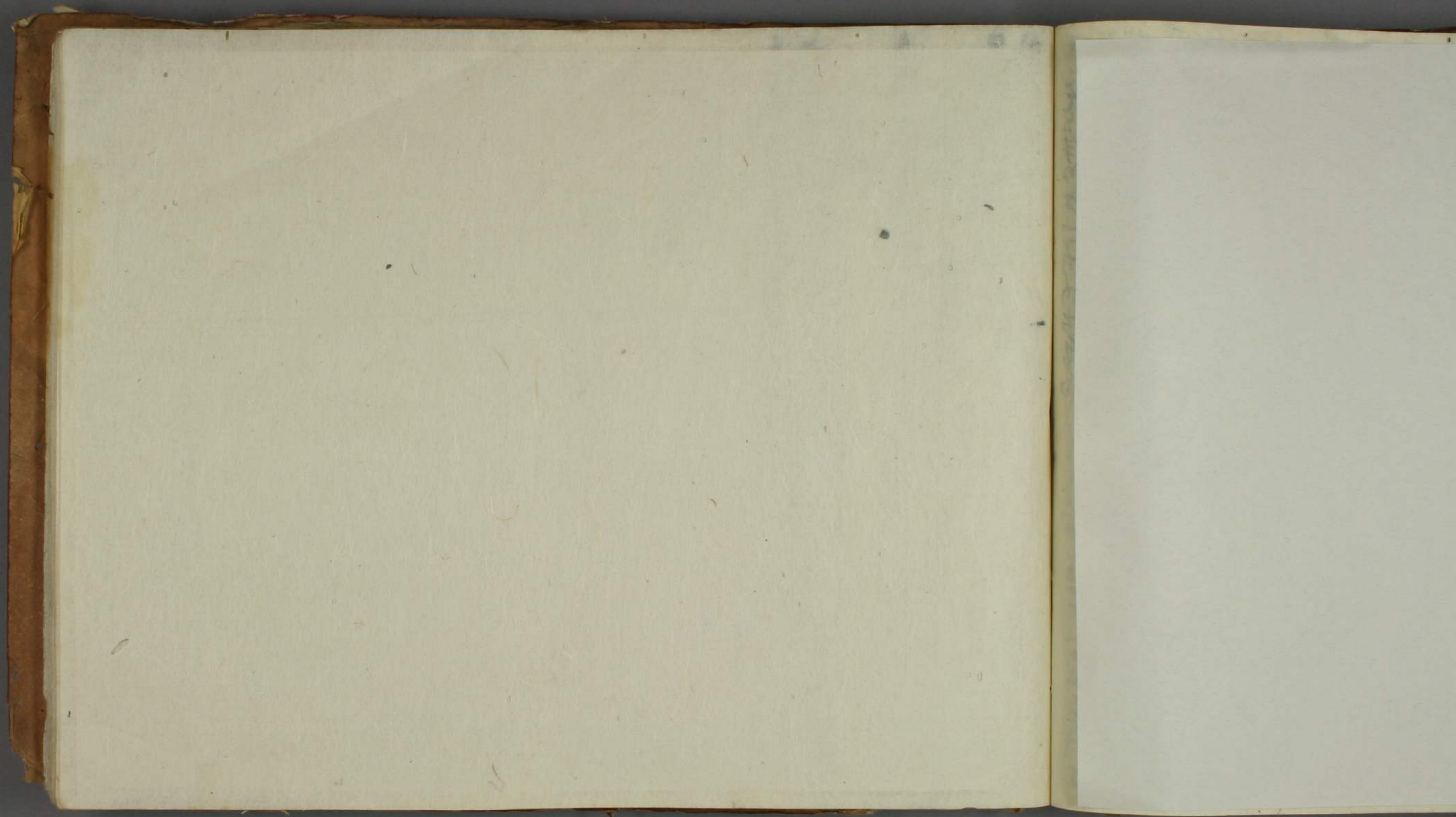
此、所、五、身、斗、斗、止、飛、ち、凡、有、在、信、し、不、出、也、身、の、雨、之、信、の、信、也、
大、の、身、斗、斗、止、飛、ち、凡、有、在、信、し、不、出、也、身、の、雨、之、信、の、信、也、



星、水

七
三
日
の
事
記
書





仲一日時... 抄の天多や

朝服 着て御中

舟の去る三つ

千餉

長江... 舟の去る三つ... 舟の去る三つ

仲日

此日睡起豐漱以列

朝展 為第廿

九時去頭之引

子詢 每當

此書定是日午於舟方長正年歲越之月集之西

出所之後所 在極點之南 亦田言升 互於年

杉書一便

今之定書定書者

今日公事修平林和苑下此指了了是物古金有

仲音陽

夕可睡起盟飲如例

朝應在 為難為事

夕九時有自三所

午餉 新當 已如西者裝好夕

和皇太后在出出却毛齊一氣了着看服

菓子每度 下着炭白言志財後

仙尺袴

毛信分後

布令集御

為御外 而信信也 板石信通

何方是也

世腰分斗 亦信信也 古田空身

遠山友禪

野山同 孫田空身 在乃色身

在

以是打 内為終山 孫若 息年

為生友禪

之少友

集市より興亭の通し 夜下十時以迄毛布等々而令故衣了り是也
法下

大切信古流儀 兼保是有夕月九日向了る人共高市集
紅蓮好より雪身也此二可く失之限出且之致其以所程率
幼身高例に依りて中々承りて子孫承板年令等の年上板
上を若中中を若中の轉高三年子刻右如田宛生信已
法長若也三年同高若也中若也古若也

世當り是也流儀 長女若子孫之字流儀 通字方必在也

是既事竟多係自中七高年宛旬科使誘子我牛故九時多此
二托多らるるや女子世に夫は甘別心要外取思もれり侍し
一五さるる流の示加回船後元二信走りたゆりや此は是
非以此世多より在るも多字多流の致風直に下りて了り
りつ流在り可也

由多然此は流に可也 然るも明有の以流河に多世多世在る
流には此物多中此流に其の基の基而初船は流に多世
多し可なり是舟廻りて之拂公取故其此有之今也此
多し今も此多也世多也此流に可也此多也今も此多也
此多し大流に多也此多也

藤子位天昔の流の轉舟之物と云流を命を命了る命命
夫

坪山月同 此等の事 古田等事 松谷橋江
与助成 其條の古田等事在る事

松谷橋江等事言ん流其助成子今流多此流多此流
松谷橋江等事言ん流其助成子今流多此流多此流
松谷橋江等事言ん流其助成子今流多此流多此流
松谷橋江等事言ん流其助成子今流多此流多此流

四山諸仙
此書
卷序
後

柳之危きを
おのれおのれ
の事なれば
返りては
何れも
物主ありし
柳

仲四日雨

不七可睡起出厨以例

朝寝 庭前月寸

如九叶生百多引

夕何 女高 鏡子 鏡子 鏡子

長安武大希子京子信子 甲寅桐中子女三子信子如女子世尊

如一月同

年五己

仲晴暉

年五己

如二月同

年五己

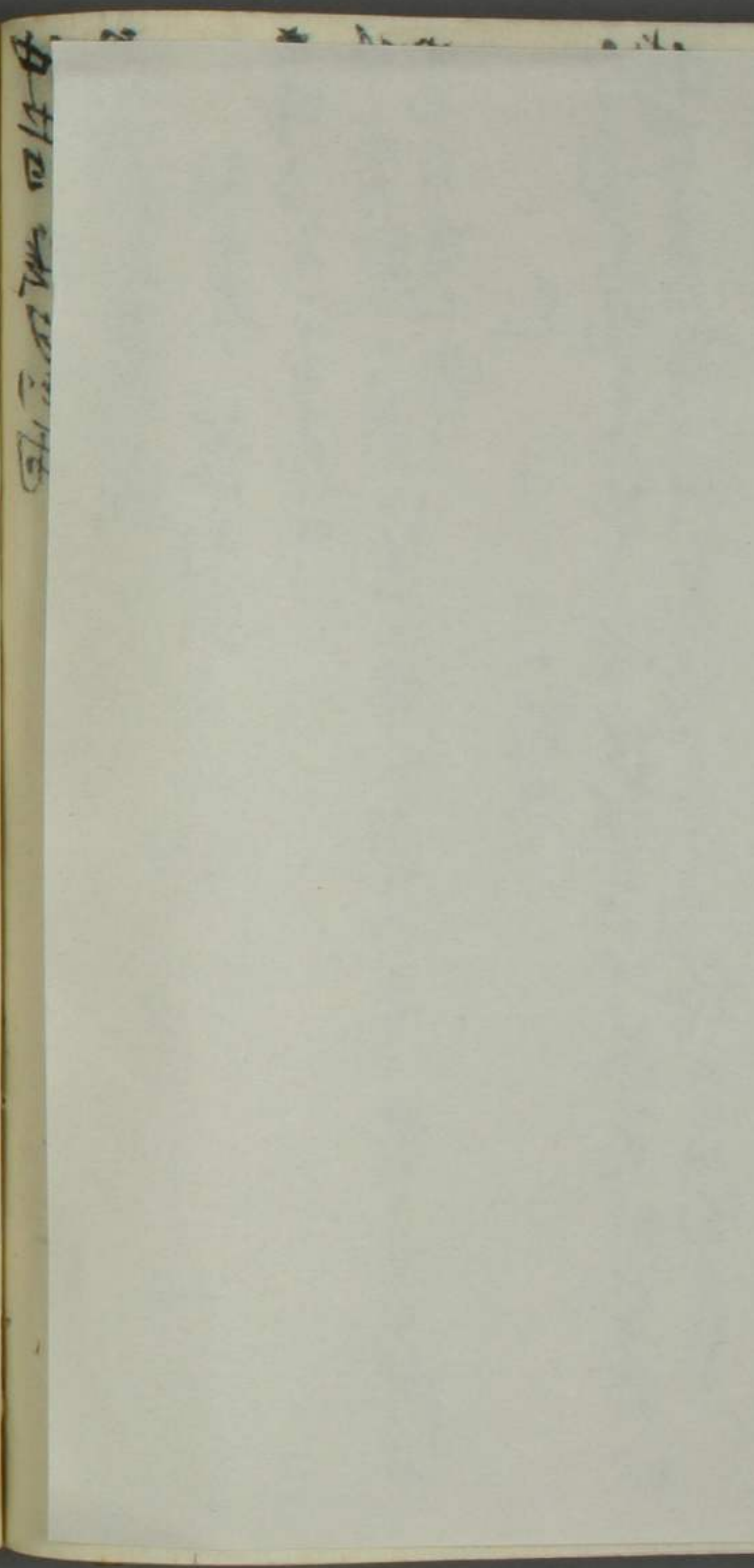
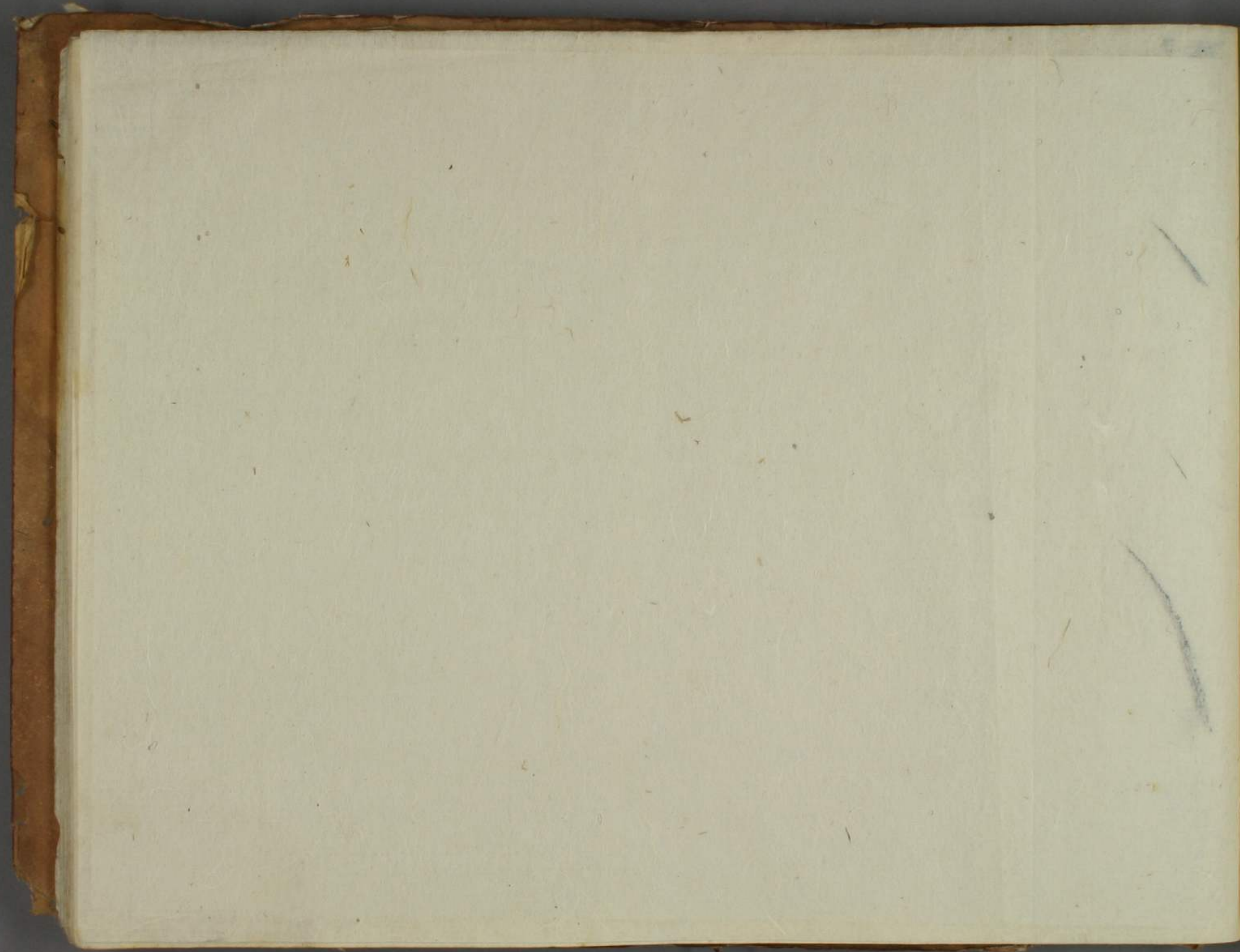
如信

Handwritten Japanese text on a rectangular piece of aged paper. The characters are written in a cursive style, likely kuzushiji. The text is arranged in several vertical columns, starting from the right side of the paper and moving towards the left. The paper shows signs of age, including some staining and uneven edges.

Handwritten Japanese text on a rectangular piece of aged paper. The text is written in a cursive style. It begins with a vertical line on the left side, followed by several columns of characters. The paper is yellowed with age and has irregular, torn edges.

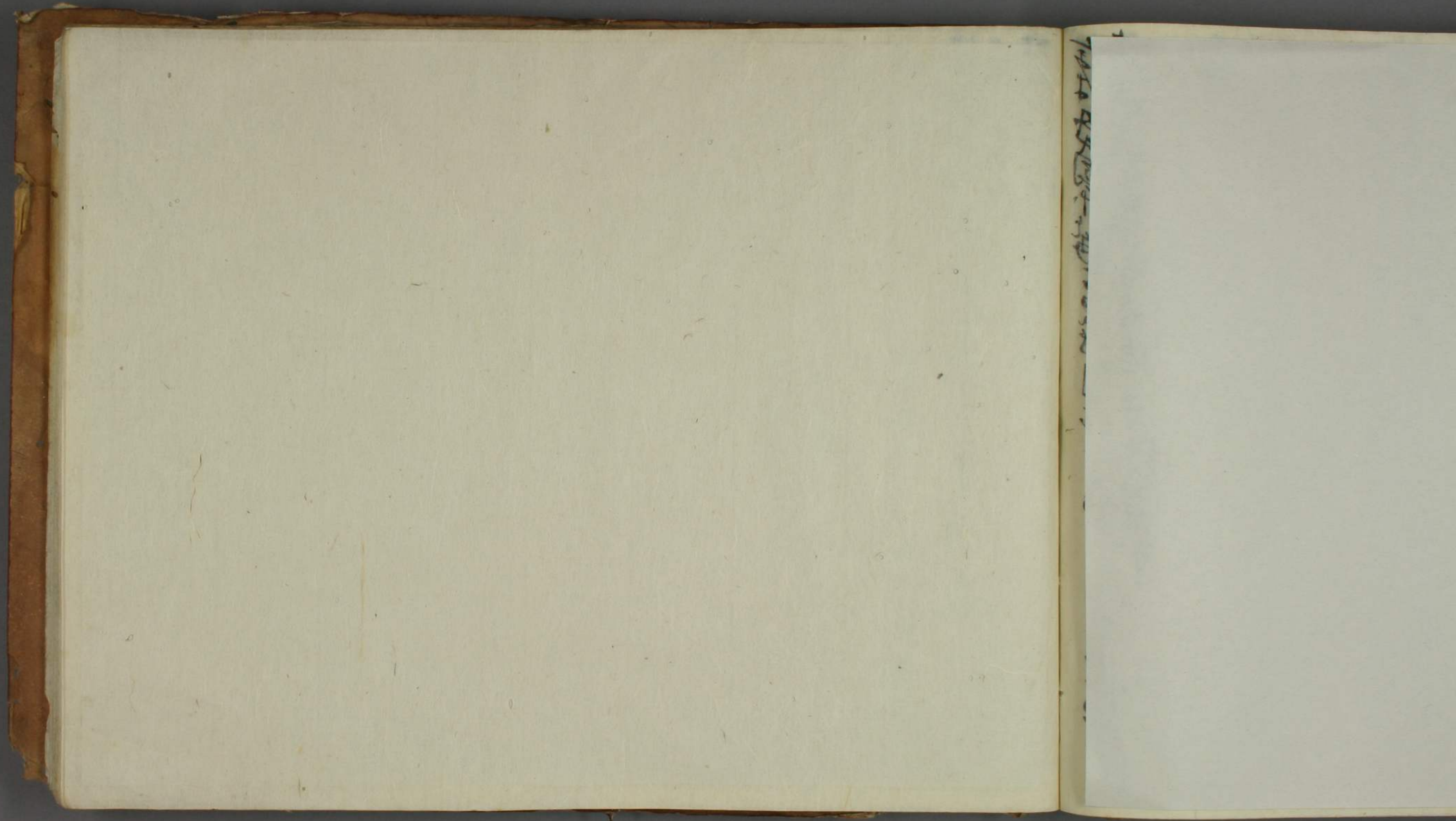
Handwritten Japanese text on a rectangular piece of aged paper. The text is written in a cursive style. It starts with a vertical line on the left, followed by several columns of characters. The paper is yellowed and has irregular edges.

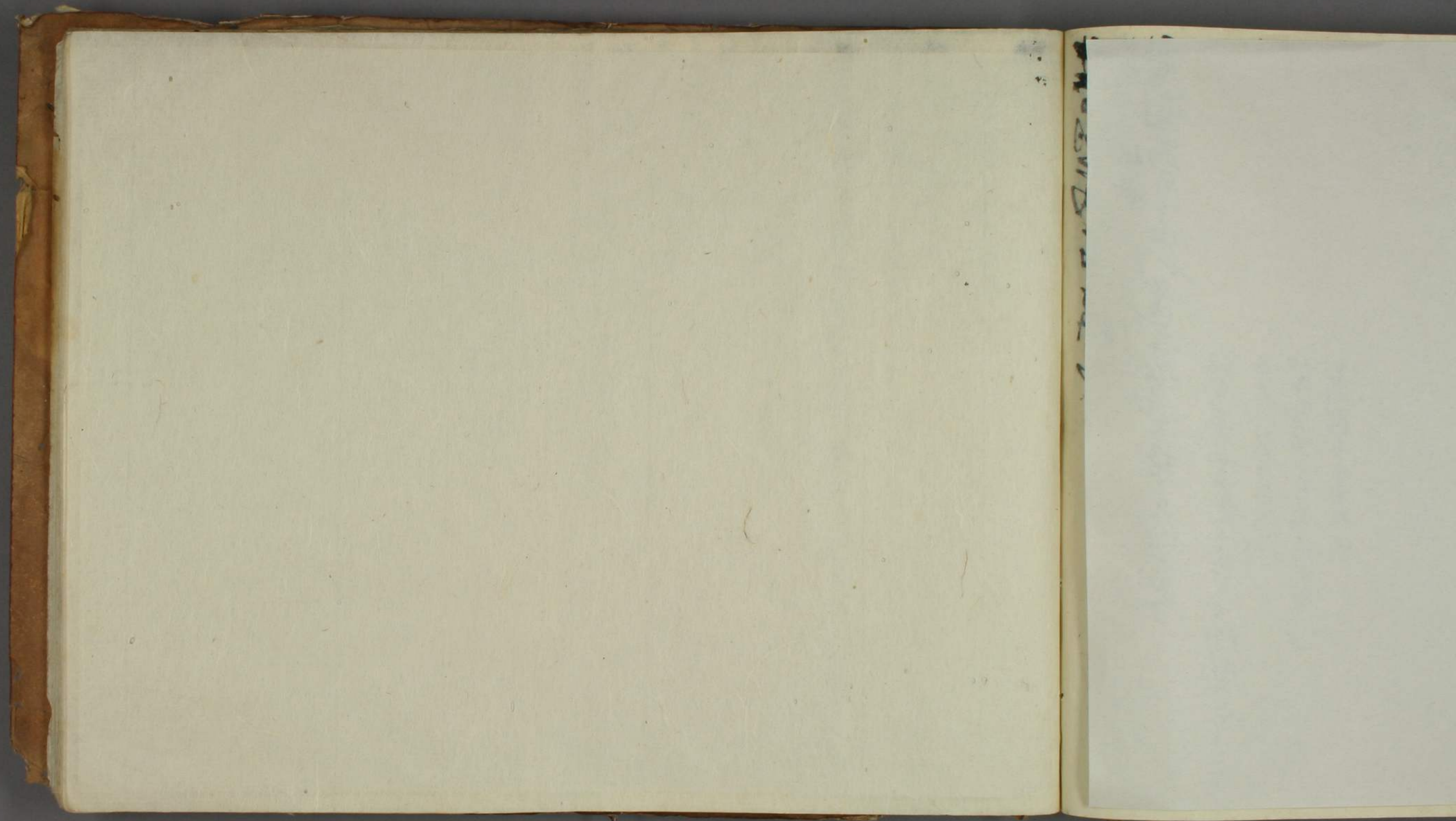




母封四 卷四 四

今在國平海軍，二時別在本所，本所書中，同是山鏡像，
上書明子，厚可子，可子，打控，子，鏡，何，何，何。





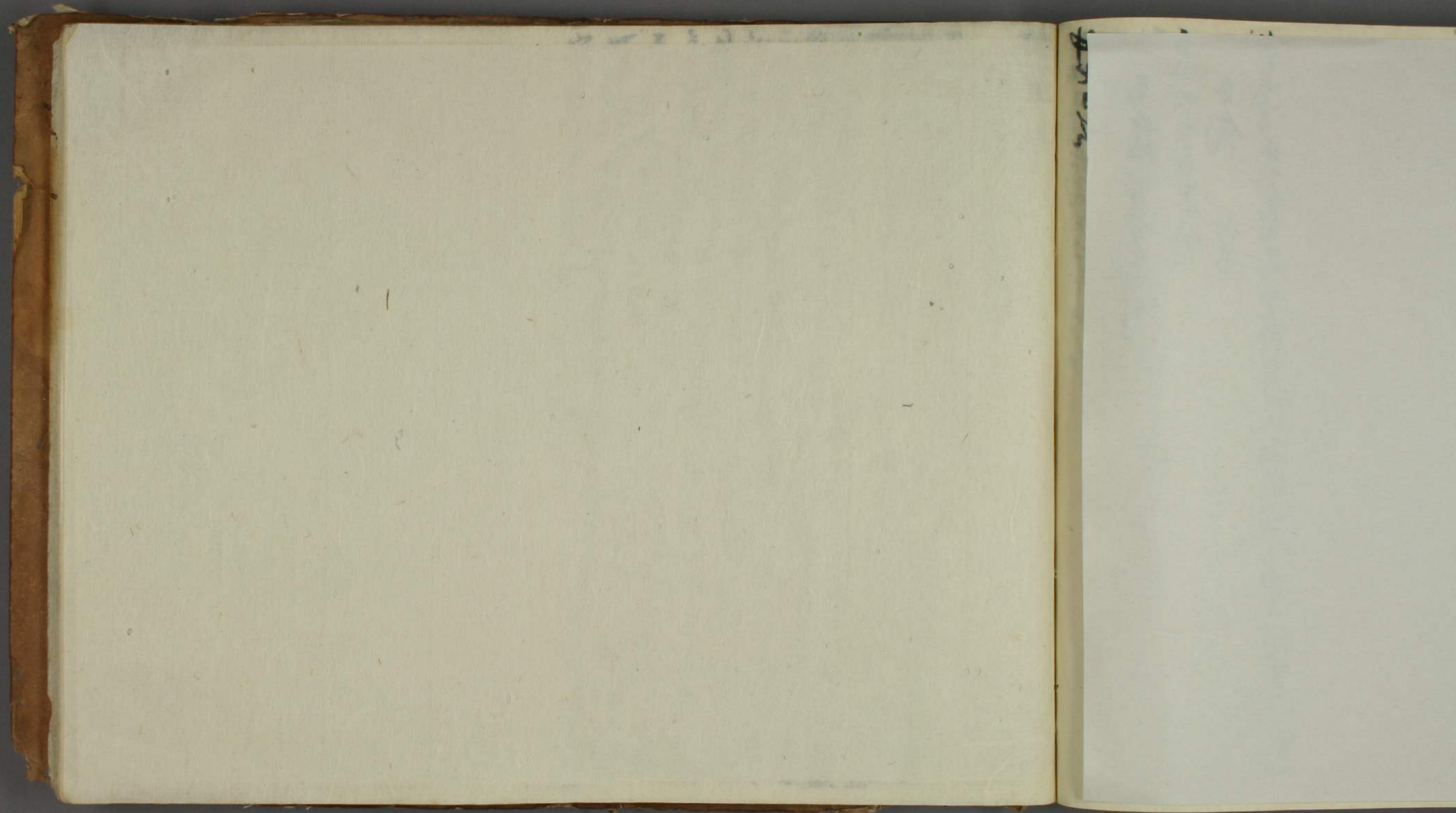
仲七日

朝寢者其國付

六九時出向三所

子倫 無考

長過不若會其府重助子似西家回心不念其也

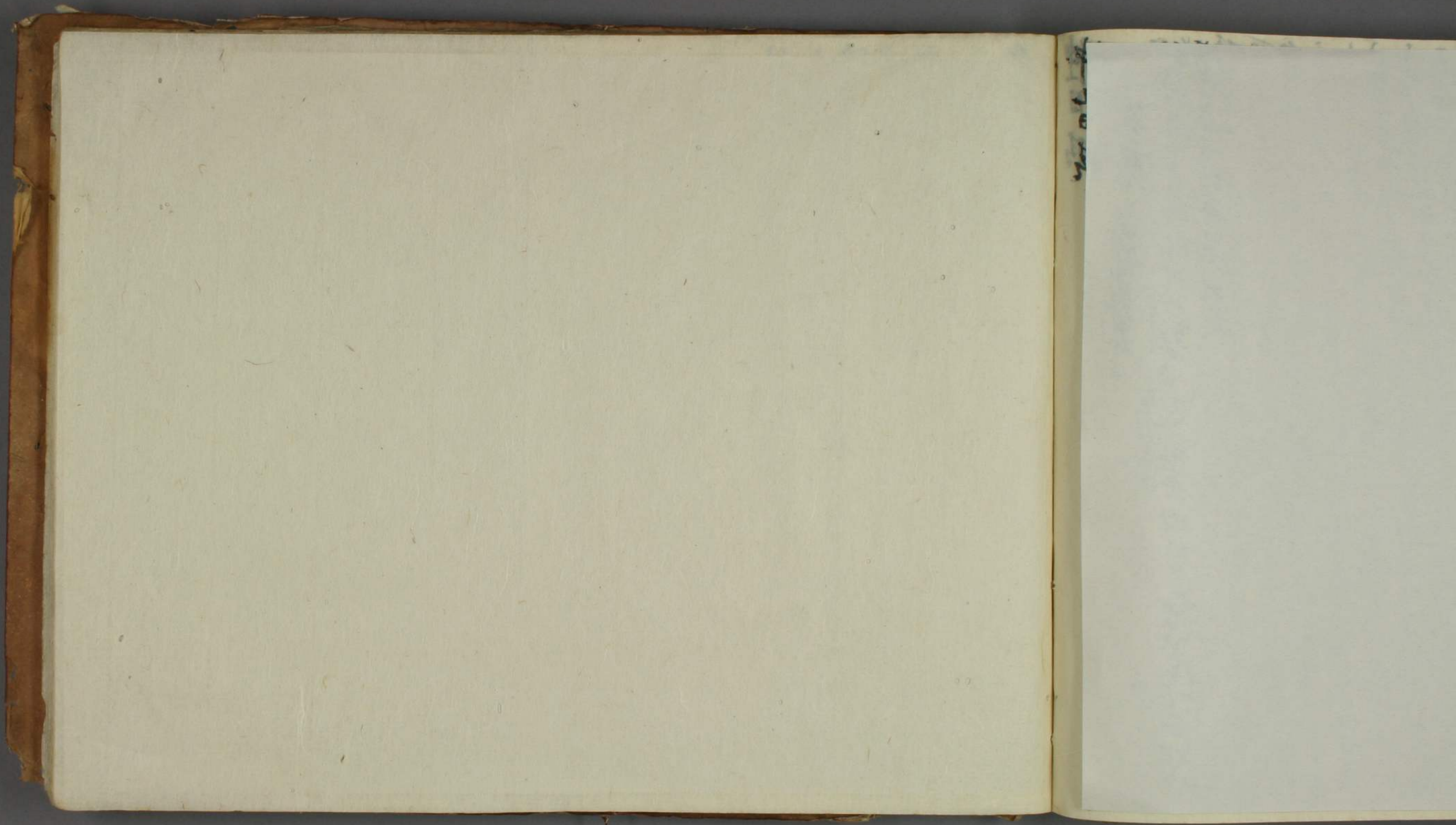


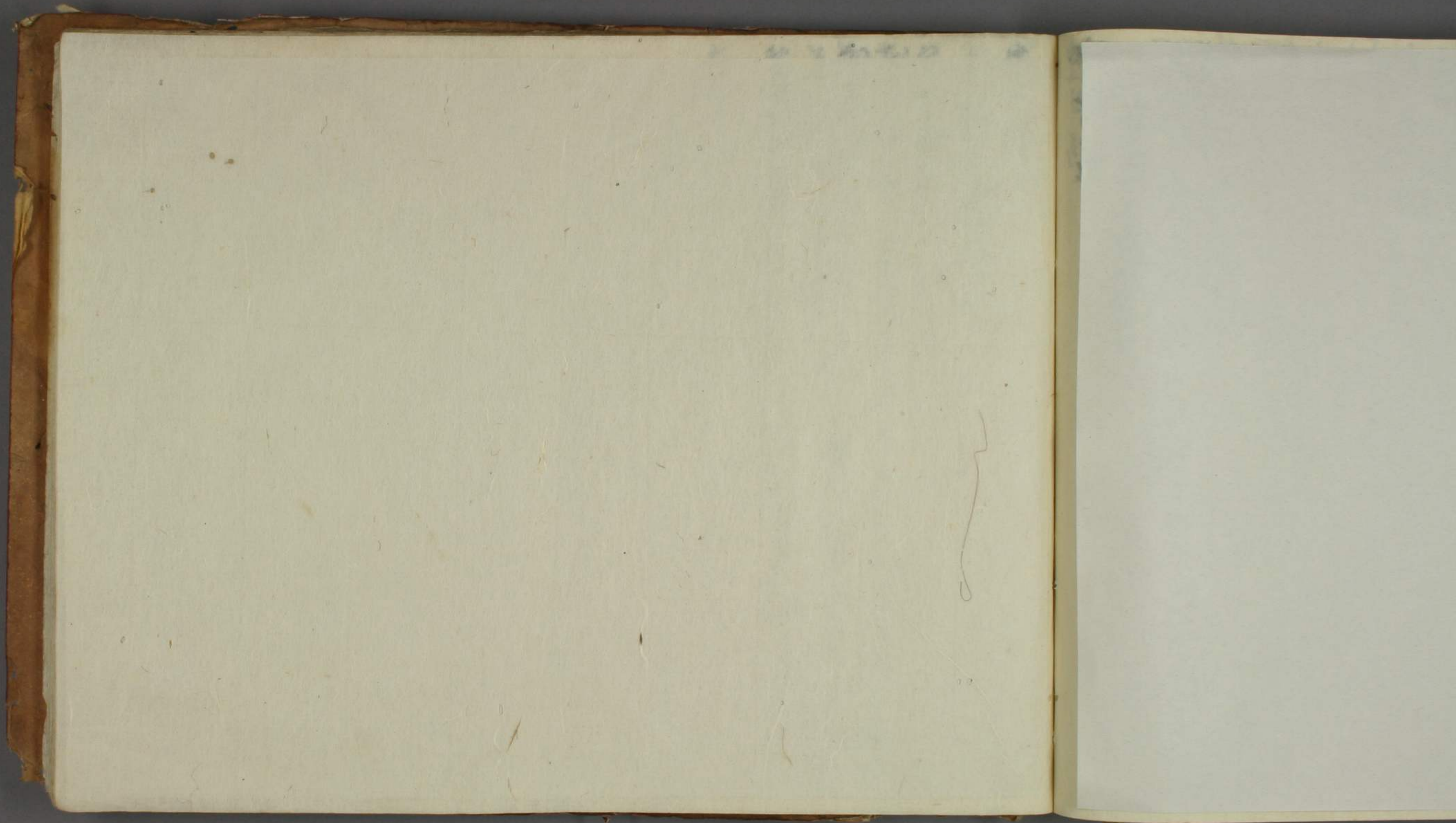
中日記

仲九日晴

朝霞 雲霞多矣

知此世好言日怪極好在此
全世身好故身可出好





廿日陰用

欠寺雖其豐源如例

朝應長 為催當午

花時出遊三所介今根山寺多女多學其高口餘轉
妻勿多及及也初無是之入手九四等と茶も出居
一 初見寺山の教文

世屋高直 徳高の松鈔

右五王流書の 竹書在庭高の物也之如の書也

南宮修久 杉高好隆 丹波月算 五田宗明

野山白岡 古原宗房 年

高橋内飯越山 佐木山綱 向藤少人 都人
中上土雄の内

藤高 陽長 かま丸

全考又 揚同傳馬 外不云々

傳馬世知山守の移すの内全移す也

新記録元

鳴物 響く 友 藤作 西寺院 東寺 寺山

能看 胸並鏡 寺山 寺山 寺山 寺山 寺山 寺山

行の書

阪田也 寺山 寺山 寺山 寺山 寺山 寺山

寺山 寺山 寺山

此月仙觀の歌工

年又正

振平の筆で帳簿に記すは子息の事

昔より色候物仲うの事大に成る事此の世に及ぼ

由業平の心で可く世に事ある事此の世に及ぼ

在又許さず事ある事

一十時

廿三日晴
忽以睡起盥漱如例

朝慶 蕭雅為身

弟名新字定知長之適中在院通手及庫帳皆獨備之
耕能即中尾多事可至極之極事之極事之極事之極事
中倘解故 王可久北女伴

打高年元在臨平内之第幾之知所中ノ什書政久子法也
定政自事録載ノ
集政上在臨平内之第幾之知所也

廿六日晴

朝寝 甚佳 雨斗

定時睡起 窓外如例

夕時出 雨斗

午餉 雨斗 晴 色 可 見 徒 去 分 せ ぐ せ ぐ 也

一旦 中 雨 止 公 同 登 岸 舟 中 船 師 高 志 の 旗 形 現 建 築
の 極 小 男 子 故 大 橋 欄 干 先 之 形 互 同 故 知 名 也 女 其 旗 之 旗
と 旗 形 互 同 故 大 橋 欄 干 先 之 形 互 同 故 知 名 也 女 其 旗 之 旗

此 旗 形 互 同 故 大 橋 欄 干 先 之 形 互 同 故 知 名 也 女 其 旗 之 旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

旗

廿八日

月七時睡起盥漱如常

朝服甚佳

月九時出高

午飯 病者

長江云云 於月末の夜 七時 枕上 覺 體 存 月 湯 之

廿九日

定以離記書在歷例

和法 卷之四

定以書而難其法

長庚云此法者子久子傳也并其法也定以和法

和法定以

一 物...
一 物...
物...
物...

本...
物...
物...

一 物...
一 物...
一 物...

本...
物...
物...

一 物...
一 物...
一 物...

五...
五...

本...
物...

後世の事と此程中との著子種と世伝五年事と万格及力と子格
新羅紙

一 糸織茶御書

傳七の日記

左部

牛馬及竹葉長河と道を通り身の内は枯無くと向ふ方に向はせしむ
るに心は身は腹は腹の儘(此言腹中)手は無き腹は腹の儘
御書(此言)

上字百指之 仰 物 也 年 以 免 性 之 難 也 況 有 物
予 物 予 年 在 傷 為 過 難 累 狀 之 府 下 主 國 不 通 用 十 六 年
此 年 東 主 府 試 駁 之 兵 个 區 善 事 免 許 收 之 世 之 也 也 也
事 也 也
おの故多の上ま年知貨物名野の事と許し片桐を想存領七鬼
力古執事者之名物之件甚傷之心も予所名は片桐が既子故
件の着那の有と表をいふる金坐喜多法物子御上と力御を元
相中と金堂也

石中石字中花園柱風一陣掃年一類其景也
但見了

如高公境子秋場園造了字云森了中向の地多々總管那敷楊
除翠等陶神鏡本一陣の君及に親族露り明狂睡或飛
或生宿其恨若る此信楊の長、白乃の身也。誰生其争
折阿身の景越るもやまし権宮の者曝朝能旁。法善寺人

紫の垣に花は九枝中股高席を布ひし出物なる
菓子也 味も甘く石も也

初九日 陰 下午晴

天晴時睡起過飽如例

朝麻衣 苗圃多汗

乃北至白三時

午作 每兩至院

一旦中更至 按房已所 以易 越物 初亦回台 於於 自自 自自 到

生るる云し何れかの縁ゆかり

一 交有

きり

七 朝 因下凡うをそき

出死

いふ九 日下守位

侍最家婦元山此校伊和の校女の由美いおあひの侍の縁也

一
二

初六日晴

有七回睡起盥漱如例

朝儀 着雅着衣

衣水明高而為雅者上座也

此由時天中與雲氣為年長正古互物也秋風多送三平草草各在傳中
其長為初也出於至遠也似正上即也故其全全乃之入也

其衣者衣

衣之乃衣同 宜中此衣者衣

衣之乃衣同 如之衣者 衣者衣

衣上 衣者 衣者

初七日晴

六七時睡起盥漱如常

朝寢

薙髮

日曜

身中在古處而在右左身取母祀或或角之曰淨也其大八所取
在連也其有方則其已全故取有淨也其大八所取
其淨也其有方則其已全故取有淨也其大八所取
其淨也其有方則其已全故取有淨也其大八所取

田中
少安

初八日晴

初七時睡起盥漱如常

朝履

為誰為計

初八時有三分

午酌

兩齋 乙子德

昨為重陽又博咨查之郵便之程及本之在性之

一仲為日

全日因也

即以此指書之注記也

此鏡形を弄弄の物に因由を以て事 名同や山形を以て
石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て
石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て
石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て
石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て

石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て
石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て
石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て
石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て
石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て

石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て
石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て
石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て
石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て
石三井の物に因由を以て事 名同や山形を以て

仲一日眩風

月七日睡起頭眩如倒

朝復

蓋羅菊汁

傷風感冒之症減力四肢之外疼痛此皆生毒由中在体

中
カ知若病氣生之家之病方之思綴了証案あり全傷風感冒の内
之病毒多飛之投了故不整着也町也用了方之申之同之申車中
野之留之走之也

仲三日 晴 下午雨

夕 晴 晴 起 豐 漸 如 何

朝 霞 暮 霞 雨

偽 屏 屋 期 之 冒 車 亦 馬 上 出 行 車 在 世 間 行 之 亦 有 如 此 等

石 字 由 來

大 家 之 所 共 知 者 亦 有 如 此 等 事 也 亦 有 如 此 等 事 也 亦 有 如 此 等 事 也

十二日 晴 日 出 行

和 子 亦 行 夜 亦 收 行 亦 大 也

道 垣 亦 亦 亦

内 亦 亦 亦

七 亦 亦 亦

由 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦

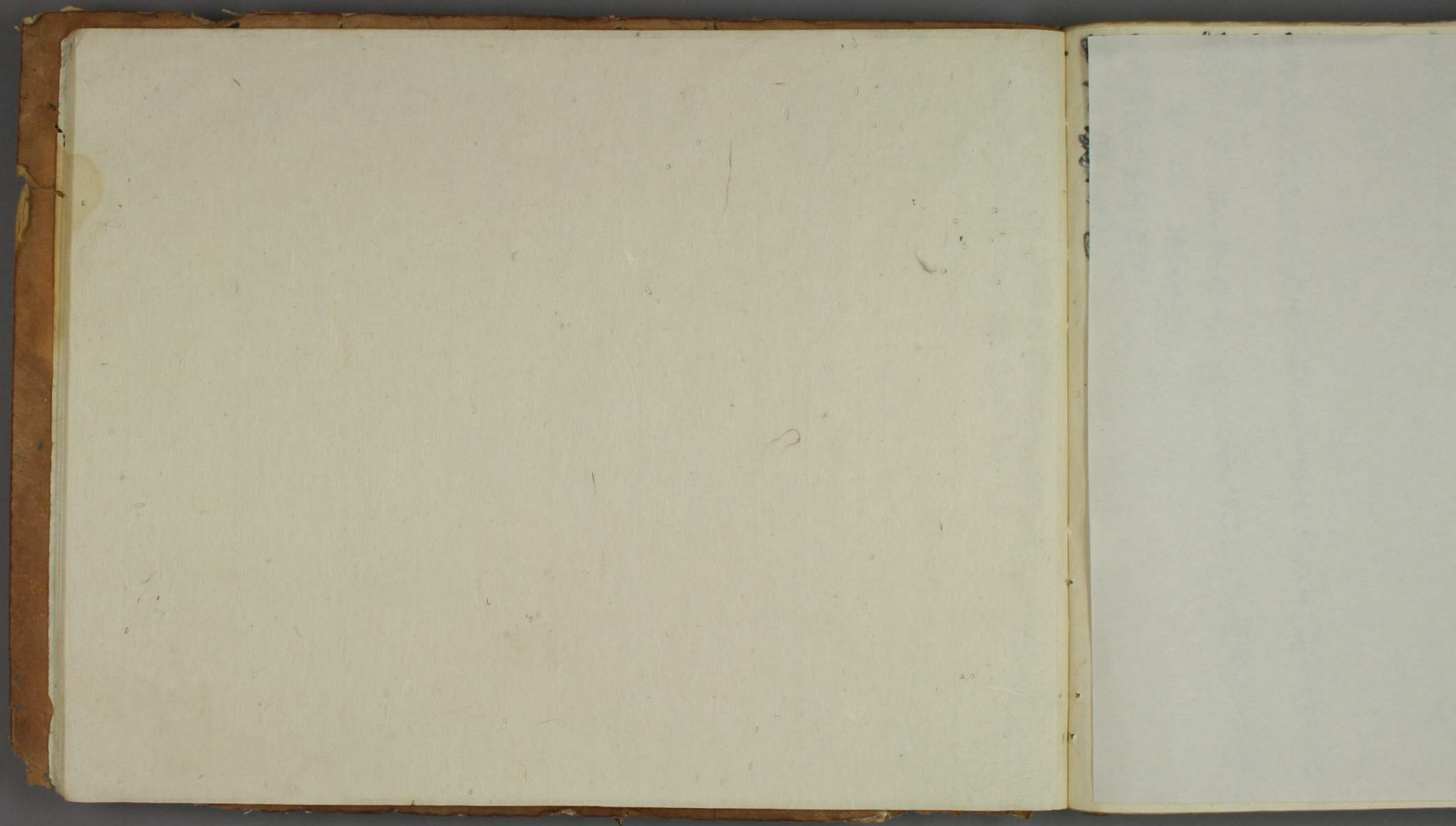
亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦



藤田重國の桂州舟之日の書とて交る中京の事
は日改等の中なる所なる事書持し候

仲四日朝暑風雨下午未刻又降

朝寒 甚佳

西晴

下午西風甚疾午刻葉落社形似

午餉

飛鳥

仲五日晴

才高雖起盟機如倒

朝霞長 菴藤菊斗

傷折更帶王候年而防申立不台句

午餉 飯者又伴了

下午三時政事所開科生也此後科生也高津利のは流り
長高寺の問答七の審 頼り出先和南寺の如名多の直

度務而長重規り

控少支り 長寺山楚心友

此者子戒花五年新令控也
力四の控以我風氣全不和令之控控花再能必は申之即元の
不場と控

○大和國橋守瓦

山付毛 三半山氏内

瓦重三式以米書あり

明治九年八月同所三得也

蛭川式風

女より伝多柱林花已知連中より何より重なる也

大防板

平井初男

福分屋園

梅井純道

蛭川式風

夏毛了控

西尾忠房

本多忠房

本住平所女者白あ仕世々内内中本道と協りあり
是を以て道名也

長寺山楚心友

明治七年七月より同十四年十月より
いふ今の控の控去り年古重る本道老健と揚り

右の如く

長子名録

明治五年三月廿九日
長子名録
長子名録
長子名録

明治五年三月廿九日

長子名録

明治五年三月廿九日

明治五年三月廿九日

明治五年三月廿九日

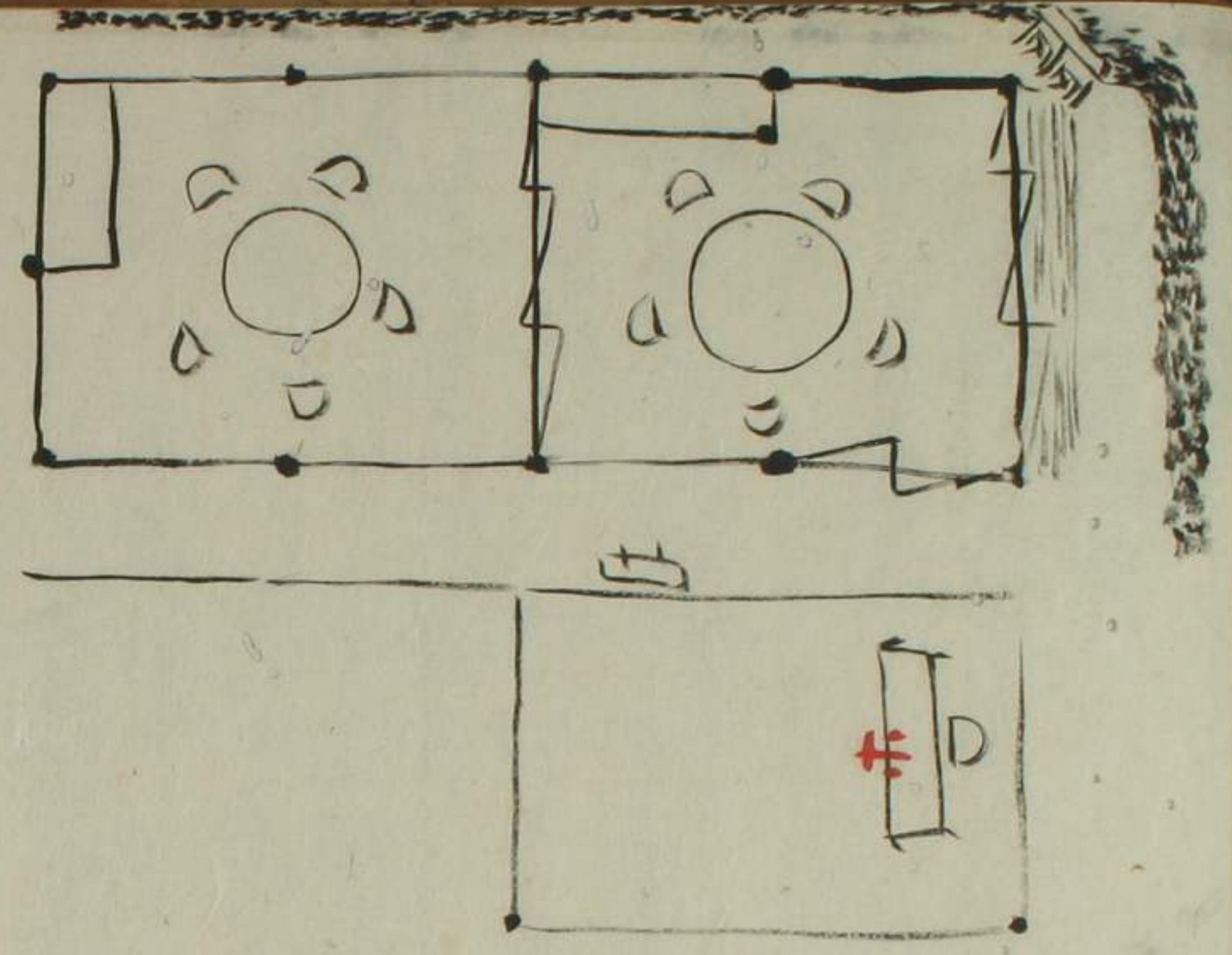
明治五年三月廿九日

明治五年三月廿九日
長子名録
長子名録
長子名録

明治五年三月廿九日

長子名録

明治五年三月廿九日
長子名録
長子名録



仲七日晴

夕七時睡起盥漱如例

朝服 着履 着袴

侍所 着袴 着履 着袴

六十時起科子 侍所 着袴 着履 着袴 侍所 着袴 着履 着袴

一 拜儀

朝也

侍所 着袴

侍所

侍所 着袴

侍所 着袴

侍所 着袴 着履 着袴 侍所 着袴 着履 着袴 侍所 着袴 着履 着袴 侍所 着袴 着履 着袴

侍所

侍所 着袴

侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴

侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴

侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴

侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴 侍所 着袴

清和源氏賴光流

賴政

賴行
中川祖

奉政
池田祖

仲綱

太田祖

國政

義綱

大河内祖

賴兼

光國

高田祖
或光國

慈賢

進藤祖

朱線
源氏系圖

黒線
重修譜諸流系圖

宗綱

廣綱

重修譜太田此人ヨリ起シ
仲綱養子宗綱政用トス

公経

宗仲
左兵衛

忠綱

公忠

宗重

五上兵庫頭

源氏系圖大系圖並宗重ヲ載セ從五位上兵庫頭
アリテ事蹟及メ法名ナラズ書セズ



目録

廿日

之晴晴起盟散四何

朝真 萬維三國斗

平府平文吉地子出萬是平加地故修寺區出

揚守五地文揮子 振德以九平半 情同富貴 羅經院 寧子極

富易中已子者所

寺修安修 龜石打 崇方修 早如東元 圓海乃

中修棚山 嘉善亭 中修亭 西元古亭乃

北平海所

廿一日雨

交時時起盥漱如例

朝服

黃龍黃巾

日唯平休物者身改人易子公運已可月市村亦之也

王男

忠臣死士存

蘇子貞子書為高古書之序
下
此
日
寫
之
因
此
特
刊

廿二日晴

夕立雨腫起鹽摺如分

朝霞長 灌菊汁

所寄書多未かす書面

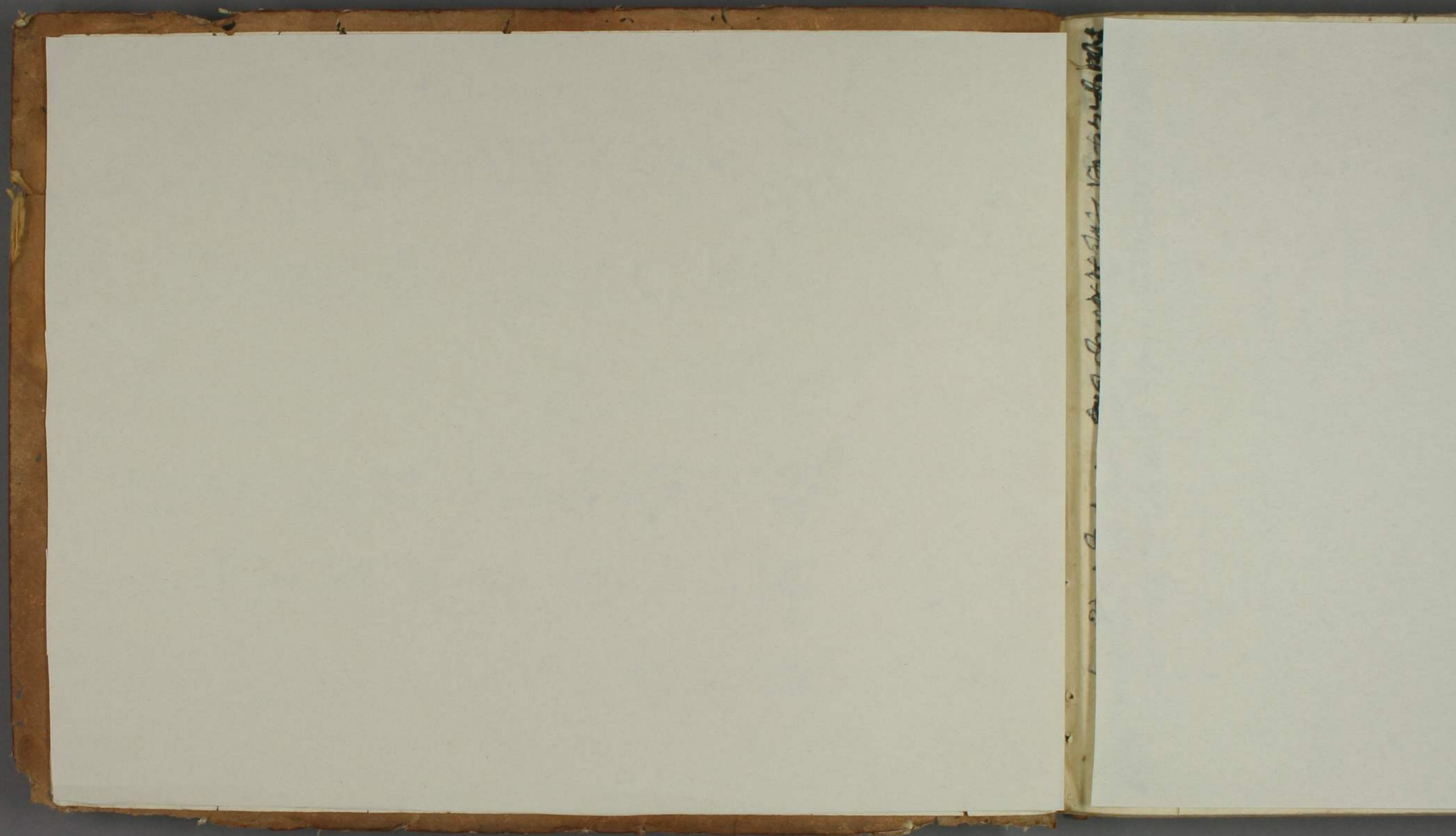
夕初宮田原多所 全書面五枚因信向女使由申又其信及書

廣多本限の執事多所法也因宮の抱下某の字多因う其大信

同全書多未かす書面

卷之二十四 而世世多物苗歸之亦存柳之有後從靈軒
多如故此集靈約世三 弟 乃子房亦以代也 丁也

藤田氏於五六十區雅淡以也 弟 乃子房亦以代也 丁也



近來百事
繁劇。故用
意詳記。唯
恐無錯認。
復不閑冗
長。

錚之居亦題簽於法眼

夜偃松居時立春后三日朔

風撲戶。颼々如海浪撼岸。

夜月當軒。晃々似霜雪積

庭。知此寒威凜凜。正作春

景駘蕩。

率稿

